目次

2026年度 開講科目一覧

科目		担当講師	ページ
		◆教員養成課程／保育士養成課程の運営方針（3つのポリシー）	2〜4
教養科目	日本国憲法	竹原 有基	5
	体育（理論）	井口 恵子／高見 悠佑	6・7
	体育（実技）	井口 恵子／高見 悠佑	8・9
	外国語コミュニケーションⅠ	ケビン・フェニー・マギー・マシュー／ペ	10・11
	外国語コミュニケーションⅡ	ケビン・マギー・マシュー	12
	情報処理	石﨑 隆嗣	13
	キリスト教概論	貴田 和子	14
	保育ゼミⅠ	小玉 絹江・後藤 ゆかり・土井 美紗緒・松本 佳代子・石﨑 隆嗣	15
	保育ゼミⅡ	浅井 忍・小玉 絹江・後藤 ゆかり・土井 美紗緒・松本 佳代子・吉田 八重子・マギー	16
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	丹野 萌成	17
	教育原理	中村 早苗	18
	子ども家庭福祉	田家 英二／永井 亮	19・20
	社会福祉	堀江 久子	21
	子ども家庭支援論	小玉 絹江	22
	社会的養護Ⅰ	野々山 貴／森脇 晋	23・24
	保育者論	木村 悠希	25
	地域福祉	宮路 雄大	26
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	小沢 恵美子	27
	子ども家庭支援の心理学	長田 美穂／前川 洋子	28・29
	子どもの理解と援助	小玉 絹江	30
	子どもの保健	細谷 光子	31
	子どもの食と栄養Ⅰ	宮木 弘子	32
	子どもの食と栄養Ⅱ	宮木 弘子	33
	児童館の機能と運営	村山 正浩	34
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	村山 正浩	35
保育の内容・方法に関する科目	保育・教育課程の意義と編成／保育の計画と評価	松本 佳代子	36
	保育内容総論	松本 佳代子	37
	保育内容指導法 健康／保育内容演習 健康	山本 真理子	38
	保育内容指導法 人間関係／保育内容演習 人間関係	丹野 萌成	39
	保育内容指導法 環境／保育内容演習 環境	岩田 大	40
	保育内容指導法 言葉／保育内容演習 言葉	吉田 裕子／吉田屋 幸子	41・42
	保育内容指導法 表現／保育内容演習 表現	森脇 環帆・名取 初穂	43
	子どもの音楽表現	神崎 由布子／田中 麻夜	44・45
	子どもの造形表現	森脇 環帆・名取 初穂	46
	子どもの身体表現	田中 麻夜	47
	保育方法・技術演習Ⅰ	浅井 忍	48
	保育方法・技術演習Ⅱ	浅井 忍	49
	乳児保育Ⅰ	横山 正美	50
	乳児保育Ⅱ	横山 正美	51
	子どもの健康と安全	細谷 光子	52
	特別支援保育Ⅰ／障害児保育Ⅰ	吉田 八重子	53
	特別支援保育Ⅱ／障害児保育Ⅱ	吉田 八重子	54
	社会的養護Ⅱ	野々山 貴／森脇 晋	55・56
	子育て支援	川﨑 理香／永井 亮／山本 真理子	57･58･59
	子どもの人間関係	岸 久美子	60
	子どもの環境	有村 もと子	61
	子どもの言葉	吉田屋 幸子	62
	子ども理解	横山 正美	63
	子どもの造形表現Ⅱ	森脇 環帆	64
	音楽Ⅰ	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子	65
	音楽Ⅱ	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子	66
	音楽Ⅲ	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子	67
	音楽Ⅳ	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子	68
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）	土井 美紗緒	69
	保育実習Ⅰ（施設）	有村 もと子・石﨑 隆嗣	70
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	土井 美紗緒	71
	保育実習指導Ⅰ（施設）	有村 もと子・石﨑 隆嗣	72
	保育実習Ⅱ	土井 美紗緒	73
	保育実習指導Ⅱ	土井 美紗緒	74
	保育実習Ⅲ（施設）	有村 もと子	75
	保育実習Ⅲ（児童館）	小玉 絹江	76
	保育実習指導Ⅲ（施設）	有村 もと子	77
	保育実習指導Ⅲ（児童館）	小玉 絹江	78
総合演習	保育・教職実践演習Ⅰ／保育実践演習Ⅰ	川﨑 理香／木村 悠希／土井美紗緒	79・80
	保育・教職実践演習Ⅱ／保育実践演習Ⅱ	阿江 美知代・松本 佳代子／川﨑 理香	81・82
独自科目	園芸Ⅰ	高浜 真理子	83・84
	保育・教育相談の基礎と方法	前川 洋子	85
	キリスト教保育	菅原 陽子	86
	教育社会学	江川 栄一	87
	保育総合教養	各 担当講師他	88〜91
教育実習	教育実習	祐成 かおり／三田村 千穂	92・93
	教育実習演習（事前事後指導）	祐成 かおり／三田村 千穂	94・95
		◆教育課程	96〜98

教員養成課程／保育士養成課程の運営方針

学校名：草苑保育専門学校
学科名：幼稚園教員・保育士養成科
取得可能な教員免許状：幼稚園教諭二種　（指導大学：青山学院大学）

建学の理念

キリスト教の精神を教育の理念とする。

本校は、1954 年にキリスト教に基づく保育者の養成校を求める全国のキリスト者の声に応えて、キリスト教保育連盟のリーダー達により、日本キリスト教団原宿教会の中に「原宿高等保育学校」が設立されたことを起源としている。
専門的な知識と技術を身につけた、人間性豊かな保育者を育て、世に送り出すことを願って、設立当初より建学の理念を「キリスト教の精神を教育の理念とする」としている。これは、幼児教育の源流が、幼児の人格・人権に光を当てたキリスト教の世界にあり、キリスト教の精神を学ぶことにより、より深い保育者となることを願ってのことである。
キリストは、幼子に人格を認めず、数にも入れなかった時代に、幼子も神によって命を与えられた存在として、神と人々の愛と恵みの中で人々を愛して育っていくことを願った。旧約聖書の時代の預言者はそのキリストを「傷ついた葦を折ることもなく、暗くなってゆく灯心を消すこともない」優しさと表現した。
本校は、この精神のもと、音楽をはじめとする保育の技を身につけた保育者を教育することを目指す。特に短大・大学に認められている教職課程（幼稚園教諭 2 種免許）を与える認可校として、求められる教育内容を徹底することはもとより、専門学校として現場の技術を徹底して習得することを目標としている。

スクールモットー

信仰・希望・愛
祈り

創立 60 周年を機会に、本校は上記のスクールモットーを定めた。
新約聖書の「コリントの信徒への手紙 1」13 章 13 節には、「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」とある。ここから、保育者として大切な心の働き「信じること、希望を持つこと、愛すること」を挙げ、それらを実現するために不可欠な「祈り」を土台としたものである。

３つのポリシー

建学の理念・スクールモットーを基に、以下の３つのポリシーを定めた。

①アドミッション・ポリシー

本校の教育理念を理解し、学びを通して専門的な知識と技術を身につけた人間性豊かな保育者となるために、次のような意欲と情熱を持った人を求める。

・高等学校までの基礎学力のもと、保育のプロとなるために専門知識を自ら学び、社会に貢献したいと考えている人。
・子どもや支援を必要としている人々､それらを取り巻く人々･仲間と適切にコミュニケーションをとり、思いやりを持って行動できる人。
・協調性をもって他者と関わり、周囲と共に学ぼうとする人。

②ディプロマ・ポリシー（認定・専門士授与の方針）

本校の教育は､｢キリスト教の精神を教育の理念とする｣という建学の理念に基づき､家庭や地域社会、その他の機関や専門家、行政と連携や協力をして、社会全体の未来についても考え、その上で保育の対象であるかけがえのない子どもたち、人々一人ひとりが、より良く成長し生きていくことを支えるための行動ができるよう、専門性・社会性・人間性を身に付けることを目標としている。
そのため本校の定める課程を修了し以下の資質･能力を一定の水準で獲得した者について卒業を認定し、専門士（保育専門課程）の称号を授与する。

専門性

保育者としての倫理観を持ち、対象への共感的理解に努め、具体的な援助や支援の内容を計画し知識と技術と経験をもって適切に実践できる。

社会性

社会を構成する一員であるという自覚のもと、その場で起こる問題、社会的問題に関心を持ち、それらを解消するために様々な社会資源と連携し他者への思いやりを持っていきいきとかかわり主体的に考え行動できる。

人間性

精神的に自立し、継続的に向上心を持って自己発展に努め、社会全体や他者のために何が最善かを考え、判断し行動し、信頼関係を構築することができる。

③カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標達成のための講義、演習、実習等を適切に組み合わせた科目及び教育課程を編成する。
2 年間での幼稚園教諭 2 種免許、保育士資格の取得のための必要な科目を体系的かつ系統的に配置し、学習目標を明確にするため、各科目で身につける能力を「カリキュラムマップ」、学習内容の体系、科目間の履修系統を「カリキュラムツリー」を作り、示す。なお学習成果については、シラバスに記載された方法により評価する。

育成する人材像

教員資格の付与が短大、大学のみに限られている中で、本校は 2 年間の教育で幼稚園教諭 2 種免許状を与えることが文部科学省から認められている「指定教員養成機関」である。また、「保育士資格」についても厚生労働省から国家試験なしで付与することが認められている。
それに応えて現場（幼稚園、保育園、施設等）が求めている即戦力になる人材の教育を展開することが本校の使命であると考えている。
本校では、そのために専門的な知識と技術を身に付けた、人間性豊かな保育者を育成することを目標としている（本校「アドミッション・ポリシー」から）。
　これを具体的な保育者像として示せば、次の 4 項目となる。

①子どもや支援を必要としている人のために、自分の力を発揮できる人。
　②子供を取り巻く人々・仲間と、コミュニケーションをとり、思いやりを持って行動する人。
　③自主性と責任を持って行動し、社会に貢献する人。
　④保育のプロとなるために常に学ぶ努力を惜しまない人。

そのために必要になってくるのは、「保育者に求められる実践的な知識・技術の習得」「保育者としての総合力」「自主性の涵養」である。
　2 年間の履修により「保育者」として現場に立たなければならない本校の学生に求められるのは、しっかりとした実践的な知識・技術を身に付けることである。その覚悟を一人一人が持つと同時に、その覚悟を支える知識・技術を教える。
　同時に、保育の現場で求められる総合的な人間力（他人を理解する力、危険を予知する力、一人の社会人としての教養等）を身につけることが必要である。
保育の現場にはさまざまな形態があるが、共通しているのは保育者が単独あるいは少人数で、予測の難しい被保育者の変化、要請に対応することである。そのためには一人ひとりの自主性が何よりも重要であり、2 年間の教育課程で、「教育・援助を受ける者」から「教育・援助をするもの」への意識、行動の変容を訓練する。

開講年次： 1 年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	日本国憲法
担当教員	竹原 有基
授業概要	教育基本法が「日本国憲法の精神にのっとり」制定されたように、日本国憲法は教育関係法規の根幹をなす。本校は幼稚園教諭・保育士の養成校であり、これから子どもに関する法律を学ぶうえで、「個人の尊厳」や「基本的人権」など憲法の理念がどのように子どもを守っているのかを理解することが重要である。本講義では、憲法（および子どもに関する条約・法律）を学ぶ意義を考え、子どもの権利・人権擁護を重視する保育の基盤を築くことを目的とする。 授業は主に講義形式で進めるが、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、学んだ内容を深める機会を設ける。教育・保育に関わる事例や判例、最新の憲法に関するニュースを取り上げ、子どもの権利を尊重する保育のあり方について多角的に考察する。また、映画・ドキュメンタリー・CM などの映像を活用し、憲法をより身近に感じられるよう工夫する。
授業の到達目標	・保育者にとって日本国憲法を学ぶ意義を理解する。 ・子どもの権利、子どもの人権擁護を大切にする保育を考えるための基本を身に付ける。 ・「子どもの最善の利益」に関するさまざまな法律は日本国憲法からの派生であることを理解する。 ・「個人の尊厳」や「基本的人権」を尊重することは、子どもと接する際にどう関わっていくかを理解する。 ・日常の中や教育・保育の現場で日本国憲法がどう活かされているのかを知る。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 日本国憲法が教職課程必修科目になっている意味、憲法を守るのは誰なのか、法学をどのように学ぶか
2	エンターテインメントと日本国憲法 身近なものから考える／音楽、映画、アニメなど／ディズニーで考える
3	子どもの声を聴くってどういうこと？ こども基本法、こどもの権利条約、「こどもの権利、なんでやねんすごろく」をやってみる。
4	基本的人権の尊重 障害の福祉モデル／ブラック校則／ジェンダー論基礎
5	人権について 人権の多様性と限界、子どもの権利、教師と人権について、いじめと人権、幸福追求権と新しい人権
6	「平等」「差別」とはどんなことか 法の下の平等個人の尊厳、基本的人権
7	「自由」とはどんなことか 自分らしく生きるための心の自由、思想・良心・信教の自由、表現の自由、自由の限界とヘイトスピーチ、著作権
8	多様性の前進と揺り戻し － 憲法 14 条から読み解く〈バックラッシュの時代〉
9	「教育」と「自由」の関係 機会均等と教育格差、教育を受ける権利と義務教育、教師の教育の自由、大学の自治、学問の自由
10	子どもの貧困を考える
11	平和主義－第９条と日本国憲法前文
12	国民主権と参政権 政治の主役と“檻の中のライオン”、18 歳の投票権、選挙権、国会と内閣憲法改正、権力分立（三権分立）
13	憲法改正、地方自治
14	行政権と司法権（裁判員制度）、身体的自由－警察に捕まってしまった場合／ AI と憲法
15	まとめ・試験について

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・暮らしの中で憲法、特に子どもの人権や「個人の尊厳」や「基本的人権」を意識するよう心がける。 ・インターネット、TV、新聞等で憲法に関わる記事を注視する。AI と憲法の関係を考える。 ・インクルージョンやダイバーシティといった考え方と憲法がどう関係するかを考える。
テキスト	なし（講義内で適宜配布）
参考文献	芦部信喜著 , 高橋和之補訂 , 2023,『憲法 第八版』岩波書店 . 内山奈月・南野森，2014,『憲法主義 条文には書かれていない本質』PHP 研究所. 斎藤一久・西原博史編著，2024,『教職課程のための憲法入門〔第３版〕』弘文堂. 斎藤一久・堀口悟朗編 , 2021,『図録 日本国憲法 第２版』弘文堂 . 橡大樹 , 2016,『檻の中のライオン』かもがわ出版 南野森，2017,『10 歳から読める・わかる いちばんやさしい 日本国憲法』東京書店. 山元一編 , 2023,『トピックから考える日本国憲法』北大路書房 . 雑誌『法学セミナー』（日本評論社）、『法学教室』（有斐閣） 他、講義内で適宜紹介する。
学生に対する評価	定期試験：70% 受講姿勢（授業態度・レポート・グループワークや発表への貢献度）：30%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 幼保 1/ 保 2	時間数： 幼保 15/ 保 30	授業形態： 講義

科目名	体育（理論）
担当教員	井口 恵子
授業概要	健康とは何か、運動・安全確保の方法や、生涯を通じて楽しく怪我無く動ける体の基盤を作る要因を学ぶ。
授業の到達目標	自分達の体のしくみを知り、おかれた環境の中で適切に対応できる基本的な要素を学び、健康で安全な体育活動ができる保育士を目指す。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 私達の体 - 骨と筋肉①
2	私達の体 - 骨と筋肉②
3	私達の体 - 骨と筋肉③
4	健康と運動
5	運動と遊び
6	運動遊びの指導法①
7	運動遊びの指導法②
8	ストレスと休養①
9	ストレスと休養②
10	トレーニングとは
11	救急処方と安全管理①
12	救急処方と安全管理②
13	救急処方と安全管理③
14	運動遊びの指導計画①
15	運動遊びの指導計画②

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	事前学習は特に必要ないが、どんな事を学習するのかは把握しておいて欲しい。 配布したプリントはきちんとファイリングしておくこと。
テキスト	プリント配布
参考文献	（1）前橋明編著，2017,『幼児の体育 - 動きを通して心を育む』建帛社. （2）井上勝子編著，2020 改訂,『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社. （3）岩崎洋子編，2018.9,『保育と幼児期の運動遊び』萌文書林.
学生に対する評価	・定期試験結果：70% ・受講姿勢：20% ・提出物：10%
実務経験のある教員による授業科目	・1986 年 4 月～ 2015 年 3 月まで　㈶児童育成協会こどもの城　主任指導員として体育・水泳指導（対象 0 歳～） ・2015 年 4 月～現在　児童館・母子支援センター主催の親子体操や運動あそび、地方自治体・NPO 主催の指導者講習会の指導

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 幼保 1/ 保 2	時間数： 幼保 15/ 保 30	授業形態： 講義

科目名	体育（理論）
担当教員	高見 悠佑
授業概要	幼児期の運動遊びによる心身への効果や発達特性に見合った実践の意義やねらいを理解する。また，生涯を通じて運動を日常的に取り入れることの重要性を体感して，運動に親しむ資質や能力の基礎を養う。幼児期の体つくり運動や運動遊びを自主的に展開するための具体的な内容や方法を理解し，基礎的な知識と技能を身に付ける。
授業の到達目標	幼児体育（理論）の担う役割について理解し，現在の子供たちの生活に，運動を積極的に導入してくれる保育者（指導者）の養成を目指す。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	シラバスを確認して授業の概要等を共有する。 幼児体育とはーその意義と役割ーについての知識・理解を深める。
2	近年の子供のからだの異変とその対策についての知識・理解を深める。
3	子供の生活と運動・子供の発達と運動についての知識・理解を深める。
4	幼児にとっての運動の役割と効果についての知識・理解を深める。
5	固定遊具とその使い方，養うことのできる能力についての知識・理解を深める。
6	運動へのつまずきと子供への対応についての知識・理解を深める。
7	運動会の歴史と企画・運営についての知識・理解を深める。
8	障がい児の体育指導・発達障がいの体育についての知識・理解を深める。
9	幼児期の栄養と運動についての知識・理解を深める。
10	安全対策とリスクマネージメントについての知識・理解を深める。
11	子供の事故と安全についての知識・理解を深める。
12	固定遊具の利用とその安全についての知識・理解を深める。
13	遊具安全点検（劣化）・遊具別劣化点検のポイントについての知識・理解を深める。
14	指導者の役割と指導者としてのコミュニケーションスキルについての知識・理解を深める。
15	体育遊びの指導計画・指導案の作成についての知識・理解を深める。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	事前・事後学修は特に必要ありません。
テキスト	本講義では，パワーポイントを用いて授業を行います。 とりわけ，テキストの配付はありませんが，下記参考文献を読むことを推奨します。
参考文献	前橋明編著，2017，『幼児体育　理論編』大学教育出版.
学生に対する評価	平常点 60%，小テスト 40%を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目	・2015 年4月~ 2024 年3月　小学校教諭 ・2024 年4月~　流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 45	授業形態： 実技

科目名	体育（実技）
担当教員	井口 恵子
授業概要	楽しく動くことを日常生活や遊びの中にどの様に取り入れられるかを学ぶ。 また、その為に保育士自身の体を整える事を目標とし、毎時間ストレッチや筋力トレーニングを行い基礎体力を高めていく。
授業の到達目標	・保育活動の中でも重要な運動遊びの楽しみ方を、身近にある道具や体そのものを使って習得する。 ・保育士となっても動ける体を作り、健康に対する意識をこどもにも伝えられるようにする。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション
2	組遊び・力遊び
3	鬼ごっこ①
4	鬼ごっこ②
5	用具：ロープ
6	用具：フープ
7	用具：紙
8	用具：布
9	用具：ボール①
10	用具：ボール②
11	用具：ディスク①
12	用具：ディスク②
13	作ってあそぼう
14	パラバルーン
15	実技試験

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	体調管理の徹底・基本的に当日見学は原則不可。 各自、授業後どんな活動をしたか記録しておくことを薦める。
テキスト	なし（但し、毎回運動着。運動靴着用厳守）
参考文献	実技例が出ているので参考に。 ・羽崎泰男，2006,『イラスト版からだあそび - こどもとマスターする 46 の体力づくり』合同出版. ・こどもの城体育事業部編著 ,1999,『イラストで見るスポーツ遊びで健康づくり』
学生に対する評価	・実技試験：60% ・受講姿勢：40%（服装や身支度、各項目への取り組みの態度）
実務経験のある教員による授業科目	・1986 年 4 月～ 2015 年 3 月まで （財)児童育成協会こどもの城　主任指導員として体育・水泳指導（対象0歳～） ・2015 年 4 月~現在　児童館・母子支援センター主催の親子体操や運動あそび、地方自治体・NPO 主催の指導者講習会の指導

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 45	授業形態： 実技

科目名	体育（実技）
担当教員	高見 悠佑
授業概要	幼児期の運動遊びによる心身への効果や発達特性に見合った実践の意義やねらいを理解する。また，生涯を通じて運動を日常的に取り入れることの重要性を体感して，運動に親しむ資質や能力の基礎を養う。幼児期の体つくり運動や運動遊びを自主的に展開するための具体的な内容や方法を理解し，基礎的な知識と技能を身に付ける。
授業の到達目標	幼児体育（実技）の担う役割について理解し，現在の子供たちの生活に，運動を積極的に導入してくれる保育者（指導者）の養成を目指す。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	シラバスを確認して授業の概要等を共有する。 準備運動やアイスブレイクについての知識・理解を深める。
2	身体表現・表現遊びについての知識・理解を深める。
3	伝承遊び・鬼遊びについての知識・理解を深める。
4	幼児体育とヨーガについての知識・理解を深める。
5	運動能力を高める基本運動についての知識・理解を深める。
6	親子体操・体力づくり運動についての知識・理解を深める。
7	身近なものを使った遊びについての知識・理解を深める。
8	用具を使った体育遊び，とりわけ，ボールを使った遊びについての知識・理解を深める。
9	用具を使った体育遊び，とりわけ，ボールを使った遊びについての知識・理解を深める。
10	用具を使った体育遊び，とりわけ，ロープを使った遊びについての知識・理解を深める。
11	用具を使った体育遊び，とりわけ，フープを使った遊びについての知識・理解を深める。
12	用具を使った体育遊び，とりわけ，ディスクを使った遊びについての知識・理解を深める。
13	用具を使った体育遊び，とりわけ，パラバルーンを使った遊びについての知識・理解を深める。
14	用具を使った体育遊び，とりわけ，パラバルーンを使った遊びについての知識・理解を深める。
15	グループで実技発表をする。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	ご自身で体調管理を行なってください。 なお，講義当日の見学は不可とします。 学修後に講義の内容をご自身でリフレクションしておくと良いと思います。
テキスト	テキストの配布は行いません。 なお，授業に参加される際は運動着・運動靴の着用を厳守してください。 運動着・運動靴の定義は以下の2点とします。 （1）身体運動を十分に発揮できるもの。 （2）安全に実技を行えるもの。
参考文献	前橋明編著，2017，『幼児体育　実技編』大学教育出版.
学生に対する評価 Student Evaluation	平常点 60%，実技テスト 40%を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目	・2015年4月～2024年3月　小学校教諭 ・2024年4月～　流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科

開講年次： 1 年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	外国語コミュニケーション I
担当教員	Maggie 小宮、Matthew Paff、Kevin Hui、fanny yip
授業概要	昨今グローバリゼーションにともない国際化がすすんでおり幼稚園・保育所にも外国籍園児及び保護者が増えてきている。その現場に対応するために保育現場で使う英語表現を中心に学ぶとともに外国籍園児増加の背景について国際理解の視点から学ぶ。 朝の挨拶、子どもへの指示、子どもの行動や問題などを保護者に伝える方法などさまざまな英語表現を身に付け、実際に使えることを目指す。
授業の到達目標	・様々な場面の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・保育における場面に応じて子ども及び保護者にむけて英語で話すことができる。 ・保育現場で英語を使ったゲームや歌など実践できる保育技術を学ぶ。 ・国際化にともなう背景を知り国際理解について認識を深める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	授業オリエンテーション 日本にいる外国人及び外国籍園児の現状と課題
2	Unit1:First Step to Childcare English 'What's your name?' ①
3	Unit1:First Step to Childcare English 'What's your name?' ②
4	Unit1: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session 1
5	Unit5:Davy meets his classmate Takashi 'Let's play with blocks' ①
6	Unit5:Davy meets his classmate Takashi 'Let's play with blocks' ②
7	Unit5: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session ②
8	①ゲストスピーカー②海外の幼児教育について
9	Unit6:Dropping Davy off and picking him up 'It's sunny today!' ①
10	Unit6:Dropping Davy off and picking him up 'It's sunny today!' ①
11	Unit5: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session ③
12	Unit8:Lunchtime 'Wash your hands, please' ①
13	Unit8:Lunchtime 'Wash your hands, please' ②
14	Unit8: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session ④
15	振り返りとまとめ（授業内試験）

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	教科書の内容をよく読んでおくこと。授業後復習するように。
テキスト	赤松直子著 久富陽子著 2024 『保育の英会話 childcare English』萌文書林
参考文献	・『くもんはじめてのえいごうたえほん』公文教育研究会英語教材部 ・宮田学 編 高橋妙子 著 S.J. クラーク 英文校閲 2022 年『保育英語の練習帳② 現場のエピソードで楽しく学ぼう！Lively English at Nursery Schools and Kindergartens』萌文書林
学生に対する評価 Student Evaluation	定期試験 60% 小テスト、提出物 30% 出欠席、授業態度 10%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	外国語コミュニケーションⅠ
担当教員	Pae Sookhee
授業概要	昨今グローバリゼーションにともない国際化がすすんでおり幼稚園・保育所にも外国籍園児及び保護者が増えてきている。その現場に対応するために保育現場で使う英語表現を中心に学ぶとともに外国籍園児増加の背景について国際理解の視点から学ぶ。
授業の到達目標	・様々な場面の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・保育における場面に応じて子ども及び保護者にむけて英語で話すことができる。 ・保育現場で英語を使ったゲームや歌など実践できる保育技術を学ぶ。 ・国際化にともなう背景を知り国際理解について認識を深める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	Orientation Unit 1: First Step to Childcare English ①
2	Unit 1: First Step to Childcare English ② Unit 2: Welcome To Minato Nursery School ①
3	Unit 2: Welcome To Minato Nursery School ②
4	Unit 3: Time and Numbers ①
5	Unit 3: Time and Numbers ②
6	Unit 4: Directions ①
7	Unit 4: Directions ②
8	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi ①
9	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi ②
10	Unit 6: Dropping Davy Off And Picking Him Up ①
11	Unit 6: Dropping Davy Off And Picking Him Up ②
12	Unit 7: Jobs At Nursery School ①
13	Unit 7: Jobs At Nursery School ②
14	Individual Presentation
15	Team Presentation/Recital

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	教科書の内容をよく読んでおくこと。授業後復習するように。
テキスト	赤松直子著　久富陽子著　2024 『保育の英会話　childcare English』萌文書林
参考文献	
学生に対する評価	Class Participation: 10% Vocabulary Test: 10% Team Presentation: 30% Individual Presentation: 30% Recital Participation: 20%
実務経験のある教員による授業科目	

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	外国語コミュニケーションⅡ
担当教員	Maggie 小宮、Matthew Paff、Kevin Hui
授業概要	昨今グローバリゼーションにともない国際化がすすんでおり幼稚園・保育所にも外国籍園児及び保護者が増えてきている。その現場に対応するために保育現場で使う英語表現を中心に学ぶとともに外国籍園児増加の背景について国際理解の視点から学ぶ。 朝の挨拶、子どもへの指示、子どもの行動や問題などを保護者に伝える方法などさまざまな英語表現を身に付け、実際に使えることを目指す。
授業の到達目標	・様々な場面の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えを理解することができる。 ・保育における場面に応じて子ども及び保護者にむけて英語で話すことができる。 ・保育現場で英語を使ったゲームや歌など実践できる保育技術を学ぶ。 ・国際化にともなう背景を知り国際理解について認識を深める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	授業オリエンテーション 日本にいる外国人及び外国籍園児の現状と課題
2	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School！ 'It's nice to meet you!' ①
3	Unit2: Welcome to Minato Nursery School！ 'It's nice to meet you!' ①
4	Unit2: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session 1
5	Unit9: Toilet dialogue 'Does anyone need to go potty?' ①
6	Unit9: Toilet dialogue 'Does anyone need to go potty?' ②
7	Unit9: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session ②
8	①ゲストスピーカー②海外の幼児教育について
9	Unit10: Fighting 'Takashi hit my head!' ①
10	Unit10: Fighting 'Takashi hit my head!' ②
11	Unit10: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session ③
12	Unit11: Injury and illnesses "What's the matter?" ①
13	Unit11: Injury and illnesses "What's the matter?" ②
14	Unit11: Review Class and multicultural communication「他文化コミュニケーション」session ④
15	振り返りとまとめ（授業内試験）

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	教科書の内容をよく読んでおくこと。授業後復習するように。
テキスト	赤松直子著　久富陽子著　2024『保育の英会話　childcare English』萌文書林
参考文献	・『くもんはじめてのえいごうたえほん』公文教育研究会英語教材部 ・宮田学　編　高橋妙子　著　S.J. クラーク　英文校閲　2022年『保育英語の練習帳②　現場のエピソードで楽しく学ぼう！　Lively English at Nursery Schools and Kindergartens』萌文書林
学生に対する評価	定期試験 60%　小テスト、提出物　30%　出欠席、授業態度 10%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1 年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	情報処理
担当教員	石﨑 隆嗣
授業概要	本科目では、保育現場における ICT（情報通信技術）の活用方法を学び、業務の効率化や保護者対応に役立てるスキルを習得することを目的とする。Word・Excel・PowerPoint の基礎を習得するとともに、生成 AI（Copilot）を活用した業務効率化と、そのリスクについて理解を深める。文書作成、データ管理、情報共有、保護者との連絡、緊急時対応など、保育現場で求められる ICT スキルを身につけ、実践的に活かせる能力を養う。 さらに、情報倫理や SNS のリスクについても理解し、子どもや保護者と適切なコミュニケーションを取るための知識を身につける。
授業の到達目標	・保育現場で必要とされる基本的な ICT ツール（Word、Excel、PowerPoint など）の操作スキルを習得する。 ・生成 AI を活用し、業務を効率化できるとともに、そのリスクについて理解する。 ・ICT を活用し、保育現場での情報共有やコミュニケーション手段（保護者連絡、園内情報共有）を適切に選択し活用できる。 ・情報倫理や SNS のリスクについての基礎知識を習得し、安全な ICT 活用ができるようになる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	授業オリエンテーションと ICT の基本 IT 教室の使い方、ICT の定義と保育現場での ICT 活用事例
2	PC 操作の基本と生成系 AI について PC の基本的知識、保育業務で使用する PC の選び方、Windows の使い方の基本（エクスプローラの使い方、ショートカットキー等）、タイピング演習、生成系 AI の基本的知識
3	観察実習における実習園の ICT 環境の振り返り①（グループワーク）
4	観察実習における実習園の ICT 環境の振り返り②（発表とまとめ）
5	基本ツールの活用① Word 基礎 + Copilot 活用（前編）生成系 AI の長所・問題点を知る。ICT を活用した文書作成について理解する。実際に Word を活用する。文書作成の基本、テンプレートの活用
6	基本ツールの活用① Word 基礎 + Copilot 活用（後編）生成系 AI を活用した業務文書の作成演習
7	基本ツールの活用② Excel 基礎 + Copilot 活用（前編）保育実践の場で ICT を活用した文書作成について理解する。実際に Excel を活用する。表計算ソフトの基本、テンプレートの活用
8	基本ツールの活用② Excel 基礎 + Copilot 活用（後編）生成系 AI を活用した業務資料の作成演習
9	基本ツールの活用③ PowerPoint 基礎 + Copilot 活用（前編）ICT を活用したプレゼンテーション用資料の作成について理解する。実際に PowerPoint を活用する。資料の作成、視覚的な工夫
10	基本ツールの活用③ PowerPoint 基礎 + Copilot 活用（後編）生成系 AI を活用した業務文書の作成演習
11	情報セキュリティとネットリテラシー：保育現場における情報セキュリティの知識と実践、ネットリテラシーの基本的な知識とリスク、特に SNS 活用に関して
12	保育現場における ICT を活用した業務支援ツールによる業務の効率化に関して
13	ICT 演習①（これまでの講義・演習のまとめ、及び Word 等のソフトウェアを活用した文書作成）
14	ICT 演習②（これまでの講義・演習のまとめ、及び Word 等のソフトウェアを活用した文書作成）
15	総括レポート（ICT 等を活用した業務環境の改善について提案）

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	まず「入力テスト」を実施し、学生にローマ字入力とタイピングスキルを自己認識してもらい、授業外での練習を促す。入力テストを複数回行い練習の成果を実感できる。 試験問題はおたより＋スライド作成のオリジナル問題を作成し、予習復習の徹底を指導することにより、保育現場で活かせる実践力が自然に身につくよう事前・事後の学習の習慣化を図る。
テキスト	保育者のためのパソコン講座 Windows10/Office2016 対応版 ㈱萌文書林
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価	定期試験結果：60%　授業への取り組み態度 40%　で総合的に評価
実務経験のある教員による授業科目	-

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	キリスト教概論
担当教員	貴田 和子
授業概要	聖書を中心に授業をすすめる。また、キリスト教全体についての幅広い内容を網羅するために教科書を使用する。礼拝への出席など積極的な参加を大切にする。
授業の到達目標	1、学校独自の科目として、本校の精神であるキリスト教についての基本的知識を養う。 2、聖書およびキリスト教思想を通して、人間像を学ぶとともに、人としての生き方を考える。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	草苑保育専門学校とキリスト教、礼拝、祈り、聖書について
2	旧約聖書①旧約聖書の構成、天地創造
3	旧約聖書②罪と罰
4	旧約聖書③族長物語
5	旧約聖書④モーセ物語
6	旧約聖書⑤律法・十戒について
7	旧約聖書⑥王国時代
8	旧約聖書⑦旧約聖書の歴史、預言者の働き
9	新約聖書①新約聖書の構成、イエスの誕生
10	新約聖書②イエスの歩み、たとえ話Ⅰ
11	新約聖書③イエスの時代の社会状況、たとえ話Ⅱ
12	新約聖書④たとえ話Ⅲ
13	新約聖書⑤イエスの教えその他、イエスの死と復活
14	新約聖書⑥使徒たちの働き、教会の誕生、まとめ
15	教会礼拝出席レポート2回分の提出（期限厳守）を授業出席にあてる

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	事前学習は、指定された事柄を準備し、授業に備えておくこと。 事後学習は、配布資料やテキストを確認し、登場人物や出来事などを整理しておくこと。
テキスト	1、聖書 2、落合建仁・小室尚子、2014、『聖書入門』日本キリスト教団出版局
参考文献	—
学生に対する評価	定期試験 60%、授業態度・提出物 20%、礼拝 20%（普段の礼拝、修養会、クリスマス礼拝）
実務経験のある教員による授業科目	日本キリスト教団正教師、キリスト教主義学校教員、児童福祉施設牧師・心理士・専門員

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	保育ゼミⅠ
担当教員	小玉 絹江、後藤 ゆかり、土井 美紗緒、松本 佳代子、石﨑 隆嗣
授業概要	高校の「総合的な学習の時間」（探究）で培った学びを発展させ、専門学校における課題解決や自己の生き方を考える力を養う。自己探求・対話・グループワークなどの活動を通じて、専門学校での学び方や、主体的に成長するための資質・能力を身につける。
授業の到達目標	・高校と専門学校の違いを理解し、学びの環境の変化に適応する。 ・専門学校の学生として、2年間を充実して過ごすための準備を整える。 ・授業を受ける上で必要な基礎知識や学習姿勢を身につける。 ・グループワークや発表の基本的なスキルを習得し、実践する。 ・自分自身とクラスメイトを尊重しながら、2年後の目標や未来像を描き、発表できる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	専門学校における学びの準備① オリエンテーション。自己紹介と発表・共有。専門学校での学びを考える。高校と専門学校の違い、ノートの取り方，図書館ガイダンス
2	自校教育 草苑保育専門学校を知る。設立の背景、歴史
3	子どもと音楽①
4	子どもと音楽②
5	子どもと音楽③
6	専門学校における学びの準備① 他者との協働
7	専門学校における学びの準備② 自分を知る。自分や相手を大切にする。良いところを認め合う。ハラスメントについて。
8	地域と保育①
9	地域と保育②
10	地域と保育③
11	文章の書き方 レポート作成、文献の調べ方・書き方
12	情報処理①
13	情報処理②
14	情報処理③
15	専門学校で過ごす2年間を考えてみる。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業内での指示に従うこと。
テキスト	随時プリントを配布。
参考文献	授業内で指示。
学生に対する評価	授業への参加・貢献度：50%、レポート：50%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	保育ゼミⅡ
担当教員	浅井 忍、小玉 絹江、後藤 ゆかり、土井 美紗緒、松本 佳代子、吉田 八重子、Maggie 小宮
授業概要	草苑学園が掲げる学生と大切にしたい素養を次の３つに掲げ、全授業を演習形式で進めていく。 1、草苑の保育 2、地域に開かれた保育 (池ビズ / 地域開放) 3、人とのつながりを大切にする保育
授業の到達目標	・草苑幼稚園の環境を通した保育を、園児と保育士の観察と関わり、授業の演習を通して学ぶ。 ・５領域の机上での学習を総合して、保育ゼミの演習で実際を学ぶ。 ・保育ゼミⅠの学びを基礎に、演習・実践へ応用する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション・授業概要の説明と進め方・草苑の保育紹介
2	保育実践① クッキング
3	保育実践② ネイチャーゲーム
4	保育実践③ ネイチャーゲーム
5	子育て支援 きらきらタイム第１回
6	子育て支援 きらきらタイム第２回
7	地域活動 町内会長連携【実践】
8	地域活動 町内会長連携【実践】
9	地域活動 町内会連携【実践】
10	保育実践④ クッキング
11	保育実践⑤ お店屋さん
12	保育実践⑥ お店屋さん
13	保育実践⑦ お店屋さん
14	保育実践⑧ お店屋さん
15	保育実践⑨ 草苑幼稚園：園児対象

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業内での指示に従うこと
テキスト	特になし
参考文献	厚生労働省，2017『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省，2017『幼稚園教育要領』フレーベル館
学生に対する評価	受講姿勢・実践発表 50%、提出物 50%
実務経験のある教員による授業科目	実務経験のある教員による授業科目：幼稚園教諭免許・保育士資格所持、現場経験者によるリレー授業

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	保育原理
担当教員	丹野 萌成
授業概要	保育の理念、保育の基本原理、保育の内容と方法、保育の思想と制度の歴史、保育の現状とこれからの課題という５つのテーマから、主として保育所保育に関する基本的な考え方（原理）を学び、保育所保育への理解を深める。
授業の到達目標	1. 保育の理念と概念、社会における環境の変化と保育のニーズについて理解できる。 2. 保育所保育指針の考え方、発達過程に応じた保育、保育実践の構成原理について理解できる。 3. 遊びと環境の条件について理解し、保育の環境作りや遊びの観察が出来る。 4. 保育実践における全体の計画、記録、ＰＤＣＡサイクルについて理解できる。 5. 保育の思想史、世界の保育・教育と日本の保育制度の歴史について理解できる。 6. 地域連携、保護者支援における保育士の役割を理解できる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	第１回　保育の理念と概念
2	第２回　社会における環境の変化とニーズ
3	第３回　福祉施設としての保育
4	第４回　保育所保育指針の考え方と発達段階
5	第５回　保育所保育指針のねらいと内容
6	第６回　遊びと環境①
7	第７回　遊びと環境②
8	第８回　遊びと環境③
9	第９回　保育実践における PDCA サイクル
10	第 10 回　保育の思想史
11	第 11 回　世界の保育と日本の保育制度の歴史①
12	第 12 回　世界の保育と日本の保育制度の歴史②
13	第 13 回　保育における地域連携
14	第 14 回　保護者支援における保育者の役割
15	第 15 回　保育者としての自分 / まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業の最初に前回の振り返りと、最後に今回のまとめを行う。 普段から保育、教育についての時事に興味を持つこと。
テキスト	池田隆英・上田敏丈・楠本恭之・中原朋生編著『改訂版・なぜからはじめる保育原理　第２版』建帛社 幼稚園教育要領　保育所保育指針
参考文献	保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領等。 必要に応じて、随時プリント配布、ビデオ教材を使用。
学生に対する評価	①定期試験　70%　　②受講姿勢、態度　30%
実務経験のある教員による授業科目	現職保育者の為、今現場で起きていることを踏まえながら勤務経験で得た知識、技能を伝えます。 他専門学校講義・保育実務経験 10 年、前期中等教育部活指導５年

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	教育原理
担当教員	中村 早苗
授業概要	教育に関する普遍的な理念および思想や歴史に関する基本的事項について理解する。その上で、保育者として教育についての基礎的な学びを深め、さらに、現代の子育てや子どもを取り巻くさまざまな問題に目を向ける。授業で学んだ内容について学習を深め、その理解を確認するために期末試験を行う。
授業の到達目標	教育は人間社会に固有の営みであり、人間が誕生し大人へと成長していく過程において、社会の一員として、自ら思考し判断することのできる人間を形成することである。人間の発達および人格形成において重要な役割を担う保育者となるために、教育の基本的概念を理解し、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、どのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	授業オリエンテーション ★小レポート①「授業アンケート1」 教育とは何か 1. 人間への問いと教育への問い
2	教育とは何か 2. 学ぶことと教えること
3	教育とは何か 3. 発達への助成的介入
4	教育とは何か 4. 教育と教化と形成
5	学校とは何か (1) 1. 学校の登場（学校や学習に関わる教育の思想）
6	学校とは何か (1) 2. 近代学校の性格（代表的な教育家の思想）
7	学校とは何か (2) 1. 近代以前の日本の学校
8	学校とは何か (2) 2. 日本の「近代化」と学校教育（家庭や子どもに対する教育の思想）
9	学校とは何か (2) 3. 日本の教育の新たな出発、その後の展開
10	日本における保育施設の誕生と成立
11	自校史教育（草苑保育専門学校の歴史） 期末試験の課題について復習する①
12	家庭の教育力と母性（3歳児神話、母性愛神話について考える） 期末試験の課題について復習する②
13	授業の可能性・学校の可能性（フィンランドの教育から学ぶ）★小レポート②
14	教育への権利と「子どもの権利条約」（グループワークを通して考える）★小レポート③
15	よりよい教育を求めて 現代の教育問題について考える（スマートフォンと子ども、保護者との関係づくり） ★小レポート④「授業アンケート2」

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	(1) 授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。授業時、各自プリントに必要事項を記入し、ファイリングすることで各自の授業ノートを作成して復習に役立てる。 (2) 必要に応じて授業内容を補足する参考文献のコピーを配布し、復習に活用する。 (3) 4回の★小レポートの記入を通して自分の学びについて振り返る。 (4) これまでの学びの中から期末試験の課題について復習する。
テキスト	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二，2016,『やさしい教育原理 第3版』有斐閣アルマ.
参考文献	(1) 小澤周三編，2010,『教育学キーワード 第3版』有斐閣. (2) 新井郁男・牧昌見編著，池内耕作・岡崎友典・西村史子，2011,『教育学基礎資料 第六版』樹村房.
学生に対する評価	(1) 授業時の小レポート：10% (2) 授業ノートの作成および提出：10% (3) 期末試験：80%
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園教諭としてキリスト教保育を実践した。 学芸員としてキリスト教主義学校の年史編纂に携わった。

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	子ども家庭福祉
担当教員	田家 英二
授業概要	少子・高齢化の進行とともに、子どもや家庭をとりまく問題が複雑化してきているなかで、子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した「子ども家庭福祉」への転換が求められるようになってきています。そのような社会状況の変化を踏まえて、「子ども家庭福祉」の理念や歴史、法制度に関する知識についての理解を深めます。講義内容は、現代社会における子どもや子育て家庭の現状、子ども家庭福祉の理念、歴史、法体系と制度・サービスの現状などについての解説をします。そのうえで、今後の課題と対応について考えていきます。 質問は、授業終了時に受け付けます。
授業の到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	社会福祉の理念と考え方－子どもと家族が直面している課題 ―社会福祉の過去と現在―（石井十次の紹介）
2	児童福祉の理念と概念 ―輝く子どもたちの権利―（糸賀一雄の紹介）
3	現代社会の子どもと家族の生活 ―現代社会の働き方と保育の必要性―（待機児童対策）
4	子どもの権利と生活の課題 ―親の就労と子どもの生活―
5	子ども家庭福祉の法制度と実施機関 ―保育所、乳児院、母子生活支援施設等―
6	児童福祉施設の現状と専門職を理解する ―児童養護施設と職員の仕事を知る―
7	少子化対策と保育施策 ―子ども・子育て支援制度を理解する―
8	母子保健と子育て支援 ―赤ちゃんの命を守る―
9	多様な保育ニーズ ―ひとり親家庭に対する支援を知る―（就労支援と経済的支援）
10	児童虐待を考える ―「なぜ」「どうして」そして「どうする」―
11	社会的養護の意義 ―社会的養護ってなんだろう―
12	障がいのある子どもの理解 ―子どもと障がい児の交流から考える―
13	児童発達支援と専門職の支援方法 ―事例学習―
14	「子どもの最善の利益」を考える ―少年非行の「なぜ」、子どもの貧困の「どうして」―
15	子ども家庭福祉の動向と展望 ―次世代育成支援と子ども家庭福祉の将来―

定期試験期間における試験	定期試験実施
事前・事後学習の内容	事前学習：各授業の内容を理解するために事前にテキストを読んでおく。 事後学習：各授業の後、興味・関心のあることについて書籍やインターネットで調べ、ノートにまとめる。
テキスト	『輝く子どもたち子ども家庭福祉論』【第3版】（2025年3月発行）予価2,400円（税別）
参考文献	授業内で適宜お知らせします。
学生に対する評価	定期試験100% 授業での意見交換や質問などの参加態度を加算して総合的に評価します。
実務経験のある教員による授業科目	福祉施設の勤務経験（12年）重症心身障害児施設、知的障害児・者施設で勤務。その後、「社会福祉学」「児童福祉学」の研究を行い、専門職の養成（保育士、介護福祉士、社会福祉士）に携わっている。

開講年次：	1年次春	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	30	授業形態：	講義

科目名	子ども家庭福祉
担当教員	永井 亮
授業概要	まず、毎授業で報道機関の特集記事や講師の社会福祉実践などの事例から、現在の人間社会で「児童・家庭」が直面する諸問題、その「非常に厳しい現実」をありのまま受け止めて、同情ではなく「共感的理解」を試みる。次に保育士による福祉の現場での援助に必要な各法律・制度・政策、相談援助体制の専門知識を習得する。その上で保育士として児童・家庭をめぐる諸問題の解決方法を探求する。なお、保育士は児童分野だけではなく、成人の分野でも活躍しているので、本授業では「女性保護」と「障害者福祉」も扱う。本科目は【課題解決型】の授業である。
授業の到達目標	①児童と家庭をめぐる社会変動を理解できる。 ②「幸せ」を意味する「福祉」の対象者の「こころ」を共感的に理解できる。 ③児童と家庭、女性、障害者の福祉に関する法律・制度・政策・相談援助体制と「児童の権利」について暗記・理解できる。 ④学習内容について「課題解決型」の思考でグループディスカッションや考察の論述ができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	児童の権利 子どもの権利擁護の歴史的変遷 /「日本国憲法」/「児童福祉法」/「児童の権利に関する条約」/「全国保育士会倫理綱領」
2	社会福祉とは / 児童福祉の諸問題① 社会福祉の基盤 / 社会福祉の概念 / 多死少子化社会 / 子どもの貧困 / ヤングケアラー
3	児童福祉の諸問題② 不登校 / いじめ / 児童の性被害 / ひとり親家庭
4	児童虐待① 児童虐待の実態 / 被虐待児の心の傷 / 被虐待児の行動特性 / 被虐待児への心の援助の枠組み
5	児童虐待②　虐待の世代間連鎖 / 代理によるミュンヒハウゼン症候群 / 子どもを虐待から護る法律
6	児童虐待③　児童相談所の機能 / 被虐待児を援助する児童福祉施設
7	母子保健 乳幼児揺さぶられ症候群 / 乳幼児突然死症候群 / 医療的ケア児 / 母子保健を担う相談援助機関 / 母子保健施策
8	女性福祉① ドメスティック・バイオレンス　DV の実態 / DV 被害者の心理と行動特性 / DV 被害者の保護に関わる制度と相談援助（司法・行政・社会福祉施設）
9	女性福祉② 内密出産 / こうのとりのゆりかご
10	少年非行① 少年非行の実態 / 少年非行の背景 / 少年非行の処分・相談援助に関する制度（司法・行政・社会福祉施設）
11	少年非行② 「少年法」/「少年院」/ 幼児期の非行の兆候と将来の非行予防のための保育士による相談援助
12	障害福祉① 障害児・障害者の定義 / 障害児・障害者への福祉制度
13	障害福祉② 障害児・障害者への相談援助機関（行政・社会福祉施設）/ 障害児・障害者の権利を護る法律・思想
14	死別を体験したこどもたち グリーフワーク、グリーフケア
15	第 1 回～第 14 回のまとめ 「児童の最善の利益」の保障のために

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	①毎日、新聞、テレビ、ネット、などで「人間社会の諸問題」に関する様々な記事を読み、関心を深めておく。 ②事前に配布する授業資料をもとに、次週授業の予習をしておく。 事後学習：毎授業の復習をする。 ★授業資料をとじるファイルを用意すること。資料はＡ３判両面印刷になっている。授業 15 回分で約 20 枚になる。
テキスト	使用しない ★毎回授業プリントを配布する。教科書を使用しないため、プリントは全約 20 枚になる。全てＡ３版の両面印刷である。
参考文献	山縣文治，2021，『保育者のための子ども虐待Q＆A - 予防のために知っておきたいこと－』 株式会社みらい
学生に対する評価	①受講姿勢・グループディスカッションまたはリアクションペーパー：30%　②定期試験：70%
実務経験のある教員による授業科目	児童養護施設の児童指導員、精神保健福祉センターの思春期専門ソーシャルワーカーとしての勤務を経て、大学･短期大学で社会福祉士･保育士の養成に携わっている。他に、国際協力活動、子ども食堂も行っている。自ら実践した施設養護や精神保健福祉の相談援助、貧困国の子どもたち、などの事例やエピソードも紹介し、「人間と環境との相互作用」の視点から講義をする。社会福祉士。

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	社会福祉
担当教員	堀江 久子
授業概要	社会福祉に興味がもてるように、制度等を分かりやすく解説する。 グループワークやゲストスピーカーの講義を取り入れて、社会福祉への理解を深める。
授業の到達目標	1 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3 社会福祉における相談援助について理解する。 4 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5 社会福祉の動向と課題について関心をもち、自分なりに考える。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	社会福祉とわたしたち 自分達のライフステージと社会福祉がどのようにかかわっているかについて学ぶ。 現代社会の生活問題と社会福祉 少子化の進行、子どもの貧困等の状況について理解する。
2	社会福祉の歴史的変遷と理念 イギリス、アメリカ、日本の社会福祉の変遷について学ぶ。 社会福祉の理念について、事例を交えて説明する。
3	社会福祉行政と実施体系 行政機関の実施体系と役割について学ぶ。児童福祉関係の施設が提供する具体的サービスについても理解する。
4	社会福祉と社会保障の制度 社会福祉の制度や社会保障についてのクイズ等を実施して学ぶと共に生活保護をめぐる議論について考える。
5	社会福祉の専門職 社会福祉の専門職及び社会福祉を支える民生委員、里親等についても学ぶ。
6	社会福祉行政と実施体系・社会保障の制度・社会福祉の専門職 ＊3～5回で学んだ社会福祉制度、実施機関の活用について、事例を基にグループワークで考える。
7	子ども家庭福祉と社会福祉 家庭支援の重要性や児童の権利に関する施策について学ぶ。 実際の児童虐待の事例を基に、家族への支援について考える。
8	共生社会の実現と障害者施策 ゲストスピーカー「障害のある保護者の立場から」授業
9	共生社会の実現と障害者施策 ゲストスピーカーの発言を振り返りながら、インクルージョン等の理念を考え、国際生活機能分類等を学ぶ。
10	少子高齢社会と子育て支援 少子高齢社会の現状と子育て支援策について学ぶ。グループワークを通じて、新たな子育て支援策について自分達なりに考える。
11	社会福祉における相談援助 相談援助の理論、方法や技術について学び、事例で相談者への対応を考える。
12	社会福祉における相談援助 １１回で学んだ相談援助の方法や技術をロールプレイで経験して、理解する。
13	社会福祉における利用者保護にかかわるしくみ 主に保育所等における情報提供、第三者サービス評価、苦情解決のしくみについて学ぶ。
14	社会福祉の動向と課題 現在　調整中
15	講義のまとめ 模擬テスト

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	社会問題や事件について、社会福祉の観点から関心をもち、考えること。 毎回、資料を配布するのでフォルダーを用意すること。
テキスト	一瀬早百合『社会福祉とわたしたち』2025年　第2版　萌文書林
参考文献	随時紹介する。
学生に対する評価	定期試験　80%　　受講態度、発表内容　20%
実務経験のある教員による授業科目	医療型障害児入所施設等でのソーシャルワーカー、社会福祉士の経験を活かしての講義

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	子ども家庭支援論
担当教員	小玉 絹江
授業概要	1. 子育て家庭を取り巻く問題を捉え、子ども家庭の意義と必要性を理解する。 2. 子ども家庭に対する具体的な支援方法を考え、事例検討やグループワークを通して現場　に即した実践力を身につける。 3. ソーシャルワークの視点を視野に入れて、子ども家庭支援に関する知識と支援の専門性を学ぶ。
授業の到達目標	1. 子育てをしている家庭のニーズに応じた多様な支援の意義や保育士等の役割について理解する。 2. ソーシャルワークの視点と子ども家庭支援への援助の基本を学び、保育者としてできる支援・アプローチについて理解する。 3. 子育て家庭への支援に関する連携のありようについて事例を基に理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 子どもの育ちにおける家庭と役割・現代家庭の課題から、子ども家庭支援の意義と必要性について考える。
2	子ども家庭支援の目的と機能 子ども家庭支援の基礎・現代における家庭の機能や子ども家庭支援における保育者の役割について考える。
3	保育者による子ども家庭支援の意義と基本　Ⅰ 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義について考える。
4	保育者による子ども家庭支援の意義と基本　Ⅱ 子どもの育ちの喜びの共有について考える。
5	保育者による子ども家庭支援の意義と基本　Ⅲ 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援について考える。
6	保育者による子ども家庭支援の意義と基本　Ⅳ 保育者に求められる基本的態度（受容的関り・自己決定の尊重・秘密保持等）について考える。
7	保育者による子ども家庭支援の意義と基本　Ⅴ 家庭の状況に応じた支援を考える。
8	保育者による子ども家庭支援の意義と基本　Ⅵ 地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力を考える。
9	子育て家庭に対する支援の体制　Ⅰ 子育て家庭の福祉を図るための社会資源について考える。
10	子育て家庭に対する支援の体制　Ⅱ 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について考える。
11	多様な支援の展開と関係機関との連携　Ⅰ 子ども家庭支援の内容と対象について考える。
12	多様な支援の展開と関係機関との連携　Ⅱ 保育所等を利用する子ども家庭への支援の実際を考える。
13	多様な支援の展開と関係機関との連携　Ⅲ 地域の子育て家庭への支援について考える。
14	多様な支援の展開と関係機関との連携　Ⅳ 要保護児童等及びその家庭に対する支援について考える。
15	まとめ 子ども家庭支援に関する現状と課題を考える。

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	子ども家庭支援についての基礎知識や、具体的支援に活用できる内容を把握できているか「把握シート」提出により確認する。 また、次回講義内容について予告した教科書の該当するカ所を一読して授業に臨むこと。 更に、配布したクリアーファイルに資料などをファイリングして情報を整理すること。
テキスト	●守功編著『子ども家庭支援論～保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす～』萌文書林 .
参考文献	●よくわかる保育士エクササイズ 12「子ども家庭支援論演習ブック」松本峰雄監修ミネルバ書房 ●一般社団法人全国保育士養成協議会監修 ,『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック 2026』中央法規出版 . ＊その都度資料配付あり
学生に対する評価	定期試験：60%　、授業姿勢・提出物：40%
実務経験のある教員による授業科目	公立中、高校生センター所長・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	社会的養護Ⅰ
担当教員	野々山 貴
授業概要	社会的養護Iの授業では、テキスト（図解で学ぶ保育　社会的養護I）を使用し”社会的養護の意義／歴史的変遷／子どもの権利擁護を基盤とした基本原則／制度と実施体系／対象と形態（家庭養護、施設養護）／関係機関や専門職の役割および現状と課題”についての内容を基軸として保育者として必要な実践的理解と支援方法を事例・演習を通して体系的に学習をする。社会的養護Ⅱへの接続も意識し理論的基礎を修得することを目的とする。
授業の到達目標	1. 社会的養護の意義と歴史的変遷を理解する。 2. 子どもの権利と最善の利益の視点から社会的養護の基本原則を理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系を整理し理解する。 4. 家庭養護と施設養護の特徴を比較し理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について保育者の立場から考察する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーションと社会的養護の全体像（テキスト・演習）
2	子どもの権利と社会的養護について（テキスト・演習）
3	社会的養護の歴史①（戦前から戦後）（テキスト・演習）
4	社会的養護の歴史②（現代と国際的な動向）（テキスト・演習）
5	社会的養護の制度と実施体系（テキスト・演習）
6	家庭養護（里親・養子縁組）（テキスト・演習）
7	施設養護①（乳児院・児童養護施設）（テキスト・演習）
8	施設養護②（心理治療・自立支援）（テキスト・演習）
9	社会的養護に関わる専門職と連携（テキスト・演習）
10	家庭支援とソーシャルワーク（テキスト・演習）
11	社会的養護と地域福祉（テキスト・演習）
12	被措置児童等虐待防止（テキスト・演習）
13	施設運営と倫理（テキスト・演習）
14	社会的養護の現状と課題（テキスト・演習）
15	まとめ（社会的養護Ⅱへの接続）（テキスト・演習）

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・各章の該当箇所を事前に学習し疑問点や論点を整理する。 ・”社会的養護”、”児童虐待”等に関するニュースなどの情報を日常的に意識し確認する。 ・授業後、演習・事例検討を振り返り学習したことと課題を整理する。 ・次の授業に向けて提示された課題について考えをまとめておく。
テキスト	図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ　杉山宗尚・原田旬哉編著　萌文書林
参考文献	適宜報告。 よくわかる社会的養護Ⅱ　小木曽宏・宮本秀樹・鈴木崇之編著　ミネルヴァ書房　ほか
学生に対する評価	定期試験 60 点　受講情況 40 点
実務経験のある教員による授業科目	テキストだけでなく保育・療育、社会的養護の現場での経験、実践を交えて一緒に学んでいきたいと思います。保育現場では、チームワークやコミュニケーションも必要とされます。授業を通してチームワーク能力も高めていけたらと思います。

開講年次：	1年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	30	授業形態：	講義

科目名	社会的養護Ⅰ
担当教員	森脇 晋
授業概要	今日、子どもを取り巻く環境は多様化複雑化し、保育所に通う園児の中にも社会的養護を必要とする子どもがいる。そこで、保育者としてどのような職場で活躍するにせよ、自身が関わる子どもの最善の利益を守るために必要な最低限の社会的養護の知識とマインドの習得を目指す。
授業の到達目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	〔講義〕・社会的養護って何？・児童福祉法における社会的養護の方向性 〔発展〕・「こうのとりのゆりかご」の視聴で、子どもの最善の利益を考える 〔教科書の関連箇所〕序章
2	〔講義〕・海外の社会的養護の歴史・日未のネ土会的養護の歴史 〔発展〕・石井十次と留岡幸助の関連動画で、先駆者逢の社会的養護への思いを学ぶ 〔教科書の関連箇所〕４章
3	〔講義〕・「施設養護」と「家庭養護」・社会的養護にかかわる機関と関連する法令 〔発展〕・児童養護施設の関連動画を視聴して施設で養護されることに関して考える 〔教科書の関連箇所〕１章１章２章４章
4	〔講義〕・措置制度とは・乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設 〔発展〕・乳児院の関連動画を視聴して措置を考える 〔教科書の関連箇所〕２章
5	〔講義〕・利用契約制度とは ・障害児入所施設・児童発達支援センター・母子生活支援施設等 〔発展〕・母子生活支戻施設の動画を視聴して考える 〔教科書の関連箇所〕３章
6	〔講義〕・一時保護所・シェルター等・施設に至るまでの経過 〔発展〕・施設に至るまでの事例を通して、社会的養護に繋がることを考える 〔教科書の関連箇所〕１章３章
7	〔講義〕・被虐待児等の人権擁護・社会的養護における虐待 〔発展〕・被虐待児等虐待の関連動画を視聴して子どもの人権擁護に関して考える 〔教科書の関連箇所〕該当章なし　*「子どもの権利ノート」を調べてみよう
8	〔講義〕・社会的養護に携わる人々・社会的養護の支援内容 〔発展〕・社会的養護に携わる人々の関連動画を視聴して、施設保育士を考える 〔教科書の関連箇所〕５章
9	〔講義〕・ジェネラリストソーシャルワーク・ファミリーソーシャルワーク 〔発展〕・社会的養護に関わる家庭の支援事例を元に、家庭支援に関して考える 〔教科書の関連箇所〕６章
10	〔講義〕・「里親制度」と「養子縁組制度」・里親支援 〔発展〕・里親の関連動画を視聴して、里親に関して考える 〔教科書の関連箇所〕７章
11	〔講義〕・施設・里親等の運営・施設等のリスクマネジメント 〔発展〕・第三者評価を閲覧して、施設等のリスクマネジメントに関して考える 〔教科書の関連箇所〕８章
12	〔講義〕・要保護児童対策地域協議会・自治体の取り組み・地域の取り組み 〔発展〕・地域における社会的養護への取り組み事例を考える 〔教科書の関連箇所〕該当章なし　*「要保護児童対策地域協議会」を調べてみよう
13	〔講義〕・社会的養護の課題と将来像・運営指針・新しい社会的養育ビジョン 〔発展〕・施設実習の振り返りから社会的養育の現状と制度設計の課題を考える 〔教科書の関連箇所〕該当章なし　*「社会的養護の課題と将来像」を調べてみよう
14	〔講義〕・社会的養護における倫理・施設職員の生涯研修体系 〔発展〕・専門職の倫理を守るために、アンガーマネジメント等を学ぶ 〔教科書の関連箇所〕該当章なし * 保育所保育指針の倫理綱領を読んでおく
15	1 ～ 14 回を通した振り返りを行う

定期試験期間における試験	1～15 回の内容の学修度を測る記述式の筆記試験を行う
事前・事後学習の内容	〔事前学習〕　各授業回の〔教科書の関連箇所〕に記載されているところを読んでおく 〔事後学習〕　授業中に提示される事後レポートに取り組む
テキスト	図解で学ぶ保育社会的養護 1(萌文書林)
参考文献	「子どもの権利ノート」「社会的養護の課題と将来像」「保育所保育指針」
学生に対する評価	事後レポート 30%、定期試験 70%
実務経験のある教員による授業科目	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験、自治体のこども家庭支援員の経験を元に、社会的養護の概念から最新動向に至るまでを、具体的な事例や動画を織り交ぜながら教授する。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	保育者論
担当教員	木村 悠希
授業概要	本授業では、乳幼児期の発達特性を踏まえ、 なぜこの時期の保育が人の一生にとって重要なのかを理解することを目的とする。 また、現代社会における保育の役割、保育者に求められる連携・協働、専門職としての保育者の在り方について学び、将来現場で「考え続ける保育士」となるための基礎を身につける。
授業の到達目標	1. 乳幼児保育の重要性を発達の視点から説明できる 2. 現代社会における保育の役割を理解する 3. 保育者の連携・協働の必要性を具体的に説明できる 4. 保育者の専門性と責任について理解を深める 5. 保育士および幼稚園教諭の法的根拠、義務、資格制度について説明できる

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション／保育者論とは何を学ぶ科目か
2	乳幼児期の発達特徴
3	乳幼児期の経験が障害に与える影響
4	「保育すること」の意味
5	現代社会と子育て環境
6	社会の中の保育施設の役割
7	多様な子ども・家庭への支援
8	チームとしての保育
9	他職種・地域との連携
10	連携の中で生じる課題
11	保育者の専門性とは何か
12	保育者の倫理と責任
13	学び続ける保育者
14	これからの保育と保育者
15	まとめ / 自分が目指す保育者像

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	事前学習 指定されたテキストの該当章を読み、授業テーマに関する疑問点や考えを整理して授業に臨む。 事後学習 授業内容を振り返り、「保育者として自分ならどう考え、どう行動するか」を省察（リフレクション）し、文章化することで理解を深める。
テキスト	汐見稔幸・大豆生田啓友 編著 『新しい保育講座② 保育者論』ミネルヴァ書房
参考文献	厚生労働省、2018、『保育所保育指針 解説』フレーベル館 文部科学省、2018、『幼稚園教育要領 解説』フレーベル館 内閣府、2018、『認定こども園教育・保育要領 解説』フレーベル館 大豆生田啓友、三谷大紀 編、2025、『最新保育小六法・資料集』ミネルヴァ書房
学生に対する評価	定期試験：70% 提出物（レポート等）：20% 授業への参加態度：10%
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園教諭および保育士として約10年間の実務経験を有し、現在も保育現場に携わりながら、主任として保育実践および職員間の連携・調整、後輩育成等に従事している。 これらの実務経験を踏まえ、理論と実践知を交えながら、現場で実際に求められる保育者の専門性、判断力、協働性について具体的に扱う。

開講年次：	2 年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	30	授業形態：	講義

科目名	地域福祉
担当教員	宮路 雄大
授業概要	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多い。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。そのため、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。本科目では、地域社会、地域福祉の概念や理論、歴史的発展過程を踏まえ、地域福祉実践がどのような役割を担うのか、考察を深めていく。 　本科目は、基本的には講義形式の授業で、レジュメを配布する。教科書も併せて使用するので、毎授業、忘れずに持参すること。また、適宜グループワークやディスカッションを行うので積極的な参加や姿勢を期待する。
授業の 到達目標	①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ④地域福祉の発展過程を通して、地域福祉の重要性を説明できるようにする。 ⑤地域福祉の推進方法について理解できる (地域福祉をどのように進めるべきかについて理解できる)

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	本講義のオリエンテーション
2	地域社会の概念と理論
3	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制
4	地域福祉ガバナンスと多機関協働 (1)
5	地域福祉ガバナンスと多機関協働 (2)
6	地域福祉の基本的な考え方 (1)
7	地域福祉の基本的な考え方（２）
8	地域福祉の基本的な考え方（３）
9	地域を基盤としたソーシャルワークの展開
10	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 (1)
11	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 (2)
12	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 (3)
13	福祉計画の意義と種類、策定と運用 (1)
14	福祉計画の意義と種類、策定と運用 (2)
15	まとめ・振り返り

定期試験期間における試験	定期試験を実施します
事前・事後 学習の内容	講義後、教科書・レジュメを確認し復習する
テキスト	地域福祉と包括的支援体制　中央法規
参考文献	講義ではレジュメを配布します。また、必要に応じて資料を配布します。
学生に対する評価	定期試験１００％
実務経験のある 教員による授業科目	担当講師は、精神保健福祉士として精神科病院・相談支援事業所に勤務経験がある。現在は、専門学校講師、大学の学生相談員として勤務している

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	保育の心理学
担当教員	小沢 恵美子
授業概要	保育所や幼稚園にいる乳幼児期を中心とした子どもの発達の様子を学習する。学習によって得た発達に関する心理学の知見に基づき、養護と教育の一体性をふまえた関りや援助について考えていく。また、今までの自分の経験と心理学の内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達についての理解を深める。
授業の到達目標	子どもの発達に関する心理学の基本的知識を学び、子どもの発達について説明できる。 自分が保育者としてかかわることを考えながら、子どもの発達に関する理解を深める。 保育の心理学の知見、理論をふまえ、保育における人との相互的関りや体験、環境について理解する。 授業で学んだ内容と自分自身の経験を結びつけて考え、人間の発達についての理解を深める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス、子どもの発達と環境 (テキスト P4 ～ P12)
2	情緒の発達（テキスト P42 ～ P46）
3	自我の発達（テキスト P47 ～ P53）
4	愛着の形成（P59 ～ P62）
5	愛着行動と愛着の発達（テキスト P62 ～ P66）
6	社会的相互作用（テキスト P67 ～ P74）
7	認知の発達①（テキスト P92 ～ P96）
8	認知の発達②（テキスト P96 ～ P99）
9	認知の発達③（テキスト P100 ～ P102）
10	コミュニケーションの発達（テキスト P104 ～ P111）
11	乳幼児期の学びに関わる理論（テキスト P127 ～ P132）
12	動機づけ（テキスト P133 ～ P136、P139 ～ P140）
13	発達障がいについて①（プリント）
14	発達障がいについて②（プリント）
15	児童期以降の発達について（テキスト P160 ～ P168）

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	事前学習：授業範囲となるテキスト部分を読んでおく。 事後学習：授業時に理解できなかった部分をテキストや配布プリントで確認して、理解を深める。
テキスト	井戸ゆかり編著 , 2019,『保育の心理学　実践につなげる、子どもの発達理解』萌文書林 .
参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。
学生に対する評価	授業への取り組みやリアクションペーパー（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%） 他の人のレポートを真似る（コピペする）、カンニングなどの不適切行為が発覚した場合は、その時点で単位認定対象外とします。
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	子ども家庭支援の心理学
担当教員	長田 美穂
授業概要	(1) 乳幼児期から高齢期の発達の特徴を捉え、子どもが育つ場としての家庭と保育･教育の場から初期経験の重要性を理解する。 (2) 家庭の意義と機能を理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況を考察する。育児不安の支援をはじめとする多様な子育て家庭への支援及び特別な配慮を必要とする家庭への支援を学ぶ。 (3) 子どもの心と健康の関連から幼児期・学童期にみられる主な精神保健の課題について理解する。
授業の到達目標	(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できるようになる。 (2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。 (3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明できるようになる。 (4) 子どもの精神保健とその課題について理解し、説明できるようになる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	乳児期の発達特徴
2	幼児期の発達特徴
3	学童期の発達特徴
4	思春期から青年期の発達特徴
5	成人期から高齢期の発達特徴
6	家族システムと家族発達
7	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
8	子育て環境の社会的状況の変化
9	子育て期のワークライフ・バランス
10	多様な子育て家庭への支援　育児不安サポート
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援
12	子どもの心と健康
13	障害のある子どもの理解と対応
14	災害と子ども
15	まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業で扱える内容には限りがあるので、各自教科書以外にも参考書などで積極的に学びを深めることや、子どもおよび子育て家庭を取り巻く問題について、アンテナを高くしておく。即ちニュース等で取り上げられている内容について自分で調べて授業内容と関連づけていくことが望まれる。授業では振り返りを兼ねた、アクティブラーニングを重視したワークを行い、提出する課題は授業内容を振り返りながら、理解の定着を図ることを目的とする。またグループワークについては、総合的に取り組む姿勢を重視する。
テキスト	本郷一夫 , 神谷哲司編，2019,『子ども家庭支援の心理学』建帛社 .
参考文献	随時、授業内でプリント配布。
学生に対する評価	(1) 定期試験 60%　(2) 受講姿勢 40%（授業への取り組み 20、提出物 20）
実務経験のある教員による授業科目	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保育カウンセラーの実務経験があり、大学・専門学校の教壇に立ってきた。幼保小中高の教職員、保護者、児童生徒への相談業務は当然ながら、地域を含めた講演・講話・研修を多数行ってきた経験を活かして、対人援助職として相談を進める際に必要な知識と技能をもとに、カウンセリング、コンサルテーションに関する演習・グループワークを行う。

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	子ども家庭支援の心理学
担当教員	前川 洋子
授業概要	(1) 乳幼児期から高齢期の発達の特徴を捉え、子どもが育つ場としての家庭と保育・教育の場から初期経験の重要性を理解する。 (2) 家庭の意義と機能を理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況を考察する。育児不安の支援をはじめとする多様な子育て家庭への支援及び特別な配慮を必要とする家庭への支援を学ぶ。 (3) 子どもの心と健康の関連から乳幼児期・学童期にみられる精神保健の課題より子どもの心の理解と心理学的観点からの家庭支援を学ぶ。
授業の到達目標	(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できるようになる。 (2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する。 (3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明できるようになる。 (4) 子どもの精神保健とその課題を理解し、家庭への支援について説明できるようになる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	乳児期の発達特徴 心理社会的課題と危機　初期経験の重要性
2	幼児期の発達特徴 心理社会的課題と危機
3	学童期の発達特徴 心理社会的課題と危機
4	思春期から青年期の発達特徴 心理社会的課題と危機
5	成人期から老年期の発達特徴 心理社会的課題と危機
6	家族システムと家族発達 家族・家庭の意義と機能
7	子育ての場としての家庭と家族 生存と生活・情緒的つながり・社会化・経験の場としての家庭と家族
8	子育て環境の社会的状況の変化 子育て家庭を取り巻く社会的状況（都市化・少子化・情報消費社会・経済状況など）
9	子育て期のワークライフ・バランス 仕事と子育ての両立　共働き主流
10	多様な子育て家庭への支援　育児不安サポート 育児不安の原因と背景　多様な子育て支援策
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援 ドメスティック・バイオレンス・ひとり親家庭・ステップファミリー・外国につながる家庭などの支援と課題
12	子どもを取り巻く生活環境　安全・事故防止と災害対応 危険因子と予防的対応　喪失体験による問題と対応
13	子どもの心と健康 子どもの精神保健とその課題
14	発達障害のある子どもの理解と対応 発達障害の概要　子どもの理解と家庭支援
15	総まとめ 心理相談に関わる事例検討

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	次回の講義内容を示し予習を促す。授業外の課題やワークの準備については事前指導を行い、効果的なアクティブラーニングを図る。 提出した課題はフィードバックし理解の定着を図り、グループワークは準備から発表まで事前・事後学習において総合的に取り組む姿勢を重視する。
テキスト	松本園子 , 堀口美智子他 ,2019,『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房 .
参考文献	松本園子 , 永田陽子他 ,2023,『子ども家庭支援論』ななみ書房 .
学生に対する評価	（1）定期試験 70%　（2）受講姿勢 30%（授業への取り組み 20, 提出物 10）
実務経験のある教員による授業科目	保育所における子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員として保育現場に携わり、また実証的研究として保育研究する者が、その経験を活かして今日的課題の対応を含めた授業を展開する。 また、教育カウンセラーとして学会等の委員を務め、相談を進める際に必要なカウンセリングに関する知識と技能を持つ教員が、心理学の知見を活かして心理検査やカウンセリングに関する演習を行う。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの理解と援助
担当教員	小玉 絹江
授業概要	子ども理解は教育・保育のあらゆる営みの基本となる。子どもを取り巻く環境や心身の発達過程を理解し、ロールプレイングなどを取り入れながら、子ども理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身に付ける。また、子どもの心を見る目を養い、保育者としてどう援助していくかを考える。
授業の到達目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス 授業の進め方や授業方法
2	保育における「子ども理解と援助」とは 子どもを取り巻く環境の理解
3	子ども理解における発達的観点①
4	子ども理解における発達的観点②
5	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド①
6	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド②
7	保育における観察と記録の実際①
8	保育における観察と記録の実際②
9	記録にもとづく保育カンファレンス①
10	記録にもとづく保育カンファレンス②
11	保育における個と集団の関係の理解と援助
12	一人ひとりの子どもの特別なニーズの理解と援助
13	保護者理解と援助の基本
14	「子ども理解」を深めるための保育共同体
15	学修のまとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	随時「把握シート」の記入を求める。返却された「把握シート」の内容を振り返り、学んだことを復習しておく。
テキスト	髙嶋景子・砂上史子編著，2019，『新しい保育講座③　子ども理解と援助』ミネルヴァ書房. 資料プリントを適宜配付
参考文献	文部科学省，2018，『幼稚園教育要領解説』フレーベル館. 厚生労働省，2018，『保育所保育指針解説』フレーベル館. 内閣府，2018，『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館， 堂本真実子 2023「子ども理解と援助ーより深い専門性の獲得へー」わかば社 松本峰雄監修　よくわかる！保育エクササイズ8「子ども理解と援助　演習ブック」
学生に対する評価	定期試験　60%　　受講姿勢（提出票評価含む）40%
実務経験のある教員による授業科目	公立中、高校生センター所長・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし、発達障害や虐待・非行など複雑な背景を抱える子どもを含めた子ども理解について指導する。実践的講義内容を行っていく。

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	子どもの保健
担当教員	細谷 光子
授業概要	子どもの体を理解するための基礎知識、乳幼児期の成長発達、子どもに多い感染症等について、関連するガイドラインをもとに講義する。また、保育者として、健康観察の重要性について、身体的・精神的・社会的な観点から解説し、適切な対応や支援について講義する。
授業の到達目標	(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 (2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 (3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 (4) 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	子どものこころとからだの健康と保健の意義 (1)　子どもの保健の対象　施策　保健統計　課題
2	子どものこころとからだの健康と保健の意義 (2)　母子保健　乳幼児健康診査
3	子どもの成長と発達 (1)　人体構成要素　脳の発達　スキャモンの発育曲線　臨界期
4	子どもの成長と発達 (2)　乳幼児身体発育曲線　体型の変化　運動機能
5	生理機能の発達 (1)　バイタルサイン　歯と消化・吸収　排泄　水分代謝
6	生理機能の発達 (2)　免疫　感覚器官　皮膚
7	子どもの生活と保健　子どもの基本的な生活習慣　子どもの睡眠の重要性　小テスト
8	子どものこころとからだの健康状態を知る　健康及び発育・発達の把握の意義　健康診断
9	子どもによくみられる症状 (1)　症状と対応 （不機嫌　発熱　咳・鼻水　痛み（頭痛や腹痛)）
10	子どもによくみられる症状 (2)　症状と対応 （嘔吐　下痢　便秘　けいれん　脱水）
11	感染症の予防　感染の３要因　感染経路　予防接種
12	感染症 (1)　子どもによくみられる感染症
13	感染症 (2)　子どもによくみられる感染症
14	子どもの主な病気 (1)　先天性の疾患・アレルギー疾患・血液、内臓の疾患
15	子どもの主な病気 (2)　その他の疾患　まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	【事前学習】授業範囲となるテキスト部分を読んでおく。 【事後学習】授業時に理解できなかった部分をテキストや授業で配布されたプリントで確認し、理解を深める。
テキスト	山下　雅佳実　2025『イラスト　子どもの保健・健康と安全』 東京教学社
参考文献	「2019 年改訂版　保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成 31 年４月　厚生労働省） 「2018 年改訂版　保育所における感染症対策ガイドライン」（令和５年５月一部改訂　こども家庭庁） 等
学生に対する評価	(1) 授業態度を含む平常点：30% (2) 小テスト：20% (3) 筆記試験：50%
実務経験のある教員による授業科目	養護教諭（公立小中学校 33 年）の実務経験あり。「子どもの保健」の基礎知識や技術の体得、また、幼小連携の取組の経験等を活かし、実際の事例等を紹介しながら、講義・指導を行う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの食と栄養 I
担当教員	宮木 弘子
授業概要	食と栄養の基本的知識を解説し、実際に子どもの発育･発達、環境など現状に合わせた対応方法について一緒に考えていきます。さまざまな実例や実物を用いて授業を展開することで理解を深め、保育者として実践する力を養います。
授業の到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	食べるとはどういうことか
2	子どもの健康と食生活の意義 (1) 子どもの食生活の現状と課題
3	子どもの健康と食生活 (2) 身体発育と栄養状態の把握
4	子どもの健康と食生活 (3) 食べる機能の発達
5	栄養に関する基本的知識 (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
6	栄養に関する基本的知識 (2) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
7	栄養に関する基本的知識 (3) 食事構成・献立作成・三色食品群
8	栄養に関する基本的知識 (4) 実習・調理の基本・衛生管理
9	栄養に関する基本的知識 (5) 日本人の食事摂取基準の意義とその活用
10	栄養に関する基本的知識 (6) 制作発表
11	栄養に関する基本的知識 (7) 自分の栄養状態の把握
12	子どもの発育・発達と食生活 (1) 妊娠期と授乳期
13	子どもの発育・発達と食生活 (2) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
14	子どもの発育・発達と食生活 (3) 実習・調乳・離乳食
15	前期のまとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業でプリントを配布するので、パンチレスファイル A4 を持参すること。 子どもの食と栄養に関する情報収集
テキスト	株式会社三恭保育園事業部給食課編著，2018,『選ばれる園になるための給食マネジメント』株式会社チャイルド社 .
参考文献	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成 23 年､厚生労働省)「児童福祉施設等における食事の提供ガイド」(令和 7 年 9 月、こども家庭庁)「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」(平成 16 年、厚生労働省)「授乳・離乳の支援ガイド」(2019 年改訂、厚生労働省)
学生に対する評価	授業課題（50%)、定期試験（50%）を基準に点数を加算して総合的に評価する
実務経験のある教員による授業科目	保育所における管理栄養士経験を活かして実践的な授業を行う。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ
担当教員	宮木 弘子
授業概要	食と栄養の基本的知識を解説し、実際に子どもの発育･発達、環境など現状に合わせた対応方法について一緒に考えていきます。さまざまな実例や実物を用いて授業を展開することで理解を深め、保育者として実践する力を養います。
授業の到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	幼児期の心身の発達と食生活
2	保育における食育の意義・目的と基本的考え方
3	実習 (1) 日本の伝統文化・米の加工
4	実習 (2) 日本の伝統文化・和食の調理
5	実習のまとめ・制作発表
6	食育の内容と計画及び評価
7	食育のための環境・地域の関係機関や職員間の連携
8	食生活指導及び食を通した保護者への支援
9	食育活動の計画
10	実習 (3) 行事食の調理
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1) 食物アレルギー
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2) 保育所における食物アレルギー対応
14	食事に関するヒヤリハット事例
15	年間のまとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業でプリントを配布するので、パンチレスファイル A4 を持参すること。 子どもの食と栄養に関する情報収集
テキスト	株式会社三恭保育園事業部給食課編著，2018，『選ばれる園になるための給食マネジメント』株式会社チャイルド社
参考文献	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年､厚生労働省）「児童福祉施設等における食事の提供ガイド」（令和７年９月、こども家庭庁）「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」（平成 16 年、厚生労働省）「授乳・離乳の支援ガイド」（2019 年改訂、厚生労働省）
学生に対する評価	授業課題（50%）、定期試験（50%）を基準に点数を加算して総合的に評価する
実務経験のある教員による授業科目	保育所における管理栄養士経験を活かして実践的な授業を行う。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 選択	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	児童館の機能と運営
担当教員	村山 正浩
授業概要	1. 児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針に示されているねらいおよび内容について、基本的な考え方を学習する。 2. 活動・支援の内容から子どもの発達と、保育者・地域との関係性を学び、ソーシャルワークの視点から理解を深める。 3. グループワークを通して、児童館・放課後児童クラブ現場の実践を具体的に考察し、今後に活かせるようにする。
授業の到達目標	1. 児童館の基本理念である「健全育成」の位置づけを理解するとともに、現代の子どもの健全育成上の課題を理解する。 2. 子どもの「遊び」と「生活」・保護者や子育てを育成・支援する上で必要なソーシャルワークの具体的支援の方法を学習し、児童館・放課後児童クラブの機能と運営を理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	児童福祉法の理念と健全育成・児童館ガイドライン・児童館の施設特性について
2	児童館の機能Ⅰ：児童館・放課後児童クラブの法的根拠の変遷と、児童福祉の理念について
3	児童館の機能Ⅱ：子ども権利条約と児童館の機能と健全育成上の意義
4	児童館の機能Ⅲ：遊び及び生活を通した子どもの発達の増進（乳幼児期・児童期・思春期（青年期前）別）
5	児童館の機能Ⅳ：居場所機能を児童館が担うとは…乳幼児期・学童期・思春期別
6	児童館の機能Ⅴ：子どもと家庭が抱える問題の発生予防・早期発見とその対応 （子育て支援の実施や地域の環境づくり）
7	放課後児童クラブの機能Ⅰ：放課後児童クラブの運営指針と育成支援の内容
8	放課後児童クラブの機能Ⅱ：事例を通して実践記録と PDCA サイクル
9	放課後児童クラブの機能Ⅲ：課題を持つ子の受け入れのために…事例を通して考える（合理的配慮など）
10	子ども支援者と倫理Ⅰ：事例を通して児童厚生員の職務、児童館長の職務、児童館の職場倫理
11	子ども支援者と倫理Ⅱ：事例を通して放課後児童クラブ職員の職務や倫理
12	児童館とボランティア：外部団体の適切な受け入れや利用者のボランティア活動
13	児童館・放課後児童クラブの運営Ⅰ：ケガや事故の防止のための、安全対策や緊急時対応
14	児童館・放課後児童クラブの運営Ⅱ：児童館や放課後児童クラブに対する要望や苦情への対応
15	まとめ《小論文》：「児童館や放課後児童クラブにおいて、いかにこどもの権利を保証していくか具体的な方策とその理由を述べよ。」

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針について、充分に予習をする。 配布した事例・資料をよく読み返し、課題に対する理解を深め、要点を整理する。
テキスト	●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②「児童館論」 令和５年４月 （財）児童健全育成推進財団 発行 ●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④「ソーシャルワーク」2019 年 10 月 （財）児童健全育成推進財団 発行 ●「新しい時代の学童保育実践」2018 年 10 月 （株）かもがわ出版 ●川原佐公「発達がわかれば保育ができる」ひかりのくに
参考文献	●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ①「健全育成論」 （財）児童健全育成推進財団 ●中山芳一 2018「学童保育実践入門～かかわりと振り返りを深める～」 かもがわ出版 ●放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材 第２版 放課後児童支援員認定資格研修教材編集委員会編著 中央法規
学生に対する評価	課題提出：20% 、授業態度（グループワーク・発表含む）：30% 小論文：50%
実務経験のある教員による授業科目	児童館・放課後児童クラブ・中高校生センター・子ども家庭支援センター・発達支援事業・障害児者への支援での職務経験を活かし実践的講義内容を行っていく。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ
担当教員	村山 正浩
授業概要	1. 児童館・放課後児童クラブの活動内容について具体的に理解する。 2. 日常活動や日常支援から子ども一人ひとりの理解と援助、保育者対応・地域との連携などを具体的に理解する。 3. ソーシャルワークの援助方法から理解を深め、児童厚生員・児童支援員としての実践を具体的に考察し、今後の実践に活かせるようにする。
授業の到達目標	1. 子どもの「遊び」と「生活」を日常活動から理解する。 2. ソーシャルワークの具体的援助方の視点で、子育て支援・保護者対応・地域や関係機関との連携を学習する。 3. プログラムの企画や運営の実際と、子どもの権利条約の位置づけなど、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	児童館・放課後児童クラブに求められている社会的役割について
2	児童館・放課後児童クラブにおける、子どもたちの日常活動と児童厚生員・支援員の役割
3	児童館・放課後児童クラブにおける、年間計画の目的・ねらいと児童厚生員・支援員の役割
4	子どもの権利条約と児童館・放課後児童クラブの機能とのかかわり
5	遊びを通した異年齢の活動（低学年）：子ども会議・実行委員会など
6	遊びや活動を通した居場所機能（高学年）：運営委員会活動など
7	乳幼児対応の実際と子育て支援活動の実際
8	児童館・放課後児童クラブの生活支援と学習支援：取組みの具体的事例をもとに考える
9	児童館・放課後児童クラブの保護者支援：事例検討
10	課題のある家庭や子どもの援助：事例検討
11	ボランティアの育成と活動の実際：地域に広がる活動の実際と連携協力など
12	地域・学校・子ども家庭支援センターなど関係機関との連携
13	児童館・放課後児童クラブ職員のチームアップ ：より良い児童館・放課後児童クラブ活動を可能にするより良い職員関係づくり
14	演習：子どものニーズに基づいたプログラムの企画・活動
15	まとめ《小論文》 「児童館や放課後児童クラブの居場所づくり」について、具体的意見とその理由を述べよ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針について充分に予習をする。 配布した事例・資料をよく読み返し、課題に対する理解を深め要点を整理する。
テキスト	●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②「児童館論」 令和５年４月 （財）児童健全育成推進財団 発行 ●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④「ソーシャルワーク」 2019年10月 （財）児童健全育成推進財団 発行 ●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ③「安全指導・安全管理」 令和５年４月 （財）児童健全育成推進財団 発行
参考文献	●児童館「チームアップに役立つ20のヒント」（財）児童健全育成推進財団 ●児童館テキストシリーズ②「子ども支援者と倫理～事例で学ぶ児童館のコンプライアンス～」（財）児童健全育成推進財団 ●中山芳一著 2018「新しい時代の学童保育実践」 かもがわ出版 ●放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材「認定資格研修のポイントと講義概要」 中央法規
学生に対する評価	課題提出：20% 、授業姿勢（グループワーク・発表含む）：30% 小論文：50%
実務経験のある教員による授業科目	児童館・放課後児童クラブ・中高生センター・子ども家庭支援センター・発達支援事業・障害児者への支援での職務経験を活かし実践的講義内容を行っていく。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	保育・教育課程の意義と編成（幼・保コース）/ 保育の計画と評価（保育士コース）
担当教員	松本 佳代子
授業概要	・教育課程・保育課程・指導計画の基本について理解する。 ・幼児教育・保育におけるカリキュラムの構造と編成について学ぶ。 ・乳幼児期の生活が充実し、子ども一人ひとりの発達が保障される教育課程・保育課程、およびそれに基づく指導計画のあるべき姿について考える。
授業の到達目標	・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された教育課程、保育課程、指導計画の基本と特徴について理解し、指導計画を立案、評価できる知識を修得する。 ・PDCA サイクルについて、指導計画案作成および実践を通して理解を深める。 ・就学前教育と小学校以降の教育の質および内容について理解する。 ・保育における目標を設定し、計画を立案・実行する力を修得する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	授業ガイダンス　教育課程とは
2	さまざまな教育課程を理解する 幼稚園の教育課程・保育所の全体的な計画とその歴史について学ぶ
3	幼稚園の教育課程と保育所の全体的な計画について理解する
4	幼稚園・保育所の生活と乳幼児について理解し、環境を通した教育・保育について学ぶ
5	教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なことについて学ぶ① 幼稚園教育要領における 5 領域について理解する
6	教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なことについて学ぶ② 子ども理解、子どもの発達を理解する
7	日本や世界における様々な教育方法について理解する①
8	日本や世界における様々な教育方法について理解する②
9	長期指導計画／短期指導計画について理解する。 長期指導計画と短期指導計画の内容について学ぶ。
10	短期指導計画の作成、立案する① 指導計画案を作成する。〔各項目の理解〕
11	短期指導計画の作成、立案する② 指導計画案を作成する〔立案の手順〕
12	短期指導計画の作成、立案する③ 指導計画案を作成する〔実践〕
13	短期指導計画の実践・評価、省察する① 指導計画案に基づき PDCA サイクル（保育実践、自己省察、評価）を理解する。
14	短期指導計画の実践・評価、省察する② 指導計画案に基づき PDCA サイクル（保育実践、自己省察、評価）を理解する
15	PDCA サイクルと小学校との接続、地域と子育て支援について学ぶ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	指示した箇所を次回授業までに目を通して授業に臨むこと。また授業内容に関連した参考図書などに目を通し、専門用語などは理解しておくこと。
テキスト	松村和子・近藤幹生・椛島香代 ,『就学前教育の計画を学ぶ』ななみ書房 .
参考文献	・『幼稚園教育要領』フレーベル館、文部科学省、2018 ・『保育所保育指針』フレーベル館、厚生労働省、2018
学生に対する評価	定期試験 30%、課題、発表 40%、平常態度 30%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育内容総論
担当教員	松本 佳代子
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針及び幼保連携認定こども園教育・保育要領に示されている5領域のねらいおよび内容について、基本的な考え方を学習する。子どもの発達と保育の視点を子どもの生活と子どもと保育者の関係性や援助方法から理解を深め、保育者の役割を考える。またグループワークやディスカッションを通して幼稚園および保育所における保育内容の計画および実践を考察し今後の学習課題等を明確化する。
授業の到達目標	保育内容5領域を通して保育の全体像を総合的に理解する。 保育実践を展開する上で必要な記録方法や省察の方法を学習し乳幼児一人ひとりを理解するための保育者の援助方法を習得する。 子育て支援の中でも保護者支援に着目し実践を通して理解を深める。 事例分析の観点を修得し、遊び、生活、環境を通して今後の学習課題等の明確化することを目指す。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	乳幼児期の保育内容（1） 保育の基本的な考え方を捉える
2	保育所・幼稚園の一日を理解する。 事例検討：子どもの気持ちと保育者の援助について考える。
3	乳幼児期の保育内容（2） 事例検討：遊びや生活を通した学びについて考える。
4	乳幼児期の保育内容（3） 保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容の捉え方について理解する。
5	乳幼児期の保育内容（4） 小学校への接続を踏まえた保育を考える。
6	乳幼児期の保育内容（5） 事例検討：子育て支援から保育内容を考える。
7	乳幼児期の保育内容（6） 事例検討：子育て支援から保育内容を考える。
8	保育者の保育観について 生活を通して幼児教育における見方・考え方について考える。
9	保育内容を深める遊びと保育教材について（1） 絵本・紙芝居について理解を深める。
10	保育内容を深める遊びと保育教材について（2） 伝承遊び・運動遊び・造形遊びについて理解を深める。
11	保育内容を深める遊びと保育教材について（3） パネルシアターについて理解を深める。
12	保育内容を深める遊びと保育教材について（4） パネルシアターを作成する。
13	保育内容を深める遊びと保育教材について（5） パネルシアターを作成する。
14	保育内容を深める遊びと保育教材について（6） パネルシアターを実践する。
15	様々な保育の課題について考える。 持続可能な社会の実現に向けて「Society5.0」について理解する。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針等の該当箇所について充分に予習をする。また事前に配布する事例・ワークシートをよく読み課題に対する理解を高めておく。さらに授業後に配布する資料について復習し要点を整理する。
テキスト	渡邉英則・大豆生田啓友編者,『新しい保育講座4 保育内容総論』ミネルヴァ書房.
参考文献	保育所保育指針解説書　厚生労働省著　フレーベル館 幼稚園教育要領解説書　文部科学省著　フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　内閣府　文部科学省　厚生労働省著　フレーベル館
学生に対する評価	授業態度を含む平常点30%・保育実践、発表30%・提出物：40%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次：	1年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	保育内容指導法　健康（幼・保コース）／保育内容演習　健康（保育士コース）
担当教員	山本 真理子
授業概要	領域「健康」のねらいと内容についての理解や子どもの身体機能や遊びの重要性、園生活における安全への配慮について保育者としての役割を理解し深めるために、講義・グループワーク・ワークシートを通して学びを広げていく。 また、模擬保育の実践や情報機器及び教材の活用法を理解して、子ども達を援助する考え方や指導上の留意点を学ぶ。 さらに、保育者自身の心身の健康についても考えていく。
授業の到達目標	1. 保育内容「健康」のねらい及び内容について理解し、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。 2. 領域「健康」の内容と指導上の留意点を理解し、乳幼児期に様々な経験をすることの大切さを学ぶ。 3. 子どもの主体的な活動や動きを引き出すための保育者の役割について考え、実践に生かすことができる。 4. 模擬保育を通して、健康の指導に必要な技能を身に付け、子どもへの指導ができる。 5. 情報機器及び教材の活用法を理解して、保育に活用することができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション　保育内容指導法「健康」で学ぶこと
2	領域「健康」の意味 （幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園保育・教育要領から学ぶ）
3	健康にかかわる子どもの生活実態
4	子どもの心身の健康 保育所保育指針の養護における「健康」について理解する
5	身体の発達と園生活
6	心の発達と園生活
7	遊びと健康
8	健康にかかわる遊びと保育者の援助
9	基本的生活習慣の指導・援助
10	保健への配慮と指導・援助
11	安全管理と指導・援助
12	園外保育と健康
13	模擬保育①　模擬保育計画立案 3歳児以上の保育（保育所、認定こども園）と幼稚園の「ねらい及び内容」から考える
14	模擬保育②　模擬保育の実践
15	子どもの遊び 保育内容指導法「健康」のまとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・授業内容について見通しをもって学習できるように予習や準備をおこなう。 ・テキストや配布するプリントを通して理解を深め、知識の習得や実践に活用する。
テキスト	榎沢良彦・入江礼子編著、2018『シードブック　保育内容　健康　第3版』建帛社.
参考文献	①厚生労働省、2018、『保育所保育指針解説』フレーベル館 ②文部科学省、2018、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ③内閣府、文部科学省、厚生労働省、2018、『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』フレーベル館 ④随時必要なプリントを配布する
学生に対する評価	定期試験　50% 授業への取り組み姿勢（態度、意欲）30% 提出物（提出物期限含む）20%
実務経験のある教員による授業科目	元幼稚園教諭　元保育士　元子育て支援部署担当　日本保育学会会員　昔遊びの会会員　親子触れ合い遊び講師　児童文化担当　おもちゃコンサルタント 保育現場での経験と講師経験を活かして、子どもたちが心身ともに健康で過ごすために必要な保育内容について、講義と具体的な活動を通して学ぶ実践的な授業をおこなう。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育内容指導法　人間関係（幼・保コース）／保育内容演習　人間関係（保育士コース）
担当教員	丹野 萌成
授業概要	保育内容指導法「人間関係」は，幼稚園教育要領・保育所保育指針，幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に示された5領域の1つであり，総合的活動としての遊びを通した幼児の育ちを支える領域であることを理解する。人間関係は保育者自身が環境であることについて考え，自分自身の自己認識をしながら進めていく。具体的な保育の場面や子どもの姿の事例を使ってディスカッションを行い、乳幼児期における人間関係について学ぶ。
授業の到達目標	1，領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し説明できる。 2，乳幼児の人間関係の発達と援助のポイントを説明できる。 3，幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した指導案を作成することができる 4，乳幼児を取り巻く人間関係及び現代的特徴とその社会的背景を理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	授業の目的，内容，進め方について 領域「人間関係」の意義を理解する
2	領域「人間関係」のねらいとねらいを達成するための援助 子どもを取り巻く環境，家庭生活の変化と課題について
3	0歳児～2歳児の人との関わりの過程と援助 指導案及び模擬保育より保育省察
4	3歳児～5歳児の人との関わりの過程と援助 指導案及び模擬保育より保育省察
5	愛着形成の重要性と愛着の形成過程について
6	依存と自立の関係と幼児の自立に向けた保育者の援助
7	自我の芽生え自己主張と自己抑制の視点 乳幼児期のコミュニケーション能力の特性と援助
8	人間関係と発達（1 ～ 7回目）について復習、具体的な事例、教材から事例ディスカッション、ワーク 情報機器及び教材の活用法
9	遊びや生活と人間関係といざこざの原因、援助 指導案作成及び模擬保育より保育省察
10	遊びや生活を通した共感、思いやり、道徳性の芽生えと育む為の援助 指導案作成及び模擬保育より保育省察
11	協同する経験、共同性を育むための援助 教材研究及び指導案の作成
12	地域の人との関わり 地域の交流の意義を理解し交流内容や方法、指導法について
13	現代の保育の課題と領域「人間関係」
14	遊びや生活と人間関係（9 ～ 13回目）について復習、具体的な事例、教材から事例ディスカッション、ワーク
15	領域「人間関係」の確認、保育者の援助 定期試験について

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業の最初に前回の振り返りと，最後に今回のまとめを行う。
テキスト	無藤隆監修、岩立京子編者代表（2023）『新訂・事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係』萌文書林
参考文献	保育六法・保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領等。 必要に応じて、随時プリントを配布する。
学生に対する評価	学生に対する評価：定期試験　70% ワークシート、指導案等提出物、受講態度　30%
実務経験のある教員による授業科目	現職保育者の為、今現場で起きていることを踏まえながら勤務経験で得た知識、技能を伝えます。 他専門学校講義・保育実務経験10年、前期中等教育部活指導5年

開講年次：1年次春	選択・必修：必修	単位数：1	時間数：30	授業形態：演習

科目名	保育内容指導法　環境（幼・保コース）／保育内容演習　環境（保育士コース）
担当教員	岩田 大
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針等を確認し、実際の保育現場で大切な「環境」についての理論と実践を結び付けて理解を深めていく。 領域「環境」に記載されていたものについても、具体的な実践事例や参考文献等を見ながら、保育現場をイメージして実践（実習や現場実践）に結び付く学びとなるようにしていく。 最終的に「環境」という大枠だけでなく、人・物・自然・事象・空間等の環境について学び、環境構成と保育者の関わり等の援助方法についても学んでいくこととする。
授業の到達目標	1. 内容における「環境」という視点を通して、子どもと環境とのかかわりやその育ちを具体的に理解する。 2. 生活や遊びを通して体験することの重要性を理解し、保育者の環境構成と援助についての理解を深める。 3. 子どもの実態や発達に即した具体的な保育場面を想定し、保育計画・保育準備・展開から保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する 4. 子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解して、保育の構想に活用することができる。 5. 指導案を含む保育計画の構成を理解し、具体的な保育を想定した保育案の作成（立案）の基本を理解したうえで作成する力を身につける。 6. 領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向や現代的課題を知り、今求められる保育の在り方の理解を深める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	イントロダクション－保育内容指導法「環境」
2	領域「環境」とは 子どもの心が動く環境とは何か？不登校の理解から心情・意欲・態度について考えを深める
3	子どもの育ちと領域「環境」～子どもを取り巻く環境～　3歳未満児・3歳以上児
4	環境を考える視点 ヒト環境（人的環境）・保育者の心もち
5	環境を考える視点 物的環境～子どもの力を引き出す環境構成～　3歳未満児
6	環境を考える視点 物的環境～子どもの力を引き出す環境構成【アフォーダンス・シグニファイアから考える】～　3歳以上
7	環境を考える視点 自然環境～感性の育ちを考える～【センス・オブ・ワンダーとは？を考える】
8	環境を考える視点 社会的環境～乳幼児期の体験～ はじめの100か月の育ちビジョン
9	子どもの生きる力を育む環境を考える　3歳未満児 - 3歳以上児 （プレーパークや森のようちえんの実践等から考える） 体験活動の重要性と実技「草笛」をやってみよう
10	共に環境を創造する対話的保育 ～子どもの姿から展開する保育実践～
11	領域「環境」と共生社会：多様性理解 ～インクルーシブ保育・外国にルーツを持つ子ども・ジェンダー教育・性教育等～ 平等と公正、制度的障壁について理解を深める
12	子どもを守り育てる環境「育てる責任」と「守る責任」- リスクとハザードを理解する - ～ありのままの姿と教育の在り方～
13	領域「環境」と小学校教育のつながり - とうきょうすくわくプログラムと探求学習 - ～学習指導要領改訂のポイントとSTEAM教育、社会情動的スキルから考える～
14	環境における現代的課題と保育 ～望ましい未来とは～
15	全授業の振り返りとまとめ 保育内容指導法「環境」の重要ポイントと環境を通して行う教育とは？「体験」と「経験」について

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	『保育所保育指針解説』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』をよく読んでおくこと
テキスト	酒井幸子・守 功 編著　『保育内容「環境」』萌文書林
参考文献	文部科学省,2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.　厚生労働省,2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館. 内閣府, 2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館. 適宜PPTを使用して実施（東京都保育士等キャリアアップ研修にて実施している内容に基づいた内容:講師本人作成資料）
学生に対する評価	筆記・レポート試験　70%　受講姿勢（発表・提出物評価含む）30%
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園教諭（認定こども園）としての実務経験及び保育園園長としては3園の園運営を行ってきました。 また、現在は多くの保育研修や、保育施設等の研修講師として、多くの保育者や保育施設との関わりを持っております。 上記の経験を踏まえた保育における基本～実践面、求められる力など現場を意識した「環境」について具体的に深く学んでいきます。

開講年次：	1年次春	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	保育内容指導法 言葉（幼・保コース）
担当教員	吉田屋 幸子
授業概要	本授業では、幼児期の認知や情緒、社会性の発達の基盤となる領域「言葉」について、幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づき、そのねらいと内容を深く理解することを目指す 。乳幼児期の言葉の発達プロセスと言語環境に関する理論的理解を深めるとともに、子どもの豊かな心身の育ちを支える保育者の役割を考察する 。具体的には、発達過程に応じた適切な支援方法を学び、子どもが経験や思考を自分なりの言葉で表現する力や、相手の話に耳を傾ける意欲・態度を育むための指導法を修得する 。また、子どもの想像性と言語表現を豊かにする「絵本」や「児童文化財」の意義と価値について、理論と実践の両面から探求する 。教材研究や読み聞かせの実践、さらには具体的な指導案の作成と模擬保育・振り返りを通して、言葉に対する感覚を豊かにし、現場で活かせる実践的な指導力を身につける。
授業の 到達目標	1. 領域「言葉」の内容と意味を理解する。 2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する。 3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の援助を理解する。 4. 領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5. 言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6. 児童文化財の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	保育内容「言葉」の意義
2	「言葉」のねらいと内容①
3	乳児の言葉の発達
4	幼児の言葉の発達
5	言葉を育む養育者の役割①
6	言葉を育む養育者の役割②
7	言葉を育む児童文化財の意義と演習①わらべうた・手遊び
8	言葉を育む児童文化財の意義と演習②絵本・紙芝居等
9	言葉を育む活動と指導案の作成
10	模擬保育①
11	模擬保育②
12	模擬保育の振り返りと課題
13	「言葉」のねらいと内容②
14	配慮を必要とする子どものサポート
15	現代社会における「言葉」の問題

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後 学習の内容	次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促す。授業内容の予習や振り返り用のワークシートでの復習を活用し、事前・事後の学習の習慣化を図る。グループワークは準備から発表まで事前・事後学習において総合的に取り組む姿勢を重視する。
テキスト	内藤知美、新井美保子編 ,2018,『コンパス保育内容言葉』建帛社 .
参考文献	文部科学省 ,2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館. 厚生労働省 ,2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館. 内閣府 ,2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.
学生に対する評価	受講姿勢（授業への取り組み、意欲）：40%　定期試験（確認テスト含む）：30%　発表：30%
実務経験のある 教員による授業科目	保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター、障害者支援施設での実務経験を有しています 。多様な現場において、対象者を深く理解し丁寧に接すること、また職員間の連携の中で自身の視点をリフレーミング（再構成）しながら、言葉を通じたコミュニケーション支援に携わって参りました 。本講義では、実践経験に基づき、子どもの言葉の豊かさを育む具体的な援助や環境構成について教授します。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育内容演習　言葉（保育士コース）
担当教員	吉田 裕子
授業概要	「言葉」は幼児期の認知や情緒の発達、社会性の基盤となる重要な領域です。本授業では、幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき、領域「言葉」のねらい及び内容を深く理解します。幼児の発達過程に応じた適切な言葉の支援方法を学び、経験や考えたことを自分なりの言葉で表現する力や、相手の話に耳を傾ける意欲と態度を育てることを目指します。また、言葉の発達理論や背景にある専門領域について学び、具体的な指導場面を構想しながら指導案を作成します。さらに、絵本の選び方や読み聞かせの実践を通じて、子どもの豊かな表現力を育む方法を探求します。模擬保育の実施と振り返りにより、言葉を活用した保育を深める視点を身につけます。
授業の到達目標	1. 子どもの言葉の発達段階を理解し、それに応じた適切な言葉がけの方法を学ぶ。 2. 絵本や読み聞かせを通じて、言葉を育む保育の実践方法を習得する。 3. 言葉を通じたコミュニケーション能力や表現力の重要性を理解し、それを保育に活かす力を身につける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 授業の概要説明、言葉が子どもの発達に与える影響を簡単に紹介
2	言葉の発達理論① 乳幼児期における言葉の発達段階とその特徴を学ぶ
3	言葉の発達理論② 言葉の発達を支える要素（聴覚・模倣・社会的なやりとりなど）を具体的に学ぶ
4	言葉がけの基本 言葉がけの方法（肯定的・否定的な言葉がけの違い、子どもへの影響）
5	保育現場での言葉がけ① 子どもの状況に応じた言葉がけ（遊び、トラブル時など）の具体例を学ぶ　保育場面に応じた適切な言葉がけを考える力を養う。
6	保育現場での言葉がけ② ロールプレイングを通じた実践的な言葉がけの練習
7	絵本の役割と選び方 絵本の特徴、子どもの年齢や興味に合った絵本選びのポイントを学ぶ
8	読み聞かせの基本 読み聞かせの技術（声のトーン、間の取り方、子どもの反応を引き出す方法）
9	実践：読み聞かせ 各自が選んだ絵本で実際に読み聞かせを行い、フィードバックを受ける
10	言葉と非言語コミュニケーション 言葉以外の表現（ジェスチャー、表情）の重要性を学ぶ
11	言葉と自己表現の育成 子どもが自己表現力を育むために大人ができることを考える
12	保育における言葉の課題① 言葉の発達に遅れがある子どもへの対応方法や配慮を学ぶ
13	保育における言葉の課題② 多文化共生の中で異なる言語環境の子どもへの言葉がけを学ぶ
14	言葉を育む環境づくり 言葉を発達させるための保育環境（部屋のレイアウト、教材の配置など）を学ぶ
15	まとめと振り返り 学んだ内容の総まとめ、グループディスカッションを通じて授業

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	言葉の授業用にノート等記録するものを用意すること
テキスト	石上浩美，2022，『新・保育と言葉』嵯峨野書院 .
参考文献	文部科学省，2018，『幼稚園教育要領解説』フレーベル館. 厚生労働省，2018，『保育所保育指針解説』フレーベル館. 内閣府，2018，『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.
学生に対する評価	• 授業内活動への参加度（30%） • 提出課題（40%） • 最終レポート（30%）
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育内容指導法　表現（幼・保コース）/ 保育内容演習　表現（保育士コース）
担当教員	森脇 環帆、名取 初穂
授業概要	本授業では、領域「表現」のねらいと内容について理解した上で、講義と演習を通して「表現」の自由さや楽しさを実践的に習得する。また、子どもの表現を援助する方法や保育者として自身の感性を磨くこと、グループで協働する方法を学ぶ。
授業の到達目標	・領域「表現」のねらいと内容について理解する ・子どもの表現を援助する方法を知る ・保育者として自身の感性を磨く方法を知る ・グループで協働する方法を知る

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス
2	領域「表現」のねらいと内容
3	平面技法の基礎Ⅰ
4	平面技法の基礎Ⅱ
5	平面技法の基礎Ⅲ
6	表現の指導法Ⅰ
7	表現の指導法Ⅱ
8	表現とICT Ⅰ
9	表現とICT Ⅱ
10	地域・行事における表現Ⅰ
11	地域・行事における表現Ⅱ
12	地域・行事における表現Ⅲ
13	模擬保育Ⅰ
14	模擬保育Ⅱ
15	ふりかえり

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	事前学習は、指定された教科書と配布資料の範囲に目を通すことと、指示された準備物を用意すること。 事後学習は、授業で取り組んだ内容をスケッチブックにまとめること。
テキスト	樋口一成 , 2018,『幼児造形の基礎』萌文書林 .
参考文献	(1) 厚生労働省, 2018,『保育所保育指針』フレーベル館 . (2) 文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領』フレーベル館 . (3) 内閣府, 2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 . (4) 浜口順子 ,2018,『新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林 . (5) 吉永早苗 , 2022, 子どもの活動が　広がる・深まる保育内容「表現」, 中央法規 .
学生に対する評価	課題、レポート（80%）受講姿勢（20%）
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの音楽表現
担当教員	神崎 由布子
授業概要	①保育現場における音楽表現の中から「リズム遊び」「子どもの歌」「合奏」「ダンス」を中心に基本的な考え方と表現力を磨く。 ②幼児期に豊かな感性や表現力、想像力、創造力を養うために、保育における音楽表現の必要性を考え、発達段階に応じた指導方法を修得する。 ③保育現場で行われる音楽関連行事（音楽会やお遊戯会等）においての音楽活用法を学ぶ。
授業の到達目標	①様々な表現を、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする事ができる。 ②表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 ③協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 ④様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション　「音楽表現」と「授業の進め方」「楽典」
2	リズムで遊ぶ　（ボディーパーカッション・ステップなど）
3	リズムで遊ぶ ／ 発表 （ボディーパーカッション・ステップなど）
4	カラダで歌う　（音を体現する）
5	カラダで歌う ／ 発表 （音を体現する）
6	子どもの音楽表現、これまでの授業の応用 ～ ICT を活用して表現方法や表現活動の具体例を示したり、学生自身が体験したりできる機会を設ける～
7	楽器を楽しむ　（合奏）
8	楽器を楽しむ　（合奏）
9	楽器を楽しむ ／ 発表 （合奏）
10	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』　概要・作品決定
11	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』　創作・練習
12	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』　創作・練習
13	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』　リハーサル
14	創作『保育者が子ども達に贈る小さな学芸会』　発表
15	授業の振り返り・まとめ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	楽典の基本を理解する ※運動できる靴や服装で授業に臨む
テキスト	(1)『子どものための音楽表現技術』萌文書林
参考文献	－
学生に対する評価	(1) 発表内容・提出物 50%　(2) 受講姿勢 50%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの音楽表現
担当教員	田中 麻夜
授業概要	本講義では、音楽表現の意義とねらいを理解し、音楽表現活動に必要な知識と技術を 15 回の授業で学び深めていきます。 乳幼児が表現するものと音楽とのかかわりについて考え、子どもたちの健やかな成長と保育の質の向上に役立つような音楽表現活動を実践していきます。
授業の到達目標	乳幼児の特性を理解し、子どもの発達を学びながら、年齢に適した音楽表現を知る 子どもたちへの指導上の配慮点・工夫を理解する うたや楽器などを用いながら具体的な活動を通して実践的な表現力と指導力を深めていく

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	音楽表現とは何かを学ぶ　①領域「表現」と音楽表現
2	音楽表現とは何かを学ぶ　②音楽表現がもたらすもの・音楽表現の豊かな力
3	音楽表現とは何かを学ぶ　③多様性を尊重する音楽表現
4	音楽表現とは何かを学ぶ　④音楽表現とコミュニケーション
5	音楽表現とは何かを学ぶ　⑤乳幼児の特性を理解する
6	子どもの発達を生かした音楽表現　①ことばを生かした音楽表現活動
7	子どもの発達を生かした音楽表現　②リズムを生かした音楽表現活動
8	子どもの発達を生かした音楽表現　③うごきを生かした音楽表現活動
9	子どもの発達を生かした音楽表現　④メロディーを生かした音楽表現活動
10	身体楽器（ボディ・パーカッション）を生かした音楽表現活動
11	小打楽器を用いた音楽表現活動
12	メロディー楽器を用いた音楽表現活動
13	模擬保育演習　1
14	模擬保育演習　2
15	模擬保育演習まとめ・発表（実技試験）

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業内容に沿ったまとめや振り返りをして授業理解に努めてください 講義で関心を持った分野の書物や楽譜、指導案の事例などを参考にして理解をふかめましょう
テキスト	なし 適宜授業理解に必要な資料を配布いたします
参考文献	⑴　厚生労働省、２０１８,『保育所保育指針』フレーベル館 ⑵　文部科学省、２０１８,『幼稚園教育要領』フレーベル館 ⑶　内閣府、２０１８,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ⑷　小西行郎，他編著、２０１６、『乳幼児の音楽表現』中央法規
学生に対する評価	授業への出席及び受講姿勢・意欲　３０％　課題提出・実技試験　７０％
実務経験のある教員による授業科目	こども園、幼稚園、保育園、地域の児童館などで表現指導の実務にあたっている。また、現場の保育者への職員研修、子育て支援者に対するワークショップなどもおこなっており具体的な事例を示しながら必要な知識や技術のい演習をおこなう。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの造形表現
担当教員	森脇 環帆、名取 初穂
授業概要	本授業では、子どもの造形表現教育のねらいを理解し表現活動に関する基礎知識の習得を目的とする。具体的な教材や材料の活用法と留意点、また、保育者とし必要な子どもの表現を援助する方法、自身の感性を磨く方法、グループで協働する方法を学ぶ。
授業の到達目標	・子どもの造形表現教育のねらいを理解する ・子どもの表現を援助する方法を知る ・保育者として自身の感性を磨く方法を知る ・グループで協働する方法を知る

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	芸術鑑賞
2	ガイダンス
3	子どもの造形教育の教材Ⅰ
4	子どもの造形教育の教材Ⅱ
5	子どもの造形教育の教材Ⅲ
6	子どもの造形教育の教材Ⅳ
7	子どもの造形教育の実践Ⅴ
8	子どもの造形教育の実践Ⅰ
9	子どもの造形教育の実践Ⅱ
10	子どもの造形教育の実践Ⅲ
11	子どもの造形教育の実践Ⅳ
12	描画材研究Ⅰ
13	描画材研究Ⅱ
14	造形の表現
15	ふりかえり

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	事前学習は、指定された教科書と配布資料の範囲に目を通すことと、指示された準備物を用意すること。 事後学習は、授業で取り組んだ内容をスケッチブックにまとめること。
テキスト	樋口一成 , 2018,『幼児造形の基礎』萌文書林 .
参考文献	(1) 厚生労働省, 2018,『保育所保育指針』フレーベル館 (2) 文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領』フレーベル館 (3) 内閣府, 2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 (4) 浜口順子 ,2018,『新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林 . (5) 吉永早苗 , 2022, 子どもの活動が　広がる・深まる保育内容「表現」, 中央法規
学生に対する評価	課題、レポート（80%）受講姿勢（20%）
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの身体表現
担当教員	田中 麻夜
授業概要	子どもたちは身体をつかってあそぶこと・表現することが大好きです。 保育の中で子どもたちの身体表現を引き出し、受け止めていくために必要な知識と技術を15回の授業の中で楽しく学び体得していきましょう。 授業は主に理論面と実践面の両面から進めていきます。
授業の到達目標	乳幼児の特性を理解し、表現することの楽しさを実感・体得する。 子どもたちへの指導上の配慮点を理解する。 乳幼児のあそびを身体表現の視点からひろげ、深めていく。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	理論編　子どもと表現（1） 実践編　体験・生活から身体表現へ　　4月の身体表現あそび
2	理論編　子どもと表現（2） 実践編　体験・生活から身体表現へ　　5月の身体表現あそび
3	理論編　子どもの身体表現に寄り添う（1）乳児編 実践編　体験・生活から身体表現へ　　6月の身体表現あそび
4	理論編　子どもの身体表現に寄り添う（2）幼児編 実践編　体験・生活から身体表現へ　　7月の身体表現あそび
5	理論編　身体表現の指導の内容と段階 実践編　体験・生活から身体表現へ　　8月の身体表現あそび
6	理論編　身体表現の指導上の配慮 実践編　体験・生活から身体表現へ　　9月の身体表現あそび
7	実践編　ごっこあそびと身体表現　①新聞紙を用いて 体験・生活から身体表現へ　　10月の身体表現あそび
8	実践編　ごっこあそびと身体表現　②なわを用いて 体験・生活から身体表現へ　　11月の身体表現あそび
9	実践編　ごっこあそびと身体表現　③お手玉を用いて 体験・生活から身体表現へ　　12月の身体表現あそび
10	実践編　ごっこあそびと身体表現　④ごむひもを用いて 体験・生活から身体表現へ　　1月の身体表現あそび
11	実践編　ごっこあそびと身体表現　⑤フラフープを用いて 体験・生活から身体表現へ　　2月の身体表現あそび
12	実践編　ごっこあそびと身体表現　⑥てあわせあそびを用いて 体験・生活から身体表現へ　　3月の身体表現あそび
13	実践編　ごっこあそびと身体表現　⑦にんぎょう・ぬいぐるみを用いて 身体表現の指導のポイント
14	実践編　ごっこあそびと身体表現　⑧絵本を用いて 身体表現あそびと保育者の役割
15	『子どもと身体表現』学習の振り返りと総まとめ（実技試験）

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業内容に沿った資料プリントのまとめや振り返りをして授業理解の一助としてください 講義で関心を持った分野の書籍などを参考にして、自分なりの理解を深めましょう
テキスト	なし 動きやすい服装・くつで参加してください 授業中に資料プリントを適宜配布いたします 筆記用具を持って授業に参加してください
参考文献	⑴古市久子編著、2013,『保育表現技術　ー豊かに育つ・育てる身体表現』ミネルヴァ書房 ⑵高野牧子編著、2015,『うきうきわくわく身体表現あそび　ー豊かに広げよう☒子どもの表現世界』同文書院 ⑶厚生労働省、2018,『保育所保育指針』フレーベル館 ⑷文部科学省、2018,『幼稚園教育要領』フレーベル館 ５内閣府、2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
学生に対する評価	毎回提出のコメントペーパー（30%）および実技試験 (55%) 授業への出席・参加態度および受講姿勢・意欲 (15%)
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育方法・技術演習Ⅰ
担当教員	浅井 忍
授業概要	保育者が備えるべき専門的力量の中核となる「教育の方法・技術」について講義で明らかにするとともに、理論と実践がつながる授業を協働で創りあげていく。
授業の到達目標	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション （教育方法の基礎的理論と実践を学ぶ意義、授業の進め方、評価方法、さまざまな保育教材の紹介）
2	子どもを取り巻く状況を知り、幼稚園・保育所の担う役割と求められる機能についての考察
3	自由保育時間に適した保育・教育環境の設定方法についての議論と演習
4	絵本を用いた導入と、遊びや発表会への保育展開についての考察
5	集団遊びの時間に適した保育環境の設定方法について、リズム体操や集団ゲームを通した小規模集団への指導技術と演習
6	保育に活用する名札製作を通して、実践での子どもを知る①
7	保育に活用する名札製作を通して、実践での子どもを知る②
8	保育に活用する名札製作を通して、実践での子どもを知る③
9	リトミックの基礎技術　リズムと音楽を通しての教育方法指導と演習
10	保育教材開発と教育方法①（学級・児童及び生徒・教員・教室・教材などの基礎的要件）
11	保育教材開発と教育方法② 身近な材料を利用した教材制作
12	保育教材開発と教育方法③身近な材料を利用した教材制作
13	指導案作成①　乳児を想定した指導案作成の演習
14	指導案作成②　幼児を想定した指導案作成の演習
15	学習の振り返りとまとめ、開発した教材および教育法の発表（授業内試験）

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	次回の授業内容を念頭におき、子どもに出会う場面において積極的な観察を行い、子どものイメージを持って授業に望むよう努める。また、授業内で使用したワークシートの読み返しを徹底することで事後学習の習慣化を図る。
テキスト	なし
参考文献	村上康成ほか，2001，『ピーマン村体操 CD ブック』童心社、中川ひろたか，1995『さつまのおいも』童心社 . 浅井忍・フェケテ晴子，2018，「養成校におけるリトミックの具体的活動内容の検討」『草苑保育専門学校研究紀要』3 号 21 頁～ 25 頁 . 浅井忍，2018，「保育者養成校における「保育技術指導」の表現活動に関する考察」『草苑保育専門学校研究紀要』3 号 17 頁～ 20 頁 . 厚生労働省，2017，『保育所保育指針』フレーベル館 . 文部科学省，2017，『幼稚園教育要領』フレーベル館 .
学生に対する評価	受講姿勢・提出物・発表：50%、・授業内試験：50%
実務経験のある教員による授業科目	現在もフィールドである幼稚園教育現場の課題点から、解決する手段と方法の指導を行う。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育方法・技術演習Ⅱ
担当教員	浅井 忍
授業概要	保育者が備えるべき専門的力量の中核となる「教育の方法･技術」について､理論と実践がつながる授業を協働で創りあげていく。
授業の到達目標	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	保育実践における子どもとの対話を考察した教材研究①
2	保育実践における子どもとの対話を考察した教材研究②
3	保育実践における子どもとの対話を考察した教材研究③
4	感覚遊びから、保育への実践活用を学ぶ① 絵本の紹介
5	感覚遊びから、保育への実践活用を学ぶ② DVD の紹介
6	保育教材開発と教育方法① 特殊な材料を利用した教材企画
7	保育教材開発と教育方法② 特殊な材料を利用した教材作成
8	保育教材開発と教育方法③ 特殊な材料を利用した教材作成
9	保育教材開発と教育方法④ 特殊な材料を利用した教材作成
10	開発した教材および教育法の発表 (幼児理解に基づく)
11	保育設定と展開① 保育場面を想定した、ICT を利用しての保育展開方法の作成
12	保育設定と展開② 保育場面を想定した、実現するための方法や技術の検討
13	保育設定と展開③ 保育場面を想定した、作成方法の具体化
14	保育設定と展開④　保育場面を想定した、模擬保育演習
15	学習の振り返りとまとめ（授業内試験）

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	次回の事業内容を念頭におき、子どもに出会う場面において積極的な観察を行い、子どものイメージを持って授業に望むよう努める。 また、授業内で使用したワークシートのフィードバックを行うことで事後学習の習慣化を図る。
テキスト	なし
参考文献	エリックカール，1997『できるかな？あたまからつまさきまで』偕成社 . かこさとし，2016『未来のだるまちゃんへ』文藝春秋 . 帚木蓬生，2017『ネガティブ・ケイパビリティ』朝日新聞出版 . レッジョチルドレン，2012『子どもたちの 100 の言葉』日東書院本社 . 厚生労働省，2017『保育所保育指針』フレーベル館 . 文部科学省，2017『幼稚園教育要領』フレーベル館 .
学生に対する評価	受講姿勢・提出物・発表：50%、授業内試験：50%
実務経験のある教員による授業科目	現在もフィールドである幼稚園教育現場の課題点から、解決する手段と方法の指導を行う。

開講年次：	1年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	30	授業形態：	講義

科目名	乳児保育Ⅰ
担当教員	横山 正美
授業概要	・主に教科書に沿って授業を進めるが、必要に応じてグループワーク・ワークシートの活用・事例を交えて学びを広げる。 ・演習では、保育現場を想定し、人形等を使いながら実際の手順を学んでいく。
授業の到達目標	(1) 保育士を目指すものとして、命についての洞察を深め責任を自覚する。 (2) 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し展開できるようになる。 (3) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について学び、実践できるようになる。 (4) 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し保育現場で展開できるようになる。 (5) 上記 (1) ～ (3) を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し作成できるようになる。 (6) 養育の引き出し（洞察力・想像力・創造力・対応力等）を増やしていくこと目指し、学び続ける態度を養う。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション～乳児保育を学ぶにあたって
2	乳児保育の目的と役割
3	乳児保育の基本
4	0、1、2歳児の発達
5	乳児（0歳児）の保育内容
6	1歳以上3歳未満児の保育内容
7	乳児の遊びと生活の基本的事項
8	乳児の生活の基本
9	乳児の遊び
10	乳児保育の環境構成
11	乳児保育における全体的な計画
12	乳児保育における子育て支援
13	乳児保育における連携
14	一人一人を健やかに育んでいくために
15	学期のまとめと振り返り

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促す。 ・授業内容の予習や振り返り用のワークシートでの復習を活用し、事前・事後の学習の習慣化を図り確実な知識と技術の習得に勤めていく。
テキスト	小山朝子、2024、『講義で学ぶ　乳児保育』、わかば社
参考文献	①『保育所保育指針解説』 フレーベル館. ②石丸るみ・本吉圓子，2006,『先生ママみたい』萌文書林. ③遠藤利彦，2017,『赤ちゃんの発達とアタッチメント：乳児保育で大切にしたいこと』ひとなる書房 ④善本眞弓編著、2024、『演習で学ぶ乳児保育』わかば社
学生に対する評価	定期試験６０%、 提出物等２０%、 受講姿勢２０%
実務経験のある教員による授業科目	保育士として、乳児から幼児への発達の流れを経験している。主任保育士の時は、産休明けの乳児保育立ち上げの環境整備と保育士の関わりの実際を経験した。2児の母として、利用者側の目線で乳児保育を考える機会を得た事、わらべ歌ベビーマッサージの認定講師の立場で、母親の抱える問題や不安の相談を受ける経験ができた事等を、保育の現場で実践に生かせるよう、授業の中で伝えていく。

開講年次：	2年次春	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	乳児保育Ⅱ
担当教員	横山 正美
授業概要	・主に教科書に沿って授業を進めるが、必要に応じてグループワーク・ワークシートの活用・事例を交えて学びを広げる。 ・演習では、保育現場を想定し、人形等を使いながら実際の手順を学んでいく
授業の到達目標	(1) 保育士を目指すものとして、命についての洞察を深め責任を自覚する。 (2) 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し展開できるようになる。 (3) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について学び、実践できるようになる。 (4) 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し保育現場で展開できるようになる。 (5) 上記 (1) ~ (3) を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し作成できるようになる。 (6) 養育の引き出し（洞察力・想像力・創造力・対応力等）を増やしていくこと目指し、学び続ける態度を養う。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	乳児保育の意義 抱っこ　沐浴
2	０～３歳までの発育・発達 おむつ交換
3	食事の援助と環境 おんぶ　着替え
4	排泄の援助と環境 授乳の仕方　排気の仕方
5	睡眠・休息の援助と環境 離乳食の食べさせ方
6	着脱に関する援助と環境 連絡帳
7	清潔に関する援助と環境 連絡帳②
8	乳児保育における健康と安全 連絡帳③
9	乳児（０歳児）の保育内容と遊び 連絡帳④
10	１歳以上３歳未満児の保育内容
11	１歳以上３歳未満児の遊び グループワーク（年齢別の発達と保育内容について）
12	乳児保育における計画と評価 グループワーク（年齢別の発達と保育内容について）
13	乳児保育を支える連携 グループワーク（年齢別の発達と保育内容について）発表
14	授業内演習試験
15	授業内演習試験解説

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促す ・授業内容の予習や振り返り用のワークシートを活用し、事前・事後の学習の習慣化を図ると共に、確実な知識と技術の習得に勤めていく。
テキスト	善本眞子、2024、『演習で学ぶ　乳児保育』、わかば社
参考文献	①『保育所保育指針解説』 フレーベル館. ②石丸るみ・本吉圓子，2006,『先生ママみたい』萌文書林. ③遠藤利彦，2017,『赤ちゃんの発達とアタッチメント：乳児保育で大切にしたいこと』ひとなる書房.
学生に対する評価	演習試験６０%、 提出物２０%、 受講姿勢２０%
実務経験のある教員による授業科目	保育士として乳児から幼児への発達の流れを経験した。主任保育士の時、産休明け乳児保育の立ち上げ環境整備と保育士の関わりの実際を経験した。2児の母として利用者側の目線で乳児保育を考える機会を得た事、わらべ歌ベビーマッサージの認定講師として、母親の抱える問題や不安の相談を受ける経験ができた事等を、保育現場で実践に生かせる知識として伝えていく。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの健康と安全
担当教員	細谷 光子
授業概要	保育者に求められる、保健的観点を踏まえた知識や養護技術、ケガや疾病、感染症等の適切な対応、事故や災害における安全管理能力等、健康と安全支援について、演習と実習を取り入れながら授業を展開する。授業内容に応じて、具体的な事例の紹介や映像などを取り入れ、学びを拡げていく。
授業の到達目標	(1) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 (2) 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 (3) 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 (4) 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 (5) 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 (6) 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	子どもたちを守る (1)　事故の特徴と現状
2	子どもたちを守る (2)　危機管理（リスクマネジメント）　ヒヤリハット　KYT
3	子どものけがへ適切に対応する (1)　転倒・転落によるけが（すり傷・切り傷・打撲・骨折　脱臼）その他のけが（頭部外傷・熱傷など）
4	子どものけがへ適切に対応する (2)　包帯・三角巾
5	子どもの危機的状況へ適切に対応する (1)　熱中症　溺水　誤嚥・誤飲
6	子どもの危機的状況へ適切に対応する (2)　一次救命処置　心肺蘇生　AED　異物除去
7	子どもの危機的状況へ適切に対応する (3)　食物アレルギー　アナフィラキシー　エピペン
8	犯罪・災害から子どもたちをまもる　防犯対策　災害への備え
9	心地よい保育環境をつくる　子どもの健康と保育の環境　環境衛生の基準
10	感染症から子どもたちをまもる　保育施設の衛生管理　手洗い・消毒　ゾーニング
11	子どもの体調不良に気づき対応する　子どもの病気　健康観察　バイタルサインの測り方
12	保育における保健的対応 (1)　子どもの成長評価　身体計測　乳幼児身体発育曲線
13	保育における保健的対応 (2)　3歳未満時への対応　乳幼児突発死症候群（SIDS）対策　スキンケア
14	保育における保健的対応 (3)　医療的ケア児と保育者の対応　与薬
15	子どもの最善の利益保障を目指して　地域・専門職・職員同士の連携　保健活動の計画及び評価　学習のまとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	【事前学習】授業範囲となるテキストの部分を読んでおく。 【事後学習】授業で学んだことをテキストや授業で配布したプリントを確認して理解を深める。
テキスト	山下雅佳実　2025 『イラスト　子どもの保健・健康と安全』 東京教学社
参考文献	「2019年改訂版　保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成31年4月、厚生労働省） 「2018年改訂版　保育所における感染症対策ガイドライン」（令和5年5月一部改訂　こども家庭庁） 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 （平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）　等
学生に対する評価	(1) 授業態度を含む平常点：30%　(2) 課題・実技評価：20%　(3) 筆記試験：50%
実務経験のある教員による授業科目	養護教諭 (公立小中学校33年) の経験を活かし、保育所保育の基盤である「養護」について実践的講義内容を展開する。

開講年次： 2 年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	特別支援保育Ⅰ（幼・保コース）/ 障害児保育Ⅰ（保育士コース）
担当教員	吉田 八重子
授業概要	障害の特性、原因、発達の特性について基礎を理解する。特別な配慮を必要とする子どもの発達支援と保育方法について、実際の事例を取り入れ適宜グループワークを行う
授業の到達目標	授業の到達目標:各障害について基礎的な理解を得る。保育者の支援の内容と支援方法を理解する。保護者･関係機関 (保健･医療・福祉）・職員の連携と協働の組織的対応から見える支援の繋がりの必要性を理解する

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス・障害児保育を支える理念　歴史的変遷
2	子どもの発達の捉え方
3	子どもの発達とアセスメント
4	インクルーシブ理念と制度、統合保育にむけてのメリット・デメリット
5	子どもの心身発達と障害
6	運動障害 (肢体不自由）の理解と援助
7	視覚・聴覚障害の理解と援助
8	知的発達障害の理解と援助
9	自閉症スペクトラム障害Ⅰ
10	注意欠如・多動性障害 (ADHD)
11	学習障害 (LD)
12	視覚化した教材制作
13	各自実践発表
14	障害のある子どもの保育における現状と課題
15	授業のまとめ (フィードバックを含む)

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業内容についてテキストの該当箇所をまとめる。講義で学んだ単語に付随する説明をまとめる
テキスト	編著　齊藤　勇気・守　巧　　2025 年 『子どもが共に育つための障害児保育』 萌文書林
参考文献	適宜、資料などを作成・提供する
学生に対する評価	定期試験結果 (50%)　授業参加態度 (50%)
実務経験のある教員による授業科目	保育所、幼稚園・障害児 (者) 施設等で相談・指導業務を担っている実務経験者の講師が、保育現場の実情に即した実際的な技術について講義・指導を行う

開講年次：	2 年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	特別支援保育Ⅱ（幼・保コース）/ 障害児保育Ⅱ（保育士コース）
担当教員	吉田 八重子
授業概要	障害の特性、原因、発達の特性について基礎を理解する。特別な配慮を必要とする子どもの発達支援と保育方法について、実際の事例を取り入れ適宜グループワークを行う。
授業の到達目標	各障害について基礎的な理解を得る。保育者の支援の内容と支援方法を理解する。保護者・関係機関 (保健・医療・福祉）・職員の連携と協働の組織的対応から見える支援の繋がりの必要性を理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	発達支援保育の基本
2	子ども発達と障害
3	実践例報告
4	特別な支援を必要とする子どもの教材作成
5	子どもに伝わる視覚支援Ⅰ
6	子どもに伝わる視覚支援Ⅱ
7	専門機関と療育
8	就学問題と教育機関の現状Ⅰ（通級による指導、自立活動の教育課程上の位置づけ）
9	就学問題と教育機関の現状Ⅱ（特別支援教育の実践と課題、個別の指導計画及び教育支援計画作成の意義と方法）
10	統合保育の課題Ⅰ
11	統合保育の課題Ⅱ（ソーシャルインクルージョンを目指して）
12	発達支援保育の実際
13	障害児を養育している家族への支援
14	専門職や関係機関及び家族との連携による支援体制の構築について
15	授業のまとめ (フィードバックを含む)

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	授業内容についてテキストの該当箇所をまとめる。講義で学んだ単語に付随する説明をまとめる
テキスト	編著　齊藤　勇紀・守　巧　　2025 年　『子どもが共に育つための障害児保育』　萌文書林
参考文献	適宜、資料などを作成・提供する
学生に対する評価	定期試験結果 (50%)　授業参加態度 (50%
実務経験のある教員による授業科目	保育所、幼稚園、障害児 (者) 等で相談・指導業務を担っている実務経験者の講師が、保育現場の実情に即した実際的な技術について講義・指導を行う

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	社会的養護Ⅱ
担当教員	野々山 貴
授業概要	社会的養護Ⅱの授業では、テキスト（図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅱ）を使用し”社会的養護の歴史と理念／アドミッションケア／インケア／リービングケア／アフターケア／ソーシャルワーク／記録と評価”の内容を基軸として構成する社会的養護の対象となる子どもの生活と発達を縦断的に捉え、保育者として必要な実践的理解と支援方法を事例・演習を通して学びます。特に施設等への入所前から退所後までの継続的支援、子どもの権利擁護、チームによる支援、記録と評価の意義について具体的な場面を想定しながら理解を深める。
授業の到達目標	1. 社会的養護の歴史的変遷と理念、子どもの権利の視点を理解する。 2. アドミッションケアにおける一時保護・施設入所・里親委託の意義と支援内容の理解する。 3. インケアにおける日常生活支援および治療的支援の基本を具体例を挙げて説明、理解する。 4. リービングケアにおける自立支援の課題と支援方法を理解し、進学・就労支援の視点から理解する。 5. アフターケアの意義と家庭復帰後、社会移行後の継続的支援の必要性を理解する。 6. 社会的養護におけるソーシャルワークの役割と多職種・関係機関との連携について理解する。 7. 社会的養護における記録と評価の意義を理解し基礎的な記録作成の視点を理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	社会的養護の歴史と理念（第1章・演習）
2	子どもの権利と社会的養護の現状（第1章・演習）
3	アドミッションケアの意義と一時保護（第2章・演習）
4	施設入所・里親委託に伴う支援（第2章・演習）
5	インケア①日常生活と支援（第3章・演習）
6	インケア②治療的支援と心理的理解（第3章・演習）
7	インケア③生活全体を通した支援の在り方（第3章・演習）
8	リービングケア①自立支援の考え方（第4章・演習）
9	リービングケア②進学・就労支援（第4章・演習）
10	アフターケア①家庭復帰後の支援（第5章・演習）
11	アフターケア②社会へ出た子どもへの支援（第5章・演習）
12	ソーシャルワーク①理論と支援過程（第6章・演習）
13	ソーシャルワーク②関係機関・多職種連携（第6章・演習）
14	記録と評価①記録の意義と方法（第7章・演習）
15	記録と評価②支援の振り返りとまとめ（第7章・演習）

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・各章の該当箇所を事前に学習し疑問点や論点を整理する。 ・”社会的養護”、”児童虐待”等に関するニュースなどの情報を日常的に意識し確認する。 ・授業後、演習・事例検討を振り返り学習したことと課題を整理する。 ・次の授業に向けて提示された課題について考えをまとめておく。
テキスト	図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅱ　杉山宗尚・原田旬哉編著　萌文書林
参考文献	適宜報告。 よくわかる社会的養護Ⅱ　小木曽宏・宮本秀樹・鈴木崇之編著　ミネルヴァ書房　ほか
学生に対する評価	定期試験60点　受講情況40点
実務経験のある教員による授業科目	テキストだけでなく保育・療育、社会的養護の現場での経験、実践を交えて一緒に学んでいきたいと思います。保育現場では、チームワークやコミュニケーションも必要とされます。授業を通してチームワーク能力も高めていけたらと思います。

開講年次：	2年次春	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	社会的養護Ⅱ
担当教員	森脇 晋
授業概要	社会福祉・子ども家庭支援・社会的養護Iで学んだことをベースに、施設養護や家庭養護の実際についてアクティブラーニング形式で理解を深める。具体的には、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際にも触れながら、日常生活支援・治療的支援・自立支援等の内容、子どもの福祉にかかわる保育士に求められる倫理・資質も学べるように演習する。
授業の到達目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	〔演習〕①「こうのとりのゆりかご」を考える　②「特別養子縁組」を考える 〔教科書の関連箇所〕1章
2	〔演習〕①「一時保護」を考える　②「子どもの受入れ」を考える 〔教科書の関連箇所〕2章
3	〔演習〕①心理治療施設における日常生活支援および治療的支援の実際を考える　②児童自立支援施設における日常生活支援および治療的支援の実際を考える 〔教科書の関連箇所〕3章
4	〔演習〕①児童養護施設における「衣食住」の支援について考える　②乳児院のインケアを考える 〔教科書の関連箇所〕3章
5	〔演習〕①「ライフストーリーワーク」を考える　②進学の支援について考える 〔教科書の関連箇所〕4章
6	〔演習〕①「アフターケア」について考える 〔教科書の関連箇所〕5章
7	〔演習〕①要保護児童対策地域協議会の取り組みについて考える 〔教科書の関連箇所〕該当なし
8	〔演習〕①「退所に向けたソーシャルワーク」について考える　②里親養育における「試し行動」について考える 〔教科書の関連箇所〕6章
9	〔演習〕①バイステックの7原則を、保育実習における子どもとの関わりの場面に当てはめて考える　②バイステックの7原則を、施設実習における子どもとの関わりの場面に当てはめて考える 〔教科書の関連箇所〕該当なし
10	〔演習〕①事例における世帯のジェノグラムを書いて考える　②事例における世帯のエコマップを書いて考える 〔教科書の関連箇所〕7章
11	〔演習〕①児童施設養護の日常生活支援における記録の取り方を通して、記録のあり方について考察する　②動画を視聴して、記録を書いて考察する 〔教科書の関連箇所〕該当なし
12	〔演習〕①母子生活支援施設における自立支援計画の立案を通して、自立支援計画を考える　②事例における世帯の自立支援計画を立案をして、自立支援計画を考える 〔教科書の関連箇所〕該当なし
13	〔演習〕①乳児院の第三者評価や自己評価を通して、施設運営上の留意点を考える　②事例における施設の自己評価をして、自己評価を考える 〔教科書の関連箇所〕該当なし
14	〔演習〕①ブラインドウォークを通して、社会的養護の担い手に必要な視点を考える　②動画を通して、社会的養護の担い手に必要な視点を考える 〔教科書の関連箇所〕該当なし
15	1 ～ 14回を通した振り返りを行う

定期試験期間における試験	1～15回の内容の学修度を測る記述式の筆記試験を行う
事前・事後学習の内容	〔事前学習〕　各授業回の〔教科書の関連箇所〕に記載されているところを読んでおく 〔事後学習〕　授業中に提示される事後レポートに取り組む
テキスト	図解で学ぶ保育社会的養護Ⅱ（萌文書林）
参考文献	都度提供する
学生に対する評価	事後レポート 30%、定期試験 70%
実務経験のある教員による授業科目	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験、自治体のこども家庭支援員の経験を元に、社会的養護の概念から最新動向に至るまでを、具体的な事例や動画を織り交ぜながら教授する。

開講年次： 2 年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子育て支援
担当教員	川﨑 理香
授業概要	現代の社会環境における子育て家庭の現状について理解し、子育て支援の概念や基本的な知識および技術を習得する。また、授業は講義形式を中心に進めるが、主体的・対話的学びを目指し、グループワークを通じて受講者の考えを意識化する作業も行う (習熟度により応用ワークを実施する場合もある)。なお、授業の進行状況等により内容変更の可能性がある。
授業の到達目標	1. 現代社会における子育て家庭のニーズを学び、子育て支援の基本を理解する。 2. 保育士が行う子育て支援について、多様な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を養う。 3. 保育士の専門性を活かした相談支援について、その特性と展開を習得する。 以上、保育士が行う「子育て支援」の特性を学習する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	イントロダクション 講義内容・取り組み方等の説明
2	保育士による保護者支援 保育の専門性を活かした保護者支援を理解する
3	保育者の基本的態度 - バイステック 7 原則 - 保護者との相互理解 (信頼関係の形成) までのプロセスを理解する
4	家庭支援の多面的理解 子育て家庭を取り巻く現代社会の現状を理解する
5	支援における子ども・保護者理解 相談支援のプロセスを理解する
6	支援計画の立案と環境の構成 専門職として客観性の高い相談支援の展開を理解する
7	支援計画の実施と評価 -PDCA サイクルの活用 - 専門的知識・技術を活用した事例を検討する
8	保育所における支援の実際と配慮 保育所の支援事例を検討する
9	支援における組織的な取り組み 保育の質の向上に向けた職員間の連携・協働を理解する
10	地域の社会資源の活用と専門職との連携・協働 身近な子育て支援に関する社会的資源を理解する
11	地域の子育て支援施設における支援 地域での子育て支援施設の特性を活かした支援の現状を検討する
12	障害のある子どもおよびその家庭への支援 幼児の障害児支援を検討する
13	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭への支援 現代社会において家庭内に発生した事件 (虐待・DV 等) を検討する
14	要保護児童および家庭への支援と多様な支援 児童養護施設と多文化共生社会家庭の増加
15	まとめ これまでの講義内容の復習と資料作成を行う

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・次回の講義内容に即した課題を提示し、アクティブラーニングの習慣化を図る。 ・ワークシートを配布し、講義後の知識や技術の習得に活用する。 ・現代社会における子育て家庭に関する事象に興味や関心を持ち、主体的な所感を日常的に意識する。
テキスト	『新基本保育シリーズ 19　子育て支援』中央法規
参考文献	保育所保育指針・保育所保育指針解説書等、必要に応じて紹介する。
学生に対する評価	定期試験 (50%)、授業への取り組み (50%) により、総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目	保育・幼児教育現場、児童厚生施設での実務経験のある教員が、子育て支援における知識や現場に必要な技術を授業内で指導する。

開講年次：	2年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	子育て支援
担当教員	永井 亮
授業概要	【テーマ】児童虐待予防のための子育て支援 現在の人間社会において大きな社会問題となっている「児童虐待」について、そのメカニズムを解明し、子どもの命を守るために保育所の保育士は虐待リスクのある保護者に対してどのような子育て相談支援を行うかを理解し、また、子どもを虐待から救い「子どもの最善の利益」を保障していくことについて考察していく。 本授業を学ぶことで、児童虐待問題の知識や保育士の虐待予防の子育て支援のありかたについて習得できる。
授業の到達目標	1. 児童虐待の基礎知識について正しく理解する。 2. 保育士による「虐待予防・虐待対策のための子育て支援」について理解する。 3. 子どもを虐待から守るために保育士は何をすべきかを理解する。 4. 学んだことを自らのキャリア形成に生かす。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 東京都台東区４歳児虐待死事件から児童虐待と保育所の子育て支援について考える
2	子育て支援と虐待防止支援の関係 虐待防止支援における保育所の意義 / 子育て支援と虐待防止支援の関係
3	児童虐待の基礎知識① 児童虐待の定義 / 代理ミュンヒハウゼン症候群 / SBS / 面前ＤＶ
4	児童虐待の基礎知識② 虐待の世代間連鎖 / 虐待が起きる原因 / アタッチメントと虐待
5	児童虐待の基礎知識③ 子どもを虐待から救うための法律 / こども家庭センター / 要対協
6	児童虐待の基礎知識④ 虐待通告 / 児童相談所 / 一時保護
7	児童虐待の基礎知識⑤ 虐待を受けた子どもの心の傷と行動特性
8	児童虐待の基礎知識⑥ 虐待により親子分離された場合 / 児童福祉施設（社会的養護）
9	児童虐待防止のための子育て支援① 保育士が虐待防止の子育て支援に関わる根拠 / 保育所保育指針 / 保育所保育指針解説
10	児童虐待防止のための子育て支援② 保護者との信頼関係の構築 / 保育士として保護者に向き合う際の基本姿勢
11	児童虐待防止のための子育て支援③ 虐待の気付き / 虐待の早期発見・早期通告 / 保護者との面接技術（ソーシャルワーク）
12	児童虐待防止のための子育て支援④ ドメスティック・バイオレンス / 面前ＤＶ
13	児童虐待防止のための子育て支援⑤ 内密出産 / こうのとりのゆりかご
14	児童虐待をテーマにした映画を鑑賞し、児童虐待予防のための子育て支援について考える（前編）
15	児童虐待をテーマにした映画を鑑賞し、児童虐待予防のための子育て支援について考える（後編）

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	毎日、テレビ・ネット・新聞・書籍などで「児童虐待に関する事件」「児童福祉施設や児童相談所」「虐待家庭への子育て支援」などに関する記事を読み、関心を深めておくこと。
テキスト	山縣文治・著　(2021)『保育者のための子ども虐待 Q&A － 予防のために知っておきたいこと』(株) みらい
参考文献	—
学生に対する評価	受講姿勢・提出物 (リアクションペーパー)：30% 定期試験：70%
実務経験のある教員による授業科目	児童養護施設の児童指導員、都立精神保健福祉センターの思春期相談ソーシャルワーカー、としての勤務を経て、保育士養成校・社会福祉士養成校で、理論だけの講義ではなく、自ら実践した事例も取り入れた授業展開をしている。社会福祉士。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子育て支援
担当教員	山本 真理子
授業概要	現代の社会環境における子育て家庭の現状について理解し、子育て支援の概念や基本的な知識及び技術を習得する。 自分自身についても考えながら、ワークシート・グループワークやロールプレイを通して主体的で対話的に学ぶ。
授業の到達目標	1. 現代社会における子育て支援の必要性を学び、子育て支援の基本・機能を理解する。 2. 保育者が行う子育て支援において必要な内容と方法や技術を習得する。 3. 保育者の専門性を活かした相談援助についての特性と展開を習得する。 4. 自分を知り、子育て支援に必要な技能を身につける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 「子育て支援」で学ぶこと
2	子どもの保育とともに行なう保護者の支援
3	日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
4	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解
5	子どもおよび保護者の状況・状態の把握
6	支援の計画と環境の構成
7	支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8	職員間の連携・協働
9	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
10	保育所等における支援
11	地域の子育て家庭に対する支援
12	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援
13	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解
14	子ども虐待の予防と対応 要保護児童等の家庭に対する支援
15	「子育て支援」のまとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	・授業内容について見通しをもって学習できるように予習と準備をおこなう。 ・テキストや配布されたプリントを管理し、理解を深め、知識の習得や実践に活用する。
テキスト	西村重稀・青井夕貴編集 「新基本保育シリーズ⑲ 子育て支援」中央法規
参考文献	①厚生労働省、2018、『保育所保育指針解説』フレーベル館 ②文部科学省、2018、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ③内閣府、文部科学省、厚生労働省、2018、『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』フレーベル館 ④随時必要なプリントを配布する
学生に対する評価	定期試験 50% 授業への取り組み姿勢（態度、意欲）30% 提出物（提出物期限含む）20%
実務経験のある教員による授業科目	元幼稚園教諭 元保育士 元子育て支援部署担当 日本保育学会会員 昔遊びの会会員 親子触れ合い遊び講師 児童文化担当 おもちゃコンサルタント 保育現場での経験と講師経験を活かして、子どもたちが心身ともに健康で過ごすために必要な保育内容について、講義と具体的な活動を通して学ぶ実践的な授業をおこなう。

開講年次：	2年次春/2年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	子どもの人間関係
担当教員	岸 久美子
授業概要	子どもの発達に合わせた人間関係について学ぶ。 具体的な保育の場面や子どもの姿の事例を使ってディスカッションを行い、乳幼児期における人間関係について学ぶ。
授業の到達目標	乳幼児を取り巻く人間関係及び現代的特徴とその社会的背景を理解する。 子ども一人ひとりの発達や状況に合わせた関わり方を理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見た人間関係　①
2	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見た人間関係　②
3	人と関わる力
4	人間関係で育つ協同性
5	小テストⅠ 1回目～4回目の振り返り
6	言葉を通じて深まる人間関係
7	人間関係を通して育む「道徳性・規範意識の芽生え」とは
8	幼保小連携と人間関係
9	保育者同士の人間関係 保護者との人間関係
10	小テストⅡ 6回目～9回目の振り返り
11	人と関わる保育者の役割り　①
12	人と関わる保育者の役割り　②
13	気になる子どもとのかかわり
14	領域「人間関係」とは
15	期末まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	翌週の授業について予告するので、テキストの該当箇所を読んでおいてください。 授業ごとのポイントについて、しっかり復習してください。
テキスト	田中卓也ほか編　基礎からまなべる保育内容（人間関係）ワークブック　あいう出版
参考文献	文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 必要に応じてプリントを配布します。
学生に対する評価	定期試験　50% 平常点　　50% 小テスト、提出物、授業の参加度ほか　30% 出欠席　20%
実務経験のある教員による授業科目	保育園において、リトミック、音楽遊び等を担当。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの環境
担当教員	有村 もと子
授業概要	子どもを取り巻く環境 (人的環境、自然環境、物的環境、社会的環境) についての理解を深める。 また、子どもの活動が豊かになるための環境構成を知り、保育者としての感性を養い、知識・技能を楽しく身に着ける。
授業の到達目標	1. 幼児を取り巻く環境とその関わりの重要性、乳幼児の発達にとっての環境の意義を理解する。 2. 乳幼児期の思考・科学的概念を理解し、それを育むための環境構成について知る。 3. 幼児期の標識・文字などや情報・施設との関わりを通しての学び、発達を理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	イントロダクション　ー「子どもの環境」
2	領域「環境」とは
3	身近な人的環境との関わり
4	身近な自然環境との関わり
5	身近な物的環境との関わり
6	身近な社会的環境との関わり　①
7	身近な社会的環境との関わり　②
8	文化や伝統、行事などに親しむ
9	数量、図形、標識、文字との関わり
10	子どもの安全と環境
11	持続可能な社会に向けた環境教育
12	持続可能な社会に向けた環境教育　SDGs
13	領域「環境」をめぐる現代的な課題
14	子どもにとって環境とは　ー学びのふりかえり①
15	子どもにとって環境とは　ー学びのふりかえり②

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	参考文献にあげた各解説書をよく読んでおくこと
テキスト	事例と演習でよくわかる　保育内容「環境」 駒井美智子・横山文樹　編著
参考文献	文部科学省，2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館. 厚生労働省，2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館. 内閣府，2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.
学生に対する評価	授業内試験　60% 受講姿勢（発表・制作物評価含む）40%
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園教諭や保育士園長経験を活かし、子どもたちにとっての安心・安全な環境を学生とともに学ぶ。人的環境として、学生自らが楽しく自己表現する技能を学ぶ。また、自然環境では、季節の行事等についての知識を習得する。

開講年次：	2年次春	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	子どもの言葉
担当教員	吉田屋 幸子
授業概要	具体的な事例や映像を通して子どもの姿を深く捉え、発達段階に応じた専門的知識と技術を養う。児童文化財の活用に関する理論と実践を軸に子どもたちの豊かな創造性と言語表現を育む意義を理解し、言葉への感覚を豊かにする教材・実践に関する知識を習得する 。また、ICT の活用や対話を中心としたアクティブ・ラーニングを取り入れ、子どもと関わる場面を具体的に想定・推察しながら実践できる力の育成を目指す 。
授業の到達目標	1. 乳幼児の言葉を育むための環境構成と適切な援助について説明できる。 2. 子どもの言葉の発達における保育者の関わりの重要性について、自らの言葉で説明できる。 3. 保育現場の様々な場面を想定し、保育者として適切な言葉を用いて子どもへの援助ができる。 4. 絵本や紙芝居などの児童文化財が持つ役割を理解しそれらを効果的に活用・演じるための基礎的な技術を修得する。 5. 保育者として豊かな言葉の感性を持って子どもと接する基礎的な姿勢を身につける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	領域「言葉」のねらいと内容
2	児童文化財の用い方と演習①
3	児童文化財の用い方と演習②
4	子どもの「言葉」の獲得　発達過程と言葉のつながり【乳児】視覚教材
5	子どもの「言葉」の獲得　発達過程と言葉のつながり【幼児】視覚教材
6	言葉遊び　保育教材作成・演習Ⅰ - 1
7	言葉遊び　保育教材作成・演習Ⅰ - 2
8	言葉遊び　保育教材作成・演習Ⅰ - 3
9	言葉遊び　保育教材作成・演習Ⅰ - 4
10	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成と教材作成Ⅱ -1
11	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成と教材作成Ⅱ -2
12	領域「言葉」に関わる具体的な指導案作成と教材作成Ⅱ -3
13	教材準備ⅠⅡを通した演習①
14	教材準備ⅠⅡを通した演習②
15	まとめ・領域「言葉」の育ちと小学校への連携・領域「言葉」における援助

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	次回の授業内容を事前に伝え、意欲を持って学べるよう準備を促す。 授業内容の予習や振り返り用のワークシートでの復習を活用し、事前・事後の学習の習慣化を図る。
テキスト	使用しない　　適宜資料を配布する
参考文献	安野光雅、大岡信、谷川俊太郎、松居直、1979,『にほんご』福音館書店 . 谷川俊太郎、1973,『ことばあそびうた』福音館書店 . とくながまり、みやさわはるこ ,1997,『ぶらぶらさんぽ』アリス館（吉田屋所蔵） せなけいこ ,2019,『いやだいやだの絵本』福音館書店 . せなけいこ ,2019,『あーんあんの絵本』福音館書店 . わかやまけん ,2020,『しろくまちゃんシリーズ』こぐま社 . 岸本元気 ,2007,『0・1・2 歳児の言葉がけ』明治書店 . 横山洋子 ,2022,『保育の現場で使える文章と言葉かけ』池田書店 . 内藤知美、新井美保子編 ,2018,『コンパス保育内容言葉』建帛社 . 文部科学省 ,2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館. 厚生労働省, 2018,『保育所保育指針解説』フレーベル館 . 内閣 ,2018,『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.
学生に対する評価	受講姿勢（授業への取り組み、意欲）：40%　　レポート：30%　　発表：30%
実務経験のある教員による授業科目	保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター、障害者支援施設での実務経験を有しています 。多様な現場において、対象者を深く理解し丁寧に接すること、また職員間の連携の中で自身の視点をリフレーミング（再構成）しながら、言葉を通じたコミュニケーション支援に携わって参りました 。本講義では、実践経験に基づき、子どもの言葉の豊かさを育む具体的な援助や環境構成について教授します。

開講年次：	2年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	30	授業形態：	講義

科目名	子ども理解
担当教員	横山 正美
授業概要	本授業では、幼児期の教育・保育の基盤となる「幼児理解」について、その理論と方法を体系的に学びます。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される理念を踏まえ、子どもの主体的な活動や遊びを通した発達・学びを理解するための視点を養います。具体的には、幼児理解の意義や原理、発達理論、観察・記録の方法、指導過程における子どもの姿の把握、発達のつまずきや背景要因の理解、保護者との連携に関する基礎的知識を学びます。これらを通じて、保育者として一人一人の子どもの生活や内面を理解し、適切な援助や指導を行うための基礎を身につけることを目指します。
授業の到達目標	(1) 幼児理解の意義と幼児期の教育・保育における役割を説明できる。 (2) 幼児期の発達や学びに関する基本的な理論を理解し、保育実践に活用できる。 (3) 子どもの生活や遊びの実態を把握するための観察・記録の方法を理解し、適切に用いることができる。 (4) 発達や学びの過程で生じるつまずきや背景要因を理解し、対応の視点を持つことができる。 (5) 保護者の子育てに関する不安や悩みを理解し、連携・援助の基本的な考え方を説明できる。 (6) 幼児理解を基盤として、指導計画や保育環境の構成に生かすための基礎的態度を身につける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	第1回　オリエンテーション「幼児理解の理論と方法」で学ぶこと　一幼児期の教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解
2	第2回　幼児理解の意義と理論を学ぶ
3	第3回　幼稚園教育と幼児理解
4	第4回「理解する」とは　第4回　子どもの発達や学びの理解
5	第5回　幼児期の教育と遊びの意義
6	第6回　幼児理解を深める保育者の基本的姿勢
7	第7回　幼保小をつなぐ理解
8	第8回　保護者との連携と理解・子育て支援
9	第9回　多様性に応じた教育・保育のための幼児理解
10	第10回　幼児理解の目的と方法
11	第11回　保育の実践のための記録
12	第12回　クラス集団の理解と指導
13	第13回　保育者の自己理解と保育の改善
14	第14回　幼児のつまずきの理解とその対応
15	第15回　幼児理解を磨く教職員間の協働

定期試験期間における試験	筆記試験有
事前・事後学習の内容	次回の学びの範囲を検討・準備ができるよう、幼児の発達の流れを復習・理解して授業に臨む。 事後学習：授業の内容をレポートなどで振り返り、理解を深めるとともに、その学びをどのように実践していくのかについて自身のイメージが持てるようにする。
テキスト	神長美津子・岩立京子・岡上直子・結城孝治（編著），2025,『幼児理解の理論と方法　発達や学びの過程に生じる「つまづき」に焦点をあてて』中央法規.
参考文献	本吉圓子，1993,『ここがちがう放任保育と任せる保育』萌文書林. 村田保太郎，2013,『保育の根っこにこだわろう：特選』全国社会福祉協議会. 鯨岡 峻 , 鯨岡和子 ，2007,『保育のためのエピソード記述入門』
学生に対する評価	筆記試験 50%・受講態度 20%・提出物 20%・グループワーク 10%
実務経験のある教員による授業科目	保育士資格・幼稚園教諭2種免許を有し、主任保育士として10年間勤務する中で、「子どもとの関りやカリキュラムは、目の前の子どもの理解から始まること」「子どもの理解にはその子を送り出す家庭の背景への深い理解が不可欠である」ということを、実践を通して学び、身につけてきた。2023年より大学院（子ども発達学）に入学し、子どもの発達の道筋を踏まえた保育者の関りについた専門的な学びを深めている。

開講年次： 1年次	選択・必修： 選択	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	子どもの造形表現Ⅱ
担当教員	森脇 環帆
授業概要	本授業は、オリジナルの教育教材を作成し地域で実践する演習です。まず、地域の魅力と危険を調査し防災マップを作成します。マップの情報を子どもに伝える目的の教育教材を作成し、地域の公園で子どもを対象に実践します。これらから、子どもの造形表現教育のねらいを理解すると共に、保育者として自身の感性を磨きグループで協働する方法、子どもの安全を保障しながら表現活動を援助する方法を学びます。
授業の到達目標	・子どもの造形表現教育のねらいを理解する ・保育者として自身の感性を磨く方法を知る ・グループで協働する方法を知る ・子どもの安全を保障しながら表現活動を援助する方法を知る

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス
2	防災マップの作成演習Ⅰ
3	防災マップの作成演習Ⅱ
4	防災マップの成演習Ⅲ
5	防災マップの作成演習Ⅳ
6	教育教材の作成Ⅰ
7	教育教材の作成Ⅱ
8	教育教材の作成Ⅲ
9	教育教材の作成Ⅳ
10	教育教材の作成Ⅴ
11	教育教材の実践Ⅰ
12	教育教材の実践Ⅱ
13	教育教材の実践Ⅲ
14	教育教材の実践Ⅳ
15	ふりかえり

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	事前学習は、指定された課題に対して日常的に興味をもつこと、指示された準備物を用意すること。 事後学習は、授業で取り組んだ内容をレポートにまとめること。
テキスト	なし
参考文献	(1) 浜口順子 ,2018,『新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林 . (2) 逃げ地図づくりプロジェクトチーム ,2019,『災害から命を守る「逃げ地図」づくり』, ぎょうせい . (3) 三輪律江 ,2017,『まち保育のススメ』, 萌文社 (4) 経済産業省 ,2013『想定外から子どもを守る 保育施設のための防災ハンドブック』
学生に対する評価	受講姿勢から評価を行う
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	音楽Ⅰ
担当教員	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子
授業概要	①ピアノ演奏の基礎的な技術を習得する。 ②歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く。その知識と技能を身に付ける。 ③自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解する。 ④子どもたちの前で弾き歌いをする場面を想像し、表現方法を学び、保育現場で即戦力になる弾き歌いの力を身につける。
授業の到達目標	教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら、子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。 授業で使用する弾き歌い集ステップ1のレパートリーを増やす。 レパートリー表を参考に、課題曲合格に向けて自分で計画を立てて練習できるようにする。 保育現場で即戦力になる「弾き歌いの力」の習得。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	全体でオリエンテーション　各グループで音楽の基礎である楽典を学ぶ　教本
2	弾き歌い（春の歌）　前奏の付け方を学ぶ　教本 ハ長調 和音 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集①　ドリル
3	弾き歌い（春の歌）　教本、ハ長調 和音　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集①　ドリル
4	弾き歌い確認テストリハーサル　演奏前後の挨拶、演奏マナーを習得する 教本 分散和音の伴奏形（その1）　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集①
5	弾き歌い確認テスト　前奏を付けて、子どもの前で弾き歌いをするイメージを持って演奏す 人の演奏を聞くことで、声の大きさ、バランスを学ぶ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集①
6	生活の歌の弾き歌い　スキップのリズム（タッカタッカのリズム）　付点リズムの習得 教本 分散和音の伴奏形（その2）　ドリル
7	生活の歌の弾き歌い　教本 3拍子のリズム　ハ長調の和音　ドリル
8	生活の歌の弾き歌い　教本 ヘ長調 フラット（♭）　ドリル
9	教本 ヘ長調の和音　生活の歌の弾き歌い　課題曲以外の季節の歌に取り組む　ドリル
10	弾き歌い（夏の歌）　教本 ト長調 シャープ（♯）　いろいろな伴奏形（その1）　ドリル
11	弾き歌い（夏の歌）　教本 いろいろな伴奏形（その2）　ドリル
12	教本 演奏記号を意識して演奏する　弾き歌い 付点のリズムの確認　ドリル
13	教本課題曲の進度を確認　スタッカートの習得　季節の弾き歌い曲のレパートリーを増やす　ドリル
14	グループ内、実技試験リハーサル　課題曲到達に向けて最終確認　テクニックが身に付いているか、自分の力を確認する メロディーと伴奏のバランスや、付点のリズムが習得できているか、グループで聞き合う　教本
15	音楽Ⅰ実技試験

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業で学んだ事を復習し、次の課題曲に取り組み練習する。
テキスト	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1.2 大梅由佳　古谷和子　肝付文子　学研 教職課程のための大学ピアノ教本　教育芸術社 ドリル　おんぷ読み方トレーニングプリント デプロMP
参考文献	—
学生に対する評価	①実技試験 60%　②受講姿勢 40%（授業態度・授業課題の取り組み方、提出物、弾き歌い確認テスト）
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	音楽Ⅱ
担当教員	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子
授業概要	①ピアノの基礎的な技術を習得する。 ②歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く。その知識と技能を身に付ける。 ③自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解する。 ⑤子どもの前で弾き歌いの場面を考えて演奏できるようにし、表現方法を習得する。
授業の到達目標	教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができる力を養う。 授業で使用する弾き歌い集ステップ1は弾けるように譜読みする力を身に付ける。 課題曲合格に向けて、自分で計画をたてて練習できるようにする。 保育現場で即戦力となる「弾き歌いの力」の習得。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション （各グループで音符の確認、課題の確認）
2	弾き歌い 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1．2ステップⅠ以上 教本 ドリル
3	弾き歌い（秋の歌） 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1．2ステップⅠ以上 教本 ドリル
4	生活の歌 付点のリズムの習得 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1．2ステップⅠ以上 教本 ドリル
5	生活の歌 付点のリズムの習得 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1．2ステップⅠ以上 教本 ドリル
6	弾き歌い確認テストリハーサル 演奏前後の挨拶や演奏マナーの確認
7	弾き歌い確認テスト 声の大きさ、ピアノ伴奏とのバランスを確認 クラス全員の前で演奏することで、自分の練習した成果を確認する
8	弾き歌い 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1．2ステップⅠ以上 教本
9	弾き歌い（冬の歌） クリスマスに向けての準備も考え選曲し弾き歌いに取り組む 教本 ドリル
10	教本 季節の歌 ドリル
11	教本 課題曲クリアした学生は前奏曲や讃美歌の練習をする ドリル
12	教本 課題曲の進度を確認する ドリル
13	教本 子どもの前で弾くことを想定し弾き歌いができているか確認する 付点の習得の確認 ドリル最終まとめ
14	実技試験リハーサル 演奏前後の挨拶や演奏マナーの確認 課題曲合格に向けて最終確認
15	音楽Ⅱ実技試験

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業で学んだ事を復習し、次の課題曲に取り組み練習する。
テキスト	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集1．2 学研 教職課程のための大学ピアノ教本 教育芸術社 ドリル おんぷ読み方トレーニングプリント デプロMP
参考文献	―
学生に対する評価	①実技試験60%②受講姿勢40%（授業態度・授業課題の取り組み方、提出物、弾き歌い確認テスト）
実務経験のある教員による授業科目	―

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	音楽Ⅲ
担当教員	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子
授業概要	①ピアノの基礎的な技術を習得する。 ②歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く。その知識と技能を身に付ける。 ③自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解する。 ④子どもの前で弾き歌いをする場面を考えて演奏できるように表現方法を習得する。 ⑤弾き歌いでは、自分の声の大きさとピアノ伴奏のバランスを意識して演奏できるようにする。
授業の到達目標	①1年間教本で基礎を学んだことを土台にして、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。 ②音楽の真の面白さに気付き、更なる興味を持つことを期待する。保育者として、子どもを前で自信をもって音楽表現活動を行うことができるための知識、技能を習得し、総合的な音楽力を身に付けることを目的とする。 ③弾き歌い集のステップ2以上の楽譜を読めるようにすること。人の前で、歌を付けて演奏する力を身に付ける。 ④保育現場の即戦力となる「弾き歌いの力」「伴奏力」を習得する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション　各グループで課題曲の確認　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1.2　ステップⅡ以上
2	弾き歌い（季節の歌）　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上　季節のうたのレパートリーを増やすドリル
3	弾き歌い（季節のうた）　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上　付点のリズムの習得　ドリル
4	マーチ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上　ドリル
5	弾き歌い試験課題曲の復習　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上　ドリル
6	弾き歌い確認テストリハーサル　演奏前後の基本的な挨拶など演奏マナーの確認
7	弾き歌い確認テスト　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上
8	弾き歌い（夏の歌）　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上　6・7・8月にふさわしい選曲　ドリル
9	弾き歌い（夏の歌）　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上　6・7・8月にふさわしい選曲　ドリル
10	生活の歌　実習でも必要とされる生活の歌を学ぶ　付点のリズムの習得　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集Ⅱ　ステップⅡ以上　ドリル
11	弾き歌い（生活の歌）　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 2　ステップⅡ以上　付点のリズムの習得　ドリル
12	試験課題曲の復習　連弾曲（課題をクリアしたら、レパートリーを増やす）　ドリル
13	試験課題曲の復習　子どもの前で弾き歌いをすることを想定して、演奏ができているかの確認　自分の歌声とピアノ伴奏のバランスを考えて演奏する　連弾曲　ドリル
14	弾き歌い試験リハーサル　試験課題曲の到達最終確認
15	音楽Ⅲ試験

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業で学んだ事の復習をし、次の課題曲に取り組み練習する。
テキスト	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2　学研 教職課程のための大学ピアノ教本　教育芸術社 ワクワクおんぷ読みドリル【下巻】著者汐巻公子　ヤマハ
参考文献	子どもの音感受の世界－心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求　無藤隆監修･吉永早苗（萌文書林）
学生に対する評価	①実技試験 60%②受講姿勢 40%（授業態度・授業課題の取り組み方、提出物、弾き歌い確認テスト）
実務経験のある教員による授業科目	―

開講年次：	2年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	音楽Ⅳ
担当教員	織田島 美麻・覺前 亜希子・笠原 青子・沓澤 玲奈・後藤 ゆかり・小林 早苗・中島 千枝・三橋 淑子・山﨑 淳子
授業概要	①ピアノの基礎的な技術を習得する。 ②歌唱や楽器を用いた活動を援助するために必要な五線譜を読み解く。その知識と技能を身に付ける。 ③自分たちが何故ピアノを練習するのか、音楽が何故子どもに必要なのかを理解する。 ④子どもの前で弾き歌いをする場面を考えて演奏できるように表現方法を習得する。 ⑤音楽のまとまり、フレーズを意識して弾き歌いができるようにする。 ⑥音楽の強弱法、スラー・レガートを意識して弾き歌いができるようにする。
授業の到達目標	①教本で簡単な基礎を学び、弾き歌いを中心に、自らも楽しいと感じながら子どもに音楽遊びを経験させることができるようにする。 ②音楽の真の面白さに気付き、更なる興味を持ってもらうことを期待する。保育者として、子どもの前で自信をもって音楽表現活動を行うことができるための知識、技能を習得し、総合的な音楽力を身に付けることを目的とする。 ③保育現場の即戦力となる「弾き歌い力」「伴奏力」の習得。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	生活のうたの弾き歌い　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1.2　ステップ 2 以上　楽譜通りに弾ける人はコード付けにも挑戦する　ドリル
2	生活のうたの弾き歌い　　付点のリズムの確認　楽譜通りに弾ける人はコード付けにも挑戦する　ドリル
3	弾き歌い（生活のうた） 付点のリズムの確認　ドリル
4	弾き歌い（秋のうた・生活のうた） 保育士 . 幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1.2 ステップ 2 以上　卒業試験課題曲　ドリル
5	弾き歌い（秋のうた） 卒業試験課題曲　ドリル
6	弾き歌い確認テストリハーサル　課題曲の到達最終確認
7	弾き歌い確認テスト　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1．2 ステップⅡ以上
8	卒業試験課題曲リストから 2 曲合格できるように取り組む（講師と相談してグレードに合った選曲をする） ドリル
9	卒業試験曲合格に向けて取り組む　クリスマスや冬を意識して、季節の曲の弾き歌い　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1.2　ステップ 2 以上　ドリル
10	卒業試験曲がクリアしたら連弾曲に挑戦する　人と合わせて演奏することを体感し、ソロと違う表現力を学ぶ　卒業試験課題曲　ドリル
11	連弾曲　人と合わせて演奏することを学ぶ　卒業試験課題曲 「朝」歌唱　ドリル
12	「朝」歌唱　連弾曲　卒業試験曲課題曲　ドリル
13	「朝」歌唱　卒業試験課題曲
14	卒業試験リハーサル　演奏前後の挨拶や演奏マナーの確認
15	音楽Ⅳ試験

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業で学んだことの復習をし、次の課題曲のに取り組み自ら練習する。
テキスト	保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 1，2　学研 教職過程のための大学ピアノ教本　教育芸術社 ワクワクおんぷ読みドリル【下巻】 著者　汐巻公子　ヤマハ
参考文献	子どもの音感受の世界－心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求　無藤隆・吉永早苗（萌文書林）
学生に対する評価	①実技試験 60% ②受講姿勢 40%（授業態度・授業課題の取り組み方、提出物、弾き歌い確認テスト）
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 90	授業形態： 実習

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）
担当教員	土井 美紗緒
授業概要	・保育士資格取得のために、認可保育所にて観察・参加・部分実習を行い、保育所の一日の流れや発達過程を理解する。 ・既習の教科の内容をふまえて直接子どもと関わる中で、子ども理解や保育所への理解を深め、保育所保育を体験的に学ぶ。 ・子どもや保育士の姿を通して「養護」と「教育」を一体的に行う保育所保育の基本等について、理解を深める。 ・保育の計画やの記録・省察について理解を深める。 ・保育者の姿を通して保育士の役割と職業倫理について理解する。
授業の到達目標	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	＜保育所実習の内容＞ １．保育所の役割と機能 （１）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）保育所保育指針に基づく保育の展開 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録による理解 （２）子どもの発達過程の理解 （３）子どもへの援助や関わり ３．保育内容・保育環境 （１）保育の計画に基づく保育内容 （２）子どもの発達過程に応じた保育内容 （３）子どもの生活や遊びと保育環境 （４）子どもの健康と安全 ４．保育の計画・観察・記録 （１）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と職業倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携・協働 （３）保育士の役割と職業倫理

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	（１）保育実習指導Ⅰ保育所（事前指導）を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 （２）実習先の沿革や保育方針について各自で調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 （３）教材準備や教材研究等保育の事前準備を行う。 （４）実習中は毎日、実習日誌の記録をすることを通して、省察を行う。
テキスト	（１）草苑保育専門学校　実習センター　2023年 『実習の手引き』草苑保育専門学校 （２）大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 （３）小櫃智子編書　田中君枝・小山朝子・遠藤純子　2015 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
参考文献	（１）厚生労働省　2018年 「保育所保育指針」 フレーベル館 （２）保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2 「協働」する保育士養成　一般社団法人全国保育士養成協議会編集 （３）小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子　2017 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社
学生に対する評価	（１）実習評価（実習園からの評価）60%　（２）実習日誌、提出物（提出期限、提出物内容など）40%
実務経験のある教員による授業科目	・保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開し、実習中の巡回指導を行う。

開講年次：	2年次春	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	90	授業形態：	実習

科目名	保育実習Ⅰ（施設）
担当教員	有村 もと子、石﨑 隆嗣
授業概要	・保育士資格取得のために、児童福祉施設及び障がい者施設にて観察・参加・部分実習を行い、施設の役割と機能を理解する。 ・既教科の内容をふまえて直接子どもや利用者と関わる中で、子ども・利用者理解や施設への理解を深める。 ・施設における保育士の援助や関わりを体験的に学び、保育士の多様な職務と役割について理解する。 ・観察や実習日誌を通して子ども・利用者理解について省察し、理解を深める。
授業の到達目標	1. 児童福祉施設や障がい者施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者とのコミュニケーションを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 観察・記録・日誌の記入方法及び自己評価等について具体的に理解する。 4. 施設職員としての保育士の業務内容や役割について理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	＜福祉施設等 (保育所以外) における実習の内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設における利用児・利用者の一日の流れ、支援内容や関わりを理解する。 （２）施設の役割と特質について理解する。 ２．子どもと利用者の理解 （１）観察とその記録について学ぶ。 （２）個々の状況に応じた支援や関わりについて学ぶ。 ３．施設における子ども・利用者の生活と環境 （１）計画に基づく活動や支援について。 （２）施設内での活動計画のねらい、目的を把握する。 （３）虐待防止、健康管理、安全対策、感染症等予防について理解する。 ４．計画と記録、日誌 （１）施設内で日誌に使用される専門用語を学び、記録時に活かせるようにする。 （２）日誌に基づく省察・自己評価 について学ぶ。 ５．専門職としての保育士の職務と役割 （１）保育士の業務内容、発達支援、家族支援、地域支援 を理解する。 （２）保育士の役割と職業倫理を理解する。（権利擁護、虐待、個人情報の管理、苦情解決） （３）多職種との連携 や他機関との連携を学ぶ。 ６．基本的な対応方法 （１）車椅子体験、調理実習、モンテッソーリ製作など。 （２）子どもや利用者へのコミュニケーション方法や、介助・支援技術を学ぶ。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	（１）保育実習指導Ⅰ施設 (事前指導) を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 （２）実習先の施設の種別や沿革について各自で調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 （３）教材準備や教材研究等保育・療育・支援の事前準備を行う。 （４）実習中は毎日、実習日誌の記録をすることを通して、省察を行う。 （５）事後指導として、省察し自己評価と自己理解を行い、保育士として将来必要とされる専門職としての役割を確認する。
テキスト	（１）草苑保育専門学校 2026 年『実習の手引き』草苑保育専門学校 （２）守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　2023『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 （３）随時プリント、教材配布
参考文献	（１）施設実習　施設種別の計画と記録の書き方　松本峰雄監修　萌文書林 （２）施設実習ガイド　保育者として成長するための事前事後学習　駒井美智子　編　　萌文書林
学生に対する評価	（１）実習評価 (実習施設からの評価)60%　（２）実習日誌、提出物 (提出期限、提出物内容など)40%
実務経験のある教員による授業科目	施設実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え、実習においてすぐに実践できるような課題を提示する。実習中には訪問指導を行う。

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）
担当教員	土井 美紗緒
授業概要	(1) 他教科と関連させながら、保育所の役割や一日の流れ、保育者の在り方などを具体的に学ぶ。 (2) 保育所実習での観察の視点、観察の内容の記録の書き方を学ぶ。 (3) 既習の知識や技術を総合的に実践する力を養うとともに、実習に役立つ保育技術や子どもとの関わり方を学ぶ。 (4) 実習に向けての書類、計画、記録の書き方を学ぶ。 (5) 事後指導において、実習の総括と自己評価を行い新たな課題・学習目標を明確にする。
授業の到達目標	(1) 保育実習の意義・目的を理解する。 (2) 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 (3) 実習施設における子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 (4) 実習の計画・実践・記録・振り返り・改善の方法や内容、教材、遊びの意味を知り、現場での実践への意欲を持つ。 (5) 実習事後指導を通して実習の振り返りと自己評価を行い、今後の学習や実習に向けた課題・目標を明確にする。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 保育実習Ⅰの目的
2	保育実習Ⅰの意義と概要
3	授業における自己課題と目標設定 保育教材研究①と表紙作り
4	保育所の役割と理解
5	保育所の一日 障害のある子どもの保育 様々な保育形態
6	保育実習Ⅰにおける自己課題と目標設定 個人票の意義と作成①
7	保育教材研究② 指導計画案の意義と作成①
8	個人票の作成②
9	オリエンテーションについて 指導計画案の作成②
10	実習日誌の意義と書き方① 日誌の構成と書き方
11	実習日誌の意義と書き方② 事例に基づく記録と省察
12	模擬保育の実践と振り返り
13	プライバシーの保護と守秘義務 お礼状について 実習の諸注意と最終確認
14	実習の振り返り
15	今後の課題とまとめ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・シラバスの授業内容について示すとともに、授業の最後に次回の講義内容を示し、予習を促す。 ・課題や指導案作成等を適宜実施し事前・事後の学習の習慣化を図る。 ・指導案作成に必要な教材研究、保育のシミュレーションを行う。 ・実習先の沿革や保育方針について、各自で調べ理解を深めていくようにする。
テキスト	(1) 草苑保育専門学校 2026年 『実習の手引き』草苑保育専門学校 (2) 大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編書 2020『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 (3) 小櫃智子編書 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 2023 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
参考文献	(1) 厚生労働省 2018年 「保育所保育指針解説」 フレーベル館 (2) 保育実習指導のミニマムスタンダードver.2「協働」する保育士養成 一般社団法人全国保育士養成協議会編集 (3) 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 2023 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 (4) 随時必要なプリントを配布する。
学生に対する評価	(1) 受講姿勢 60%（授業態度、発表、実践など）(2) 提出物 40%（提出物期限、提出物内容など） ※事前指導 13回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格とする
実務経験のある教員による授業科目	保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開する。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）
担当教員	有村 もと子、石﨑 隆嗣
授業概要	他教科と関連させながら、施設の各区分の社会的特性と個別ニーズの内容、その支援にまつわる具体的な視点を学び、現場で子ども・利用者とコミュニケーションを図ることにより、実習を有意義なものとする。
授業の到達目標	（1）施設実習の意義・目的を理解する。 （2）各施設の概要を把握し、施設の実際を理解する。 （3）子ども・利用者の支援及び家族支援について総合的に理解する。 （4）施設における保育士としての職務と役割を理解する。 （5）職員・子ども・利用者とコミュニケーションを図り、円滑に実習を行う。 （6）実習の事前事後指導を通して、今後の学習や実習に向けた課題・目標を明確にする。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス（実習の意義・概要）
2	実習のねらいと心構え　実習施設の理解
3	個人票の意義
4	個人票の作成
5	施設種別の理解・子どもの理解（社会的養護施設）・障がい者の理解
6	外部講師による施設現場での現状と課題、実習生に求められることを聴講
7	職員・子ども・利用者とのコミュニケーション（調理）
8	職員・子ども・利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）
9	実習日誌と実習記録について　①
10	実習日誌と実習記録について　②
11	障がい児・者の特性に応じた基本的な支援方法、関わり方を学ぶ
12	施設職員とその業務の理解
13	実習の諸注意と心得、最終確認
14	施設実習後の振り返り ①
15	施設実習後の振り返り ②

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・シラバスの授業内容を示し、各施設についての予習をする。 ・実習先の施設の種別や沿革について、各自で調べ理解を深めていくようにする。 ・日誌返却後に面談により、個別に省察し自己評価と課題を確認する
テキスト	（1）草苑保育専門学校　2025年『実習の手引き』 草苑保育専門学校 （2）守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　2023『改訂版 施設実習 パーフェクトガイド』わかば社
参考文献	（1）施設実習ガイド　保育者として成長するための事前事後学習　駒井美智子編著　萌文書林 （2）実習日誌の書き方　相場和子・中田カヨ子編　萌文書林 （3）これからの時代の保育者養成・実習ガイド　大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜　編著　中央法規 （4）随時プリント・教材配布
学生に対する評価	（1）受講姿勢 60%（授業態度、グループワーク、発表など）（2）提出物 40%（提出物期限、提出物内容など） ※事前指導 13 回のうち欠席が 3 分の 1 を超えた者は実習失格とする。
実務経験のある教員による授業科目	施設実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開し、実習中の訪問指導を行う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択必修	単位数： 2	時間数： 90	授業形態： 実習

科目名	保育実習Ⅱ
担当教員	土井 美紗緒
授業概要	・保育士資格取得のために、認可保育所にて観察・参加・責任実習を行い、自らの実践を通して具体的に学ぶ。 ・既習の教科の内容や保育実習Iの知識や技能を踏まえ、総合的に実践する応用力を身に付ける。 ・保育の計画・実践・省察評価・改善について実際に取り組み、理解を深め、実践力を身に付ける。 ・保育士の役割や職業倫理について具体的な実践を通して理解し、専門職としての自覚をもつ。 ・実習での体験を通して、自己の課題を明確にするとともにその課題に向き合う。
授業の到達目標	1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科目や保育実習Iの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	＜内容＞ １．保育所の役割や機能の具体的展開 （１）養護と教育が一体となって行われる保育 （２）保育所の社会的役割と責任 ２．観察に基づく保育の理解 （１）子どもの心身の状態や活動の観察 （２）保育士等の援助や関わり （３）保育所の生活の流れや展開の把握 ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （１）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 （２）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 （３）関係機関や地域社会との連携・協働 ４．指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 （１）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （２）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 ５． 保育士の業務と職業倫理 （１）多様な保育の展開と保育士の業務 （２）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 ６．自己の課題の明確化

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	（１）保育実習Ⅰの経験、保育実習指導Ⅱ（事前指導）を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 （２）実習先の沿革や保育方針について各自で調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 （３）教材準備や教材研究、指導案の作成等保育の事前準備を行う。 （４）実習中は毎日、実習日誌の記録をすることを通して、省察と改善を行う。
テキスト	(1) 草苑保育専門学校　2025 年 『実習の手引き』 草苑保育専門学校 (2) 小櫃智子　守巧　佐藤恵　小山朝子　2023 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 (3) 小櫃智子編書　田中君枝・小山朝子・遠藤純子　2023 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
参考文献	(1) 厚生労働省　2018 年 「保育所保育指針」 フレーベル館 (2) 保育実習指導のミニマムスタンダード Ver.2 「協働」する保育士養成　一般社団法人全国保育士養成協議会編集
学生に対する評価	（１）実習評価（実習園からの評価）60%　（２）実習日誌、提出物（提出期限、提出物内容など）40%
実務経験のある教員による授業科目	・保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開し、実習中の巡回指導を行う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育実習指導Ⅱ
担当教員	土井 美紗緒
授業概要	(1) 保育実習Iを振り返り課題を明確にする。 (2) 責任実習に向けて、保育士の援助や環境、指導案の理解、作成、実践を通して総合的に学ぶ。 (3) 子ども理解をもとに、記録や指導案の書き方の実践を行い計画・実践・評価・改善について学ぶ。 (4) 自らの保育に対する課題を明確にし、専門職である保育士としての自覚を身に付ける。
授業の到達目標	(1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 (2) 実習や既習の教科の内容を踏まえ、保育の実践力と技術向上を目指す。 (3) 保育の記録、計画及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。 (4) 保育士としての専門性と職業倫理について理解する。 (5) 実習事後指導を通して実習のまとめと自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	保育実習Ⅱについて　目的と意義・概要　実習自己課題の明確化
2	保育所における養護と教育の理解と観察の視点
3	保育の環境と子ども主体の遊びについて　責任実習の流れと留意点
4	計画案の視点 (年齢ごと) と書き方・実践後の考察
5	実習における目標設定
6	個人票の作成
7	５領域を意識した保育実践に向けて
8	責任実習の指導案作成に向けて
9	責任実習の指導案作成に向けて・準備・実施手順　実習園との連絡 (オリエンテーション準備)
10	責任実習の実践
11	実践の振り返りに基づく考察・指導案の改善
12	実習日誌について　構成・書き方の確認
13	プライバシーの保護と守秘義務　実習生の心得と最終確認
14	実習の振り返り
15	今後の課題とまとめ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・シラバスの授業内容について示すとともに、授業の最後に次回の講義内容を示し、予習を促す。 ・課題や指導案作成を適宜実施し、事前・事後の学習の習慣化を図る。 ・指導案作成に必要な教材研究、保育のシミュレーションを行う。 ・実習先の沿革や保育方針について、各自で調べ理解を深めていくようにする。
テキスト	(1) 草苑保育専門学校　2025 年 『実習の手引き』 草苑保育専門学校 (2) 小櫃智子　守巧　佐藤恵　小山朝子　2023 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 (3) 小櫃智子編書　田中君枝・小山朝子・遠藤純子　2023 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
参考文献	(1) 厚生労働省　2018 年 「保育所保育指針」 フレーベル館 (2) 大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』 中央法規 (3) 随時必要なプリントを配布する。
学生に対する評価	(1) 受講姿勢 60%（授業態度、グループワーク、実践など）(2) 提出物 40%（提出物期限、提出物内容など） ※事前指導 11 回のうち欠席が 3 分の 1 を超えた者は実習失格とする。
実務経験のある教員による授業科目	保育実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え、実習で実践できるよう授業を展開する。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択必修	単位数： 2	時間数： 90	授業形態： 実習

科目名	保育実習Ⅲ（施設）
担当教員	有村 もと子
授業概要	・児童福祉施設及び障がい者施設にて観察することの意味を理解し、自ら実践する。 ・保育実習Iでの施設の学びを基に、直接子ども・利用者と関わる中で、幅広い知識と理解を深める。 ・観察や記録（日誌）を通して子ども・利用者理解について省察し、理解を深め専門性を高める。 ・施設における保育士の支援や援助を体験的に学び、施設保育士の多様な職務と役割について理解する。 ・実習での経験を通して、自己の課題を明確にするとともにその課題に向き合う。
授業の到達目標	1. 人権を理解して尊重する態度を身につける。 2. 保育所以外の児童福祉施設、児童発達支援施設、障がい者支援施設等の役割や機能の理解を深める。 3. 子ども・利用者への具体的関わりを通して理解を深める。 4. 日誌や部分実習を通して自己評価等を行うことで自己の課題を具体的に理解する。 5. 施設における保育士の業務内容について具体的に理解を深める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	【児童福祉施設等（保育所以外）における実習の内容】 1. 施設の役割と機能 （1）施設における子ども・利用者の一日の流れ、内容を把握する。 （2）施設の役割と特質について理解を深める。 2. 子どもと利用者の理解 （1）観察とその記録の重要性を知る。 （2）個別支援計画と支援方法を学ぶ。 3. 施設における子ども・利用者の生活と環境 （1）子ども・利用者の発達や特性に応じた関わり方について理解を深める。 （2）施設内での活動計画のねらい、目的を把握して理解を深める。 （3）虐待防止、健康管理、安全対策、感染症等予防について理解を深める。 4. 日誌 （1）実習Ⅰで実習した経験を基に目標やねらい考察などを深めて記入できるようにする。 （2）子ども・利用者とのコミュニケーションを通して省察・自己評価を行う。 5. 専門職としての保育士の職務と役割 （1）保育士の業務内容、発達支援、家族支援、地域支援を理解する。 （2）保育士の役割と職務倫理を理解する。（権利擁護、虐待、個人情報の管理、苦情解決） （3）多職種との連携や他機関との連携を学ぶ。 6. 基本的な対応方法 （1）環境作り（掃除・整理整頓を含む）、レクリエーション、モンテッソーリ製作など。 （2）子どもや利用者へのコミュニケーション方法や、介助、支援、援助方法を学ぶ。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	（1）保育実習指導Ⅲ（施設）事前指導を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 （2）実習先の施設の種別や沿革について調べ、事前学習をして、疑問点を明確にして実習に臨む。 （3）オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 （4）実習中は毎日、実習日誌の記録・省察を通して自己の支援課題を理解する。
テキスト	（1）草苑保育専門学校 2026 年『実習の手引き』草苑保育専門学校 （2）守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　改訂版『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 （3）随時プリント、教材の配布
参考文献	（1）施設実習　施設種別の計画と記録の書き方　松本峰雄監修　萌文書 （2）保育実習指導のミニマムスタンダード「協働」する保育士養成 Ver.2 （3）これからの時代の保育者養成・実習ガイド　大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜　編著　中央法規
学生に対する評価	（1）実習評価　60%（実習施設からの評価） （2）実習日誌、提出物（提出期限、提出物内容など）40%
実務経験のある教員による授業科目	施設実習における目的や施設、心構えや、現場での具体的経験を伝え実習で実践できるよう授業を展開する。また、実習中の訪問指導及び、実習事後面談を行う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択必修	単位数： 2	時間数： 90	授業形態： 実習

科目名	保育実習Ⅲ（児童館）
担当教員	小玉 絹江
授業概要	・児童厚生員二級の資格取得に必要な実習であり、児童の健全育成に関わる児童館に於いて観察・参加・部分実習等を行い、児童館の機能と役割を体験的に理解する。 ・既習の教科の内容を踏まえて直接子どもや利用者と関わる中で、子ども理解・保護者理解など児童館機能への理解を深める。 ・児童館で展開される児童への健全育成や、子育て支援・援助を体験的に学び、保育者の多様な役割と職業倫理について理解する。 ・観察や記録を通して、子ども・利用者理解について省察し理解を深めるとともに、専門性を高める。
授業の到達目標	1. 児童館・放課後児童クラブの役割や機能を具体的に理解する。 2. 児童館・放課後児童クラブの利用者の様子及び、職員の役割と対応を観察し、児童厚生員・放課後児童支援員の業務の理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者支援について総合的に理解する。 4. 健全育成の観察・記録および自己評価等について具体的に理解する。 5. 児童厚生員・放課後児童支援員の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	【児童館に於ける実習の内容】 1. 児童館の役割と機能 （1）児童館・放課後児童クラブにおける必要な知識・援助技術の内容理解 （2）児童館の機能と活動内容の理解 2. 児童館・放課後児童クラブの子ども理解 （1）子どもの観察とその記録 （2）個々の状態に応じた援助や関り （3）子どもが求める福祉的ニーズの理解力・対応力 3. 児童館に於ける利用者 (子育て親子・小学生・中学生・高校生) の活動と支援 （1）子どもや家庭支援と対応 （2）計画に基づく活動や関り （3）子どもの活動と環境 （4）健康管理・安全対策の理解 4. 計画・観察と記録 （1）活動計画の理解と記録 （2）PDSA サイクルの記録実践と記録に基づく省察・自己理解 5. 専門職としての役割と倫理 （1）児童厚生員・放課後児童支援員の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）児童厚生員・放課後児童支援員の職業倫理

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	（1）保育実習指導Ⅲ児童館（事前指導）を受け、実習課題を設定するとともに事前学習を行う。 （2）実習先の児童館の沿革等について各自調べる。また、オリエンテーション等の事前訪問を通して実習策について理解に努める。 （3）教材準備や教材研究等保育の事前準備を行う。 （4）実習中は、毎日実習日誌の記録をすることを通して考察を行う。
テキスト	（1）草苑保育専門学校　　2026「実習の手引き」草苑保育専門学校 （2）守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 「施設実習パーフェクトガイド」わかば社
参考文献	●保育実習指導のミニマムスタンダード 「協働」する保育士養成 Vor.2
学生に対する評価	(1) 実習評価（実習施設からの評価）60% (2) 実習への姿勢（実習日誌・提出物・PDSA サイクルの考察・積極性など） 40%
実務経験のある教員による授業科目	中、高校生センター・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）
担当教員	有村 もと子
授業概要	（1）保育実習I（施設）で経験した内容を更に深め、様々な施設の機能や職務内容について学ぶ。 （2）施設における保育士の支援や関わりを体験的に学び、施設保育士の多様な職務と役割について理解する。 （3）実習を想定したロールプレイを行い、理論と実際の理解を深め、実践へ活かせるようにする。 （4）校外学習練習・スヌーズレン教育（アロマテラピー）・モンテッソーリ教育・調理実習 （5）実習では実習前にオリエンテーション訪問、実習中には観察、活動参加、反省会などが行われる。施設により部分実習を行う。
授業の到達目標	（1）施設の特色や機能について実践を通して理解を深める。 （2）施設保育士としての多様な業務内容や倫理について把握し、適切に実践できるようになる。 （3）実習を通して自己の課題を明確化し、将来に備える。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	ガイダンス
2	保育実習Ⅲの意義と概要、心構え
3	個人票の作成・お礼状について
4	福祉施設の種別と概要の理解
5	福祉施設を利用する子どもと障がい者の理解
6	福祉施設におかる様々なプログラムについて（グループワーク）①
7	福祉施設における様々なプログラムについて（グループワーク）②
8	福祉施設職員とその職務の理解　①
9	福祉施設職員とその職務の理解　②
10	実習想定の基本的な支援の演習
11	実習日誌の記入について学ぶ　①
12	実習日誌の記入について学ぶ　②
13	実習に関しての諸注意と最終確認
14	実習の振り返り
15	実習の振り返りと今後の課題

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・シラバスの授業内容を示し、各施設についての予習をする。 ・実習先の施設の種別や沿革について、各自で調べ理解を深めていくようにする。 ・実習を通して自己の課題を明確化し、将来に備える。 ・実習先から日誌の返却後、個別面談を行い、課題を明確にする。
テキスト	（1）草苑保育専門学校　2026年『実習の手引き』草苑保育専門学校 （2）守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵　改訂版『施設実習　パーフェクトガイド』わかば社
参考文献	（1）施設実習　施設種別の計画と記録の書き方　松本峰雄監修　萌文書林 （2）これからの時代の保育者養成・実習ガイド　大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜　編著　中央法規 （3）随時プリント、教材配布
学生に対する評価	（1）受講姿勢　60%（授業態度、グループワーク、発表など） （2）提出物　40%（提出物期限、提出物内容など） ※　事前指導13回のうち欠席が3分の1を超えた者は実習失格となる。
実務経験のある教員による授業科目	施設実習における目的や姿勢、心構えや、現場での具体的な経験を伝え、実習で実践できるよう授業を展開し、実習中の訪問指導を行う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 選択必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育実習指導Ⅲ（児童館）
担当教員	小玉 絹江
授業概要	(1) 児童館･放課後児童クラブの一日の流れや､利用者の様子･多様な活動内容･児童厚生､児童支援員の関わりの実際について､実習前後のグループワーク・発表などの演習から理解する。 (2) 各地の活動内容から、児童館・放課後児童クラブの現場の取り組みを具体的に把握する。 (3) 利用者の発達理解をもとに、記録や指導案の書き方の実践を行い、計画・実践・評価・改善について把握する。
授業の到達目標	(1) 児童館・放課後児童クラブの現場を実際に体験することで、児童厚生・児童支援員の役割・業務を理解する。 (2) 実習を通して自己の適性を見つめ直し、課題を明確化する。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション：児童館実習の目的と概要
2	これまでの実習の振り返り：自己分析・KJ 法・グループワーク・発表
3	児童館・放課後児童クラブの概要と特性の確認Ⅰ：機能・運営
4	児童館・放課後児童クラブの概要と特性の確認Ⅱ：児童厚生・児童支援員の職務内容
5	個人票の下書きおよび本書きの実技指導と、オリエンテーションの基本事項の確認
6	実習日誌のポイントⅠ：実習日誌の日々のねらい・振り返りの書き方・内容
7	実習日誌のポイントⅡ：実践記録の方法を用いて考察に活かす
8	部分実習教材研究・指導案作成に向けてⅠ：グループワーク
9	部分実習教材研究・指導案作成に向けてⅡ：準備・発表
10	部分実習教材研究・指導案作成に向けてⅢ：準備・発表
11	実習時の心構え・マナー・礼儀などの基本事項の確認 お礼状の書き方の実技指導
12	守秘義務の重要性 実習に関する疑問の整理
13	守秘義務の重要性Ⅱ 実習に関する疑問の整理Ⅱ
14	実習の振り返りⅠ：今後の課題とまとめ（自己分析・KJ 法・グループワーク・発表）
15	実習の振り返りⅡ：今後の課題とまとめ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	児童館ガイドライン・放課後児童クラブ運営指針の該当箇所について充分に予習をする。 実習先の児童館の沿革・施設目標などについて各自調査し、理解を深めて実習に臨むようにする。
テキスト	(1) 草苑保育専門学校　2026 「実習の手引き」 草苑保育専門学校 (2) 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 「施設実習パーフェクトガイド」わかば社 (3) 小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社
参考文献	●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ②「児童館論」児童健全育成推進財団 ●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ③「安全指導・安全管理」児童健全育成推　進財団 ●児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④「ソーシャルワーク」児童健全育成推進財団 ●放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材「認定資格研修のポイントと講義概要」第２版　中央法規 ●中山芳一 「新しい時代の学童保育実践」かもがわ出版
学生に対する評価	（1）提出物（提出物期限＆内容）40% （2）受講姿勢（提出物・授業態度・グループワークへの積極性など） 60%
実務経験のある教員による授業科目	中、高校生センター・教育委員会特別支援・子ども女性相談ワーカーの経験を活かし実践的講義内容を行っていく。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育・教職実践演習Ⅰ
担当教員	木村 悠希、土井 美紗緒
授業概要	本授業は、これまでに学習してきた保育・教育に関する知識や保育実習等での体験を基盤として、保育者として求められる実践力と省察力を高めることを目的とする。 保育者の役割や倫理、子ども・家庭理解、関係機関との連携について理解を深めるとともに、保育に関する現代的課題を取り上げ、課題設定・検討・発表を通して主体的に学ぶ。授業後半では、保育環境や実践の在り方について考察し、自己の課題を明確にする。
授業の到達目標	1. 保育者の役割や倫理、社会的責任について説明できる 2. 子どもや家庭を取り巻く状況を理解し、支援の在り方を考察できる 3. 保育に関する現代的課題について問いを立て、検討することができる 4. 学習内容を振り返り、自己の課題や目指す保育者像を明確にできる 5. 他者との協働を通して、自身の考えを表現することができる

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 保育・教育実践演習の概要と学習計画
2	これまでの学びの振り返り 保育実習等の体験と結びつけた自己課題の明確化
3	保育者の意義と役割
4	保育士の職務内容
5	子どもに対する責任と保育倫理
6	保育者としての社会性・対人関係能力
7	子どもや家庭の理解
8	職員間の連携・関係機関との連携
9	保育・子育て家庭への支援の展開
10	保育に関する現代的課題の研究① 問いを立て、要因や背景を検討する
11	保育に関する現代的課題の研究② 課題解決の方向性を探る
12	保育に関する現代的課題の研究③ 具体的方法と内容の検討
13	保育環境と実践の在り方 最善の保育環境を考える
14	自己課題と目指す保育者像 今後取り組むべきことの整理
15	まとめ 前期の振り返り・期末レポート

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	事前学習 次回の授業内容を伝え、見通しをもって参加し、自信で必要な情報を収集できるように促す。 事後学習 授業内容を踏まえ、自己の考えを文章化するまたは、演習発表を行い知識、技術の習得を促す。
テキスト	使用しない（必要に応じて資料を配布する）
参考文献	厚生労働省、2018、『保育所保育指針 解説』フレーベル館 文部科学省、2018、『幼稚園教育要領 解説』フレーベル館 内閣府、2018、『認定こども園教育・保育要領 解説』フレーベル館 野津直樹、宮川萬寿美編集、2022、『保育・教職実践演習：実践力のある保育者を目指して』萌文書林
学生に対する評価	• 平常点（授業参加状況・グループワークへの姿勢）40% • 課題提出 20% • 期末レポート 40%
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園教諭および保育士として約10年間の実務経験を有し、現在も保育現場に携わりながら、主任として保育実践および職員間の連携・調整、後輩育成等に従事している。 これらの実務経験を踏まえ、理論と実践知を交えながら、現場で実際に求められる保育者の専門性、判断力、協働性について具体的に扱う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育実践演習Ⅰ
担当教員	川﨑 理香
授業概要	「保育・教職実践演習」は「学びの軌跡の集大成」として位置付けられている。そのため、本講義は保育に必要な専門的知識・技能(実践力)を高める授業を展開する。具体的には模擬保育、グループ討論、教材研究、事例研究、フィールドワーク等取り組み、保育内容や方法について主体的に考察し学びを深めていく。なお、授業の進行状況等により内容変更の可能性がある。
授業の到達目標	1. 保育士としての専門性（知識及び技術）を理解することができる。 2. 保育者として求められる倫理観や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解や学級経営、保育内容の指導力を養うことができる。 3. 座学で学んだ知識を実践的なスキル（計画・実行・省察）に転換することができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	講義の概要・取り組み方等の説明
2	幼児教育における「科学性を育む」とは
3	楽しい！を演出する①
4	楽しい！を演出する②
5	模擬保育準備①
6	模擬保育準備②
7	模擬保育準備③
8	・保育者の課題①　・模擬保育①
9	・保育者の課題②・模擬保育②
10	・保育者の課題③・模擬保育③
11	・子どもという存在の捉え方　・模擬保育④
12	・保育者としての働きかけ　・模擬保育⑤
13	・保育者に求められる資質・能力　・模擬保育⑥
14	・学び続ける保育者　・模擬保育⑦
15	・これまでの講義の振り返りと資料作成　・模擬保育⑧

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・次回の講義内容に即した課題を提示し、アクティブラーニングの習慣化を図る。 ・ワークシートを配布し、講義後の知識や技術の習得に活用する。 ・現代社会における保育に関する事象に興味や関心を持ち、主体的な所感を日常的に意識する。
テキスト	新版『保育・教職実践演習』保育理論と保育実践の手引き 横山文樹・駒井美智子編著 2022年第3版2刷発行 大学図書出版
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等、必要に応じて紹介する。
学生に対する評価	1．授業で実施する課題・提出物（提出期限、内容）30% 2．授業への取り組み(・出席状況 ・受講態度)40% 3．グループワーク・プレゼンテーション30%
実務経験のある教員による授業科目	保育・幼児教育現場、児童厚生施設での実務経験のある教員が子育て支援における知識や現場に必要な技術を授業内で指導する。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育・教職実践演習Ⅱ
担当教員	阿江 美知代、松本 佳代子
授業概要	2年次前期までの学修成果を踏まえ、保育の諸分野における特定の課題を選択し、教員の指導のもと課題に取り組む。その成果を発表して課題解決能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、保育現場で生じる課題やニーズに対応する方法についての理解を確かなものとし、保育職の役割と責任についての自覚をもつことを目指す。
授業の到達目標	・現在の教育課題を探求することにより、子ども理解を深め、保育者としての使命感・責任感や社会性を含めた対人関係を身につける。 ・半年後に現場で働くことを想定し保育の現場で実践に役立つ理論や技能を学ぶ。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	子育て支援①連絡帳
2	子育て支援②保護者会
3	保育と経済（1）
4	保育と経済（2）
5	チャイルドウォッチング① 「こどもを観る」ということ
6	チャイルドウォッチング② 記録から子どもを取り巻く環境を理解する
7	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
8	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
9	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
10	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
11	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
12	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
13	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
14	原則として担当者がゼミ形式で授業を担当する。担当者より提示される特定の課題に取り組む。
15	ゼミ成果発表会

定期試験期間における試験	実施しない　特定課題の提出あり。
事前・事後学習の内容	授業の復習を行う 授業内で学んだことを「履修カルテ」に記録する
テキスト	なし
参考文献	- 新版 - 保育・教職実践演習 - 保育理論と保育実践の手引き - 2018 横山文樹・駒井美智子 編著
学生に対する評価	出席状況・授業態度（グループ討論の参加状況）提出物・レポート等を総合的に評価する。 担当者が課題を出し評価する。各課題の評価を総合的に判断したものが総合評価となる。
実務経験のある教員による授業科目	

開講年次：	2年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	保育実践演習Ⅱ
担当教員	川﨑 理香
授業概要	「保育・教職実践演習」は「学びの軌跡の集大成」として位置付けられている。そのため、本講義は保育に必要な専門的知識・技能（実践力）を高める授業を展開する。具体的には模擬保育、グループ討論、教材研究、事例研究等取り組み、保育内容や方法について主体的に考察し学びを深めていく。なお、授業の進行状況等により内容変更の可能性がある。
授業の到達目標	1. 幼稚園教諭・保育士としての専門性（知識及び技術）を理解することができる。 2. 保育者として求められる倫理観や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解や学級経営、保育内容の指導力を養うことができる。 3. 座学で学んだ知識を実践的なスキル（計画・実行・省察）に転換することができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	講義の概要・取り組み方等の説明
2	楽しい！を演出する①
3	楽しい！を演出する②
4	楽しい！を演出する③
5	楽しい！を演出する④
6	模擬保育準備①
7	模擬保育準備②
8	・育みたい資質・能力とは　・模擬保育①
9	・保育の中の子育て支援　模擬保育②
10	・幼保連携接続プログラム　・模擬保育③
11	・特別な配慮を要する保育①　・模擬保育④
12	・特別な配慮を要する保育②　・模擬保育⑤
13	・特別な配慮を要する保育③　・模擬保育⑥
14	・保育者に必要な資質とは何か（『専門性』という視点から考える）・模擬保育⑦
15	・これまでの講義の振り返りと資料作成　・模擬保育⑧

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・次回の講義内容に即した課題を提示し、アクティブラーニングの習慣化を図る。 ・ワークシートを配布し、講義後の知識や技術の習得に活用する。 ・現代社会における保育に関する事象に興味や関心を持ち、主体的な所感を日常的に意識する。
テキスト	新版『保育・教職実践演習』保育理論と保育実践の手引き 横山文樹・駒井美智子編著 2022年第3版2刷発行 大学図書出版
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等、必要に応じて紹介する。
学生に対する評価	1．授業で実施する課題・提出物（提出期限、内容）30% 2．授業への取り組み（・出席状況　・受講態度　）40% 3．グループワーク・プレゼンテーション30%
実務経験のある教員による授業科目	保育・幼児教育現場、児童厚生施設での実務経験のある教員が子育て支援における知識や現場に必要な技術を授業内で指導する。

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	園芸Ⅰ
担当教員	高浜 真理子
授業概要	(1) 園内植物などの生長を観察し、栽培法を身に付け、園芸に関する基礎的な知識を実習中心に学びます。 (2) 収穫物は調理実習や作品作りなどに利用します。 (3) 天候により、ビデオなどを利用するなど、順序・内容を変更することがあります。 (4) 講義は随時実習と組み合わせながら行います。
授業の到達目標	保育者として、子どもに提供できる園芸知識と経験を身に付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	園内植物観察、ジャガイモ植え付け
2	土について
3	肥料について
4	水、光、温度について
5	夏野菜入手について
6	夏野菜植え付け
7	種について　種まき　押花用花材集め
8	イモ類の育て方
9	農薬について　押花作り
10	香りのある植物について
11	繁殖法について
12	行事と植物
13	植物と環境　ジャガイモ収穫
14	染色植物について
15	園内観察　夏野菜収穫等　まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	シラバスの授業計画だけでなく、授業と授業の間の植物の生育変化を感じるよう観察を促す。実習した内容を表にし、年間の作業を把握する。
テキスト	なし
参考文献	東京都立農芸高校監修，2016，『はじめてのやさしい野菜づくり 60 種』新星出版社.
学生に対する評価	定期試験 60%、受講姿勢 40%
実務経験のある教員による授業科目	体験農園での講師、大学の教育学部での園芸サークル指導、保育所における保育に生かす園芸の仕事をしていた経験等を活かしています。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	園芸Ⅰ
担当教員	高浜 真理子
授業概要	(1) 園内植物などの生長を観察し、栽培法を身に付け、園芸に関する基礎的な知識を実習中心に学びます。 (2) 収穫物は調理実習や作品作りなどに利用します。 (3) 天候により、ビデオなどを利用するなど、順序・内容を変更することがあります。 (4) 講義は随時実習と組み合わせながら行います。
授業の到達目標	保育者として、子どもに提供できる園芸知識と経験を身に付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	園内植物観察
2	土について
3	肥料について
4	水、光、温度について
5	冬野菜入手について
6	ブロッコリー植え付け
7	種について （秋の種まき）
8	イモ類の育て方
9	農薬について
10	香りのある植物について
11	繁殖法について
12	行事と植物
13	植物と環境
14	染色植物について
15	まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	シラバスの授業計画だけでなく、授業と授業の間の植物の生育変化を感じるよう観察を促す。実習した内容を表にし、年間の作業を把握する。
テキスト	なし
参考文献	東京都立農芸高校監修，2016，『はじめてのやさしい野菜づくり 60 種』新星出版社.
学生に対する評価	定期試験 60%、受講姿勢 40%
実務経験のある教員による授業科目	体験農園での講師、大学の教育学部での園芸サークル指導、保育所における保育に生かす園芸の仕事をしていた経験等を活かしています。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育・教育相談の基礎と方法
担当教員	前川 洋子
授業概要	相談の意義と理論を理解し、方法と展開を学ぶ。相談を進める際に必要な基礎的知識を学び応用と実践に繋げる。 組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、現代的課題を含めた教育相談について理解を深める。
授業の到達目標	(1) 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基本的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることができる。 (2) 早期からの教育相談として乳児を含む子どもを取り巻く現代的課題を含めた教育的相談に応じる保護者支援を理解することができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	保育相談支援の意義 保育相談支援とは
2	保育所の特性を生かした保育相談支援 保育の専門的知識と技術を活用した相談支援
3	保育相談支援の原則1 子どもの最善の利益 保護者の主張と子どもの願いの狭間に立つ保育者
4	保育相談支援の原則2 保護者の養育力の向上を目指して 相談を受ける者として保育者の姿勢（倫理観・価値観）
5	保育相談支援の進め方 より効果的な保育相談を行うために 相談における人的環境と物的環境
6	保育相談支援の実践 相談対応のプロセス・関連機関との連携
7	保育相談支援の技術と留意点1 心理学の基礎的な理論・概念を活用して
8	保育相談支援の技術と留意点2 カウンセリングの基礎的知識を活用して
9	保育相談支援の技術向上 相談における記録と評価・スーパービジョン・カンファレンス
10	相談計画におけ専門機関との連携 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携、社会資源の活用
11	保育相談支援の事例1：食事・生活習慣 食と健康に関するアレルギー相談 睡眠・排泄・遊びなど生活習慣に関する相談
12	保育相談支援の事例2：発達 子どもの発達の遅れ・気になる行動についての相談
13	保育相談支援の事例3：育児不安 保護者自身の相談 育児不安の背景と保護者支援 虐待など不適切な養育、問題行動の予防と対応
14	保育相談支援の事例4：特別な配慮 障害をもつ子ども・ひとり親家庭・外国につながる親子・貧困家庭など特別な配慮を必要とする相談
15	児童福祉施設の保育相談支援の事例 乳児院・児童養護施設・児童発達支援センターなどにおける相談

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	次回の講義内容を示し、予習を促す。授業外の課題やワークの準備については事前指導を行い、効果的なアクティブラーニングを図る。 授業内で扱った事例検討はカンファレンスとして学生にフィードバックし理解の定着を図る。 グループワークは準備から発表まで事前・事後学習において総合的に取り組む姿勢を重視する。
テキスト	小林育子 ,2019,『演習 保育相談支援』萌文書林 .
参考文献	文部科学省 ,2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 . 厚生労働省 ,2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 . 内閣府 ,2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 .
学生に対する評価	（1）定期試験 60% （2）受講姿勢 40%（授業への取り組み 20、提出物 20）
実務経験のある教員による授業科目	保育所における子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員として保育現場に携わり、また実証的研究として保育研究する者が、その経験を活かして今日的課題の対応を含めた授業を展開する。 また、教育カウンセラーとして学会等の委員を務め、相談を進める際に必要なカウンセリングに関する知識と技能を持つ教員が、心理学の知見を活かして心理検査やカウンセリングに関する演習を行う。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	キリスト教保育
担当教員	菅原 陽子
授業概要	本授業は、草苑保育専門学校の理念である「キリスト教の精神」を保育において具現化した「キリスト教保育」の基本的理念と実践について理解することを目的とする。授業では、視聴覚教材を用いてキリスト教保育の歴史的背景を学ぶとともに、クラスごとの聖書物語の劇への取り組みを通してキリスト教保育の実践的側面について学ぶ。さらに、多様な価値観が共存する現代社会の課題に関する発表・ディスカッションを通して、キリスト教の価値観が現代社会や保育実践にどのように生かされているのかについて理解を深める。
授業の到達目標	・キリスト教保育の歴史的背景を学び、キリスト教主義の幼稚園および関連施設が、日本の保育および福祉の分野において果たしてきた役割について理解する。 ・キリスト教保育における子ども観および保育観の理解を深めるとともに、実践的側面として降誕劇に取り組み、聖書の物語を演じる体験を通してその意義を考察する。 ・キリスト教保育における「共に生きる」という視点を基盤に、多様な価値観が共存する現代社会の課題について議論し、実践的アプローチを身に付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	自己紹介・授業説明 グループとテーマの決定・計画 （テーマ：海外の育児・海外の保育・宗教・平和・愛・孤独・自然）
2	キリスト教保育の歴史と理念 草苑保育専門学校講師 G.E. キュックリヒの教育
3	キリスト教保育の子ども観と保育観 キリスト教保育の行事（イースター・花の日・収穫感謝・アドヴェント・クリスマス）
4	キリスト教保育の実践―クリスマス降誕劇①聖書の物語を知る
5	キリスト教保育の実践―クリスマス降誕劇②クリスマスの讃美歌を歌う
6	キリスト教保育の実践―クリスマス降誕劇③役を演じる・場面に合わせて奏楽・讃美する
7	キリスト教保育の実践―クリスマス降誕劇④協力して劇を作る
8	キリスト教保育の実践―クリスマス降誕劇⑤聖書の物語を伝える
9	キリスト教保育の実践―クリスマス降誕劇の振り返り グループ発表の準備
10	グループ発表・ディスカッション①
11	グループ発表・ディスカッション②
12	グループ発表・ディスカッション③
13	グループ発表・ディスカッション④
14	グループ発表・ディスカッション⑤
15	グループ発表・ディスカッション⑥ 授業のまとめ・レポート

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	＊配布資料の通覧　＊授業レポート　＊劇・発表準備
テキスト	なし
参考文献	＊新共同訳聖書 ＊片山知子 ,2024 年『キリスト教保育指針［2024 年版］』キリスト教保育連盟 . ＊片山知子 ,2026 年『キリスト教保育』キリスト教保育連盟 . ＊ G.E. キュックリヒ ,1959 年『キリスト教幼稚園における礼拝』「キリスト教幼稚園ハンドブック」日本基督教団出版局. ＊エーリッヒ・フロム ,1991 年『愛するということ』紀伊國屋書店. ＊フリードリヒ・フレーベル ,1964 年『人間の教育』岩波文庫 .
学生に対する評価	授業レポート（40%）・グループ発表（30%）・クリスマス降誕劇（30%）
実務経験のある教員による授業科目	キリスト教主義幼稚園教諭・教会幼稚園教諭・教会学校教師の経験

開講年次： 2 年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 30	授業形態： 講義

科目名	教育社会学
担当教員	江川 栄一
授業概要	1）社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、ならびにそれに対応するための教育政策の動向を　理解します。 2）現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する　課題を理解します。 3）学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解します。 4）学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な　取り組みを理解します。
授業の到達目標	現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解します。なお、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付けます。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	教育社会学とは何か。ヒトはいかにして人間になるか、社会化
2	公教育の原理及び理念を理解している。教育基本法・わが国の未来を切り拓く教育
3	公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。こども基本法・こどもまんなか社会の実現へ
4	学校をめぐる近年のさまざまな状況の変化を理解している。その 1：学校教育制度
5	学校をめぐる近年のさまざまな状況の変化を理解している。その 2：幼児教育制度
6	学校をめぐる近年のさまざまな状況の変化を理解している。その 3：保育所制度
7	諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。ICT 教育の先進事例をオーストラリアに学ぶ
8	ケーススタディ「オーストラリアの保育・幼児教育、初等中等教育」
9	地域との連携・協働による学校教育活動の意義および方法を理解している。特別支援教育教育
10	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。教員制度
11	生活指導上の諸課題に関わる法制度を理解している。児童の問題行動、いじめ
12	子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。児童虐待、子どもの貧困
13	教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。外国につながる子どもの教育、ヤングケアラー
14	学校安全：学校の管理下で発生する事件・事故および災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
15	近年の教育政策の動向を理解している。幼児期の教育をめぐる課題、幼稚園・保育所で守る著作権　総まとめ

定期試験期間における試験	実施する
事前・事後学習の内容	シラバスの授業計画だけでなく、授業の最後に次時の講義内容を示し、予習を促す。また、復習の徹底を指導するとともに、小レポートや課題なども適宜実施し、事前・事後の学習の習慣化を図る。
テキスト	内山絵美子・他編『新訂第二版　保育者・小学校教員のための教育制度論』教育開発研究所
参考文献	安田夏菜 ,2018 年 ,『むこう岸』講談社、 江川栄一 ,2026 年「教育社会学レジュメ」､他に随時プリントを配布します。
学生に対する評価	定期試験：70%　受講姿勢（授業態度・レポート提出状況）30%
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育総合教養（1 年次前期）
担当教員	—
授業概要	（1）保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 （2）礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 （3）就職指導は 2 年間を通して行う。 （4）修養会は 1・2 年生合同で行う。
授業の到達目標	（1）さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 （2）行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 （3）それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション、ホームルーム
2	修養会について・各委員顔合わせ
3	施設見学ガイダンス
4	童謡講座（安田祥子先生）
5	修養会に向けて
6	修養会
7	マナー講座、エンマップについて
8	就職ガイダンス
9	手話講座（中野佐世子先生）
10	施設見学
11	オレンジリボンについて、試験ガイダンス
12	就職フェア
13	手話講座（中野佐世子先生）
14	童謡講座（安田祥子先生）
15	大掃除

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業の中で指示する。
テキスト	（1）『手話ソングブック』（中野先生） （2）『ともだちになるために』（中野先生）
参考文献	必要に応じてプリント配布。
学生に対する評価	（1）授業の参加姿勢：80%　※行事（修養会・草遊祭・クリスマス礼拝等）、HR 活動の参加姿勢及び意欲・態度を含む （2）提出物：20% （3）礼拝出席率：70%以上の出席が必須。出席率に応じて加点。 ※半期ごとに 3 分の 2 以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 1年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育総合教養（1年次後期）
担当教員	―
授業概要	(1) 保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 (2) 礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 (3) 就職指導は2年間を通して行う。 (4) 修養会は1・2年生合同で行う。
授業の到達目標	(1) さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 (2) 行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 (3) それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	クラスガイダンス
2	草遊祭について
3	童謡講座（安田祥子先生）
4	オレンジリボン講演
5	草遊祭
6	手話講座（中野佐世子先生）
7	実習ガイダンス
8	クリスマスの話・点火式
9	クリスマス礼拝
10	童謡講座（安田祥子先生）
11	手話講座（中野佐世子先生）
12	防災逃げ地図について
13	金融講座
14	実習報告会
15	試験ガイダンス・大掃除

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業の中で指示する。
テキスト	(1)『手話ソングブック』（中野先生） (2)『ともだちになるために』（中野先生）
参考文献	必要に応じてプリント配布。
学生に対する評価	(1) 授業の参加姿勢:80%　※行事（修養会・草遊祭・クリスマス礼拝等）、HR活動の参加姿勢及び意欲・態度を含む (2) 提出物：20% (3) 礼拝出席率：70%以上の出席が必須。出席率に応じて加点。 ※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。
実務経験のある教員による授業科目	―

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育総合教養（2年次前期）
担当教員	—
授業概要	(1) 保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 (2) 礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 (3) 就職指導は2年間を通して行う。 (4) 修養会は1・2年生合同で行う。
授業の到達目標	(1) さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 (2) 行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 (3) それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション・ホームルーム
2	修養会について・各委員顔合わせ
3	就職ガイダンス
4	保育・教職実践演習Ⅱ　ゼミ説明会
5	履歴書指導①エンマップについて
6	修養会に向けて
7	修養会
8	手話講座（中野佐世子先生）
9	童謡講座（安田祥子先生）
10	手話講座（中野佐世子先生）
11	就職フェア
12	履歴書指導②
13	卒業生講話
14	童謡講座（安田祥子先生）
15	試験ガイダンス・大掃除

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業の中で指示する。
テキスト	(1)『手話ソングブック』(中野先生) (2)『ともだちになるために』(中野先生)
参考文献	必要に応じてプリント配布。
学生に対する評価	(1) 授業の参加姿勢:80%　※行事（修養会･草遊祭･クリスマス礼拝等)、HR活動の参加姿勢及び意欲･態度を含む (2) 提出物：20% (3) 礼拝出席率：70%以上の出席が必須。出席率に応じて加点。 ※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	保育総合教養（2年次後期）
担当教員	—
授業概要	(1) 保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をする。 (2) 礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。 (3) 就職指導は2年間を通して行う。 (4) 修養会は1・2年生合同で行う。
授業の到達目標	(1) さまざまな要素に触れ、専門的・社会的知識を補い幅広い見識を得て、保育者として必要な人間性の向上をはかる。 (2) 行事やホームルームクラスなど学内活動を通してコミュニケーション能力や協働性を培う。 (3) それぞれの就職活動を通し社会において保育者として働く意義を意識し、就職に繋げる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	草遊祭について・模擬面接レクチャー
2	集団模擬面接
3	履歴書返却・個別指導
4	童謡講座（安田祥子先生）
5	草遊祭
6	手話講座（中野佐世子先生）
7	クリスマスの話・点火式
8	クリスマス礼拝
9	童謡講座（安田祥子先生）
10	手話講座（中野佐世子先生）
11	防災逃げ地図について
12	就職講座「メディアリテラシー」
13	実習報告会
14	保育・教職実践演習Ⅱ　ゼミ発表会
15	防災館

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	授業の中で指示する。
テキスト	(1)『手話ソングブック』(中野先生) (2)『ともだちになるために』(中野先生)
参考文献	必要に応じてプリント配布。
学生に対する評価	(1) 授業の参加姿勢:80%　※行事（修養会･草遊祭･クリスマス礼拝等)、HR活動の参加姿勢及び意欲･態度を含む (2) 提出物：20% (3) 礼拝出席率：70%以上の出席が必須。出席率に応じて加点。 ※半期ごとに3分の2以上の授業に出席すること。他科目と同様、出席数が満たない場合は失格となる。
実務経験のある教員による授業科目	—

開講年次：	1年次秋	選択・必修：	必修	単位数：	2	時間数：	90	授業形態：	実習

科目名	教育実習Ⅰ
担当教員	祐成 かおり
授業概要	(1) 幼稚園教諭の役割を理解し、目的意識をもちながらどのような視点や心構えが必要かを学ぶ。 (2) 教育実習Iに向けて書類・日誌の書き方を学ぶ。 (3) 指導計画案・保育技術の理論と実際を体験学習する。
授業の到達目標	(1) 教育実習の意義・内容について理解する。 (2) 教育実習に対する個人目標と基本的な心構えを明確にする。 (3) 実習の流れや準備の仕方を知る。 (4) 実習に関する書類・日誌の書き方、教材の意味を知り、現場で活かす力を付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	＜実習内容＞ １．幼稚園の役割と機能 （1）幼稚園の沿革・教育方針・運営等の理解し、実習を行う。 （2）幼稚園の一日の流れ、保育内容について理解する。 ２．子どもの理解 （1）子どもの活動内容、保育内容、保育者の動きなどを観察する。 （2）個々の状態に応じた援助やかかわりを観察し、理解する。 ３．幼稚園における子どもの生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助を観察する。 （2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応について理解する。 （3）子どもの活動と環境を理解する。 （4）健康管理、安全対策の理解をする。 ４．記録 （1）実習日誌に記録を適切に記入し、記録の取り方を身につける。 （2）記録に基づく省察・自己評価 を行い、課題を見出し、次の実践へ活かす。 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （1）幼稚園教諭の業務内容について学ぶ （2）職員間の役割分担や連携を学ぶ。 （3）幼稚園教諭の役割と職業倫理について学ぶ

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・テキスト・配布資料を基に次時授業に対しての予習・教材研究を促し、復習を徹底する。 ・予習復習の課題については添削・フィードバックを行い、実践力に繋げる。
テキスト	・草苑保育専門学校 , 2026,『実習の手引き』草苑保育専門学校. ・大豆生田啓友 / 編著　渋谷行成 / 編著　鈴木美枝子 / 編著　田澤里喜 / 編著 , 2020,『これからの時代の保育者養成・実習ガイド : 学生・養成校・実習園がともに学ぶ』中央法規出版 ・小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子, 2023,『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社. ・祐成かおり, 2026,『2026 年度 教育実習演習 (事前事後)』草苑保育専門学校.
参考文献	文部科学省, 2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.
学生に対する評価	・受講姿勢 50%（授業態度・模擬保育実践状況） ・課題提出物 50% (提出物内容・提出状況) ※事前指導 14 回のうち欠席が 3 分の 1 を超えた者は実習失格とする
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。

開講年次： 2年次秋	選択・必修： 必修	単位数： 2	時間数： 90	授業形態： 実習

科目名	教育実習Ⅱ
担当教員	祐成かおり / 三田村千穂
授業概要	・幼稚園教諭二種免許状取得のために幼稚園及び幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園にて参加・部分・責任実習を行う ・幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務、職員間の連携について体験を通して理解を深める。 ・子ども理解を深め、保育者になる自覚を養う。 ・学んできた理論や技術が現場でどのように活用されているかを確かめ、学ぶ
授業の到達目標	1. 幼稚園生活の流れを理解し、主体的に学ぶ。 2. 幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務内容について理解する。 3. 子どもの育ちを理解し、それに合わせた保育者の援助や配慮、保育内容について実践的に学ぶ。 4. 保育者としての責任、幼稚園教諭の職務の多様性と重要性を認識し、専門職としての自覚をもつ。 5. 幼児の発達や状態に応じた指導計画、保育実践、記録、省察を適切に行うことができる。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	＜実習内容＞ １．幼稚園の役割と機能 （1）幼稚園の沿革・教育方針・運営等の理解し、実習を行う。 （2）幼稚園の一日の流れ、保育内容について理解し、主体的に保育に参加する。 ２．子どもの理解 （1）子どもの観察やかかわりを通して発達過程を学ぶ。 （2）個々の状態に応じた援助やかかわりを実践、振り返りを通して理解を深める。 ３．幼稚園における子どもの生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助を実践する。 （2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応を学び、実践を行う。 （3）幼稚園と家庭、地域、小学校との連携を理解する。 （4）健康管理、安全対策の理解をする。 ４．指導計画と記録 （1）子どもの状況合わせた指導計画案作成を行い部分・責任実習を実践する。 （2）記録に基づく省察・自己評価を通して、課題を見出し、次の実践へ活かす。 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （1）幼稚園教諭の業務内容を理解する。 （2）職員間の役割分担や連携を理解する （3）幼稚園教諭の役割と職業倫理について理解を深める。

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	（1）教育実習演習（事前事後指導）を受け、実習の意義や心構えを理解し、実習課題を設定する。 （2）オリエンテーション等の事前訪問を通して実習先について理解に努める。 （3）教材準備やピアノ練習の事前準備を行う。 （4）自己評価と実習評価を踏まえ自身の課題を明確化する。
テキスト	・草苑保育専門学校 実習センター，2026,『実習の手引き』草苑保育専門学校. ・小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子，2023,『改訂版　幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社. ・小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子，2023,『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社. ・祐成かおり，2025,『2025 年度 教育実習演習 (事前・事後)』草苑保育専門学校.
参考文献	・文部科学省 ,2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ・小山朝子・小櫃智子・井上裕美子・小島好美 ,2024,『教育・保育・施設実習対応　保育の活動・遊びパーフェクトガイド』わかば社 .
学生に対する評価	（1）実習評価 60%(実習施設からの評価) （2）実習態度、実習日誌、提出物 (提出期限、提出物内容) など)40%
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。

開講年次：	1 年次春	選択・必修：	必修	単位数：	1	時間数：	30	授業形態：	演習

科目名	教育実習演習（事前事後指導）※ 1 年次
担当教員	祐成 かおり
授業概要	(1) 幼稚園教諭の役割を理解し、目的意識をもちながらどのような視点や心構えが必要かを学ぶ。 (2) 教育実習Ⅰに向けて書類・日誌の書き方を学ぶ。 (3) 指導計画案・保育技術の理論と実際を体験学習する。
授業の到達目標	(1) 教育実習の意義・内容について理解する。 (2) 教育実習に対する個人目標と基本的な心構えを明確にする。 (3) 実習の流れや準備の仕方を知る。 (4) 実習に関する書類・日誌の書き方、教材の意味を知り、現場で活かす力を付ける。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	オリエンテーション 教育実習Ⅰの目的について
2	幼稚園理解・実習の心構え
3	教育実習の意義・概要
4	観察実習・参加実習のねらいと記録 実習日誌の取り扱いと基本的事項
5	幼稚園見学実習（草苑幼稚園） 実習日誌の実践
6	幼稚園見学実習振り返り 実習日誌の意義と課題
7	保育教材の理論と実際
8	教材を保育に活かす留意点
9	実習課題の立て方
10	個人票の意義・作成
11	指導計画案の意義・作成
12	実習オリエンテーションの準備と心構え
13	模擬保育の実践
14	実習の諸注意と確認
15	実習の振り返りと今後の課題

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・テキスト・配布資料を基に次時授業に対しての予習・教材研究を促し、復習を徹底する。 ・予習復習の課題については添削・フィードバックを行い、実践力に繋げる。
テキスト	・草苑保育専門学校，2026,『実習の手引き』草苑保育専門学校. ・大豆生田啓友 / 編著　渋谷行成 / 編著　鈴木美枝子 / 編著　田澤里喜 / 編著 , 2020,『これからの時代の保育者養成・実習ガイド：学生・養成校・実習園がともに学ぶ』中央法規出版 ・小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子，2023,『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社. ・祐成かおり，2026,『2026 年度 教育実習演習 (事前事後)』草苑保育専門学校.
参考文献	文部科学省，2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.
学生に対する評価	・受講姿勢 50%（授業態度・模擬保育実践状況） ・課題提出物 50% (提出物内容・提出状況) ※事前指導 14 回のうち欠席が 3 分の 1 を超えた者は実習失格とする
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。

開講年次： 2年次春	選択・必修： 必修	単位数： 1	時間数： 30	授業形態： 演習

科目名	教育実習演習（事前事後指導）※2年次
担当教員	祐成 かおり、三田村 千穂
授業概要	(1) 演習を通して教育実習の意義や心構えを実践的に学ぶ。 (2) 教育実習Ⅱに向けて日誌の書き方・指導案の立て方を中心に学ぶ。 (3) 指導計画案の意義について学び、保育実践力を身につける学習を行う。
授業の到達目標	(1) 教育実習Iを踏まえ、理論と実際の結び付きを図り、保育者としての資質を高める。 (2) 幼稚園教諭の職務内容の重要性について把握し、適切に実践できるようになる。 (3) 幼児の発達を把握した上で指導計画案及び実習日誌を適切に作成し、自らの「気づき」を表現できるようになる。 (4) グループワークを通し、教材研究・保育技術の向上に努める。

事業計画

授業回数	授業内容及び計画
1	教育実習の意義・概要／教育実習Ⅱの目的について
2	指導計画案の意義と手順 保育教材の研究
3	活動プレゼンテーション
4	部分実習指導計画立案
5	模擬保育準備
6	模擬保育実践と課題
7	実習日誌について　観察・実践の記録
8	実習日誌について　考察の書き方を知る
9	幼稚園見学実習（草苑幼稚園） 実習日誌の実践
10	実習課題と個人票の意義
11	個人票作成
12	一日の指導計画立案
13	指導計画案・教材の修正
14	実習の諸注意と確認
15	実習の振り返りと今後の課題

定期試験期間における試験	実施しない
事前・事後学習の内容	・テキスト・配布資料を基に次時授業に対しての予習・教材研究を促し、復習を徹底する。 ・予習復習の課題については添削・フィードバックを行い、実践力に繋げる。
テキスト	・草苑保育専門学校 2026 年,『実習の手引き』草苑保育専門学校. ・小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子，2023,『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社.
参考文献	・文部科学省，2018,『幼稚園教育要領解説』フレーベル館. ・小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子，2023,『改訂版　幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』わかば社. ・小山朝子・小櫃智子・井上裕美子・小島好美 ,2024,『教育・保育・施設実習対応　保育の活動・遊びパーフェクトガイド』わかば社 . ・祐成かおり ,2025,『2025 年度 教育実習演習（事前事後）』草苑保育専門学校
学生に対する評価	・受講姿勢 60%（授業態度・グループワーク・プレゼンテーション） ・課題提出物 40%（各種提出物内容・提出状況など） ※事前指導 14 回のうち欠席が 3 分の 1 を超えた者は実習失格とする
実務経験のある教員による授業科目	幼稚園、保育所での実務経験、実習生指導の経験を活かし、実習の意義や心構えについて実践に繋がる授業を行う。

別表1

教育課程（2024年度以前入学生・2025年度以降入学の幼稚園教諭・保育士養成コース）

系列	教科目	授業形態	単位	時間数	必修	選択	告示別表1による必修教科目	告示別表2による選択必修教科目	幼稚園教諭免許を得ようとする場合	保育士資格を得ようとする場合	卒業認定（幼稚園・保育士）	卒業認定（保育士）	1年次時間数	2年次時間数
教養科目	日本国憲法	講義	2	30	●				2	2	2	2	30	
	体育（理論）	講義	1	15	●				1	1	1	1	15	
	体育（実技）	実技	1	45	●				1	1	1	1		45
	外国語コミュニケーションⅠ	演習	1	30	●				1	1	1	1	30	
	外国語コミュニケーションⅡ	演習	1	30	●				1	1	1	1		30
	情報処理	講義	2	30	●				2	2	2	2		30
	キリスト教概論	講義	2	30	●				2	2	2	2	30	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	30	●		●			2	2	2	30	
	教育原理	講義	2	30	●		●		2	2	2	2	30	
	子ども家庭福祉	講義	2	30	●		●			2	2	2	30	
	社会福祉	講義	2	30	●		●			2	2	2	30	
	子ども家庭支援論	講義	2	30	●		●			2	2	2		30
	社会的養護Ⅰ	講義	2	30	●		●			2	2	2	30	
	保育者論	講義	2	30	●		●		2	2	2	2	30	
	保育原理Ⅱ	講義	2	30		●		●						
	教育原理Ⅱ	講義	2	30		●		●						
	地域福祉	講義	2	30	●			●		2	2	2		30
	社会福祉Ⅱ	講義	2	30		●		●						
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	30	●		●		2	2	2	2	30	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	30	●		●			2	2	2	30	
	子どもの理解と援助	演習	1	30	●		●			1	1	1	30	
	子どもの保健	講義	2	30	●		●			2	2	2	30	
	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1	30	●		●			1	1	1		30
	子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1	30	●		●			1	1	1		30
	児童館の機能と運営	講義	2	30		●		●						
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	講義	2	30		●		●						
保育の内容・方法に関する科目	保育・教育課程の意義と編成	講義	2	30	●		●		2	2	2	2		30
	保育内容総論	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	保育内容指導法 健康	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	保育内容指導法 人間関係	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	保育内容指導法 環境	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	保育内容指導法 言葉	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	保育内容指導法 表現	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	子どもの音楽表現	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	子どもの造形表現	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	子どもの身体表現	演習	1	30	●		●		1	1	1	1		30
	保育方法・技術演習Ⅰ	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	保育方法・技術演習Ⅱ	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	30	●		●			2	2	2		30
	乳児保育Ⅱ	演習	1	30	●		●			1	1	1		30
	子どもの健康と安全	演習	1	30	●		●		1	1	1	1	30	
	特別支援保育Ⅰ	演習	1	30	●		●		1	1	1	1		30
	特別支援保育Ⅱ	演習	1	30	●		●		1	1	1	1		30
	社会的養護Ⅱ	演習	1	30	●		●			1	1	1		30
	子育て支援	演習	1	30	●		●			1	1	1		30
	子どもの人間関係	演習	1	30	●			●	1	1	1	1		30
	子どもの環境	演習	1	30	●			●	1	1	1	1	30	
	子どもの言葉	演習	1	30	●			●	1	1	1	1		30
	子ども理解	講義	2	30	●			●	2	2	2	2		30
	子どもの音楽表現Ⅱ	演習	1	30		●		●						
	子どもの造形表現Ⅱ	演習	1	30		●		●						
	子どもの身体表現Ⅱ	演習	1	30		●		●						
	音楽Ⅰ	演習	1	30	●			●		1	1	1	30	
	音楽Ⅱ	演習	1	30	●			●		1	1	1	30	
	音楽Ⅲ	演習	1	30	●			●		1	1	1		30
	音楽Ⅳ	演習	1	30	●			●		1	1	1		30
	保育方法・技術演習Ⅲ	演習	1	30		●		●						
	保育方法・技術演習Ⅳ	演習	1	30		●		●						
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	180	●		●			4	4	4	90	90
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	60	●		●			2	2	2	30	30
	保育実習Ⅱ	実習	2	90		●		●						
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	30		●		●		3	3	3		120
	保育実習Ⅲ	実習	2	90		●		●						
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	30		●		●						
総合演習	保育・教職実践演習Ⅰ	演習	1	30	●		●		1	1	1	1		30
	保育・教職実践演習Ⅱ	演習	1	30	●		●		1	1	1	1		30
保育の独自科目	園芸Ⅰ	演習	1	30	●						1	1		30
	園芸Ⅱ	演習	1	30		●								
	保育・教育相談の基礎と方法	演習	1	30	●				1		1	1		30
	キリスト教保育	講義	2	30	●						2	2		30
	教育社会学	講義	2	30	●				2		2	2		30
	幼児教育研究法	演習	1	30		●								
	自己表現	演習	1	30		●								
	乳幼児心理学	講義	2	30		●								
	臨床心理学	講義	2	30		●								
	保育総合教養	演習	2	60	●						2		30	30
教育実習	教育実習	実習	4	180	●				4		4		90	90
	教育実習演習（事前事後指導）	演習	1	30	●				1		1		15	15
									47	76	89	82	1080	1170

※「保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ」または「保育実習Ⅲ、保育実習指導Ⅲ」いずれかを選択必修。
※選択必修以外の選択科目については卒業要件に含めない。

別表 1-2

幼稚園教諭二種免許状に係る教育課程

施行規則に定める科目区分等			授業科目	授業形態	単位	時間数
科目区分		各課目に含めることが必要な事項				
教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目			日本国憲法	講義	2	30
			体育（理論）	講義	1	15
			体育（実技）	実技	1	45
			外国語コミュニケーションⅠ	演習	1	30
			外国語コミュニケーションⅡ	演習	1	30
			情報処理	講義	2	30
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	子どもの健康と安全	演習	1	30
		人間関係	子どもの人間関係	演習	1	30
		環境	子どもの環境	演習	1	30
		言葉	子どもの言葉	演習	1	30
		表現	子どもの音楽表現	演習	1	30
			子どもの造形表現	演習	1	30
			子どもの身体表現	演習	1	30
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容総論	演習	1	30
			保育内容指導法 健康	演習	1	30
			保育内容指導法 人間関係	演習	1	30
			保育内容指導法 環境	演習	1	30
			保育内容指導法 言葉	演習	1	30
			保育内容指導法 表現	演習	1	30
教育の基礎的理解に関する科目		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	講義	2	30
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	保育者論	講義	2	30
		教育に関する社会的、制度的または経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学	講義	2	30
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学修の過程	保育の心理学	講義	2	30
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援保育Ⅰ	演習	1	30
			特別支援保育Ⅱ	演習	1	30
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	保育・教育課程の意義と編成	講義	2	30
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法・技術演習Ⅰ	演習	1	30
			保育方法・技術演習Ⅱ	演習	1	30
		幼児理解の理論及び方法	子ども理解	講義	2	30
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	保育・教育相談の基礎と方法	演習	1	30
教育実践に関する科目		教育実習	教育実習演習（事前事後指導）	演習	1	30
			教育実習	実習	4	180
		教職実践演習	保育・教職実践演習Ⅰ	演習	1	30
			保育・教職実践演習Ⅱ	演習	1	30
大学が独自に設定する科目			キリスト教概論	講義	2	30
					47	1200

教育課程（保育士養成コース）

系列	教科目	授業形態	単位	時間数	必修	選択	告示別表1による必修教科目	告示別表2による選択必修教科目	卒業認定（保育士）	1年次時間数	2年次時間数
教養科目	日本国憲法	講義	2	30		●					
	体育（理論）	講義	2	30	●				2	30	
	体育（実技）	実技	1	45	●				1		45
	外国語コミュニケーションⅠ	演習	1	30	●				1	30	
	外国語コミュニケーションⅡ	演習	1	30	●				1		30
	情報処理	講義	2	30		●					
	キリスト教概論	講義	2	30	●				2	30	
	保育ゼミⅠ	講義	2	30	●				2	30	
	保育ゼミⅡ	講義	2	30	●				2		30
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	30	●		●		2	30	
	教育原理	講義	2	30	●		●		2	30	
	子ども家庭福祉	講義	2	30	●		●		2	30	
	社会福祉	講義	2	30	●		●		2	30	
	子ども家庭支援論	講義	2	30	●		●		2		30
	社会的養護Ⅰ	講義	2	30	●		●		2	30	
	保育者論	講義	2	30	●		●		2	30	
	地域福祉	講義	2	30		●		●			
	キリスト教保育	講義	2	30	●			●	2		30
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	30	●		●		2	30	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	30	●		●		2	30	
	子どもの理解と援助	演習	1	30	●		●		1	30	
	子どもの保健	講義	2	30	●		●		2	30	
	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1	30	●		●		1		30
	子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1	30	●		●		1		30
	児童館の機能と運営	講義	2	30		●		●			
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	講義	2	30		●		●			
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	30	●		●		2		30
	保育内容総論	演習	1	30	●		●		1	30	
	保育内容演習 健康	演習	1	30	●		●		1	30	
	保育内容演習人間関係	演習	1	30	●		●		1	30	
	保育内容演習 環境	演習	1	30	●		●		1	30	
	保育内容演習 言葉	演習	1	30	●		●		1	30	
	保育内容演習 表現	演習	1	30	●		●		1	30	
	子どもの音楽表現	演習	1	30	●		●		1	30	
	子どもの造形表現	演習	1	30	●		●		1	30	
	子どもの身体表現	演習	1	30	●		●		1		30
	保育方法・技術演習Ⅰ	演習	1	30	●		●		1	30	
	保育方法・技術演習Ⅱ	演習	1	30	●			●	1	30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	30	●		●		2		30
	乳児保育Ⅱ	演習	1	30	●		●		1		30
	子どもの健康と安全	演習	1	30	●		●		1	30	
	障害児保育Ⅰ	演習	1	30	●		●		1		30
	障害児保育Ⅱ	演習	1	30	●		●		1		30
	社会的養護Ⅱ	演習	1	30	●		●		1		30
	子育て支援	演習	1	30	●		●		1		30
	子どもの人間関係	演習	1	30		●		●			
	子どもの環境	演習	1	30		●		●			
	子どもの言葉	演習	1	30		●		●			
	子どもの造形表現Ⅱ	演習	1	30		●		●			
	音楽Ⅰ	演習	1	30	●			●	1	30	
	音楽Ⅱ	演習	1	30	●			●	1		30
	音楽Ⅲ	演習	1	30		●		●			
	音楽Ⅳ	演習	1	30		●		●			
	園芸Ⅰ	演習	1	30	●			●	1		30
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	180	●		●		4	90	90
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	60	●		●		2	30	30
	保育実習Ⅱ	実習	2	90		●		●	3		120
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	30		●		●			
	保育実習Ⅲ	実習	2	90		●		●			
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	30		●		●			
総合演習	保育実践演習Ⅰ	演習	1	30	●		●		1		30
	保育実践演習Ⅱ	演習	1	30	●		●		1		30
	保育総合教養	演習	4	120		●					
									73	900	825

※「保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ」または「保育実習Ⅲ、保育実習指導Ⅲ」いずれかを選択必修。
※本科生は「保育総合教養」を必修とする。
※その他選択科目については卒業要件に含めない。